

## 第二回

# 学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査 報告書

日本私立大学協会付置 私学高等教育研究所 プロジェクト  
「私学学士課程教育における“学士力”育成のためのプログラムと評価」

2011年8月

## 目次

緒言（濱名 篤）	3
第一章 「Ⅰ. 学科の現状」（井上加寿子）	5
第二章 「Ⅱ. 教育・学習目標の設定」（吉田武大）	15
第三章 「Ⅲ. 教育プログラムの設計」（小島佐恵子）	22
第四章 「Ⅳ. 教育プログラムの実施」（葛城浩一）	31
第五章 「Ⅴ. 学習成果の把握・評価」（串本 剛）	36
第六章 「Ⅵ. 取り組み状況への認識」（吉原恵子）	42
第七章 「Ⅶ. 改革動向への考えと学士課程教育のイメージ」（山田礼子）	54
第八章 「Ⅷ. カリキュラムの今後」（杉谷祐美子）	58
付録 A 質問紙調査票	71
付録 B 有効回答分布一覧表	79

## 緒言：「第二回 学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査」報告書

2008年12月に中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」が出されたのを受けて、現在我が国の大学関係者にとっては、学士課程教育の在り方が課題とされております。このような中、日本私立大学協会付置私学高等教育研究所では、2009年度より、それぞれ特徴と個性を持った私立大学が、どのようにして学士という学位にふさわしい教育プログラムを開発し、その学習成果を証明すべく評価に取り組んでいるのかを調査し、各大学の今後の教育活動に資するものとなるよう研究するプロジェクトをおいて検討して参りました。

2010年8～9月には、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室のご理解ご支援を頂き、国公立大学の学士課程教育の構築に向けた取り組みを明らかにすべく、教育の実践単位としての学科レベルに注目してこのアンケート調査を実施いたしました。日頃、学科長の皆さんが、どのように学士課程教育の構築について考えておられ、実際に学生の学士課程の卒業をどのような仕組みで認定しておられるのかなど、教育改革の状況に関しての教育現場の実態を把握し、どのように改革が進み、どのような課題に直面しているのかといった現実の課題を捉えるには、大学や学部という単位より小さい、教育の最小単位である学科レベルを対象とすることが適していると考えた次第です。

専門分野や設置形態等の特性も含めて分析した結果、学士課程教育の在り方を考えるにあたり、全体をひとくくりにすることが困難であり、専門分野による違いの大きさや組織特性による違いの概観がみえて参りました。

今回はその成果の要約をWEBに掲載することにしました。私立大学はもとより、国公立大学をはじめ広く高等教育関係者にご活用いただければ幸いです。

ご協力を頂きました、学科長の皆さまにこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

2011年8月

日本私立大学協会付置 私学高等教育研究所

「私学学士課程教育における”学士力”育成のためのプログラムと評価」

プロジェクト代表・研究員 濱名 篤

研究員：川嶋太津夫

小杉礼子

杉谷祐美子

山田礼子

研究協力者：井上加寿子

角方正幸

串本剛(編集担当)

葛城浩一

小島佐恵子

松村直樹

杉本和弘

吉田武大

吉原恵子

## 調査概要

### 1. 調査名

第2回 学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査

### 2. 調査期間

2010年9月～2010年10月 (督促調査2010年12月～2011年1月)

### 3. 調査対象

調査対象：全国の大学における人文科学系 698 学科、社会科学系 824 学科、理学系 264 学科、工学系 310 学科、保健系 152 学科、教育系 230 学科、家政系 151 学科の計 2629 学科（ただし、夜間の定員をもつ学科、学生募集を停止した学科は除く）。『平成 21 年度全国大学一覧』を台帳として、人文・社会・理学・工学については第 1 回調査で対象とならなかった学科および未回答の学科、その他の専門分野については全学科を対象とした（保健系については国家試験に関連すると思われる分野に限った）。

### 4. 回収状況

下表のとおり。

図表 0-1 分野別回収状況

	人文科学	社会科学	教育	理学	工学	保健	家政	合計
発送数	698	824	230	264	310	152	151	2629
回収数	115	163	83	65	114	109	37	733
回収率	16.5%	19.8%	36.1%	24.6%	34.5%	71.7%	24.5%	27.9%

## 第一章 「I. 学科の現状」

井上 加寿子（関西国際大学）

第一章「I. 学科の現状」では、学科の現状および大学の学生支援体制についての分析を行った。学科の現状は、学科の意思決定、学生数、大学教育の評価の3点について6項目の設問を設定し、それぞれの設問について5年程度前と現状との比較という観点から尋ねた。大学の学生支援体制では、各大学の全学レベルでの学生に対する支援体制について、学習支援、就職支援、メンタルケア、学生による学生支援という4つの設問を設定し、それぞれについての現状認識を尋ねた。その結果、全体的には学科の意思決定における全学・学部の影響力は強まり、大学教育の評価は高まり、大学の学生支援体制は充実している傾向にある一方で、学生数は減少傾向にあることが明らかになった。属性別の分析では、私立大学や学力が低めの学科において顕著に学生数が減少傾向にあるが、一方で就職支援体制が充実していること、学力が高めの学科や教育系の学科において教育に対する学生の満足度や学生の卒業後の就職先での評判が高いこと、国立大学や工学系の学科において学習支援体制が充実していることなどが明らかになった。

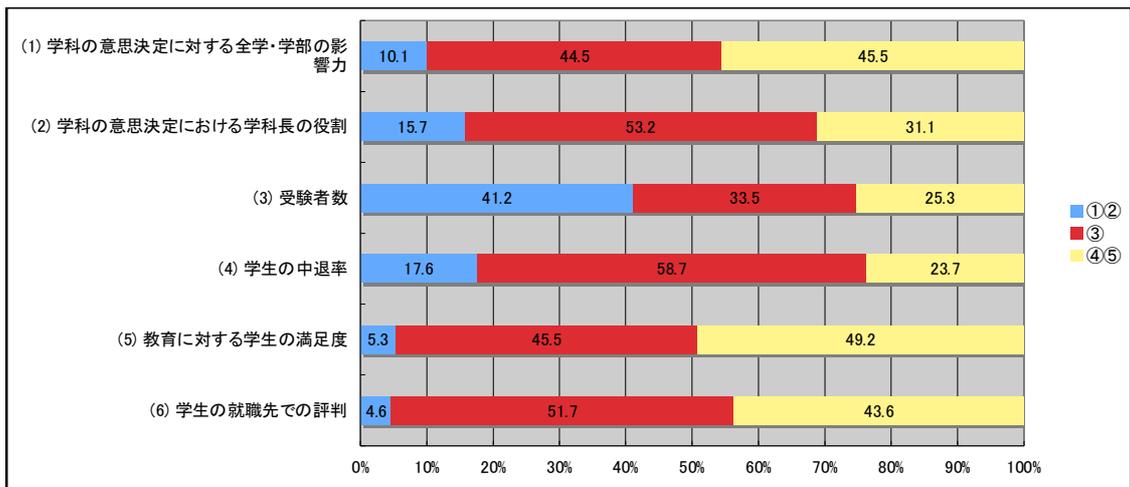
### 1. 本章の構成

本章では、大学・学科の現状を問う「I-A. 学科の現状」および「I-B. 大学の学生支援体制」の設問について分析を行う。「学科の現状」では、学科の意思決定、学生数、大学教育の評価の3点について6項目の設問を設定し、それぞれについて5年程度前と現状との比較という観点から尋ねた。「大学の学生支援体制」では、各大学の全学レベルでの学生に対する支援体制について、学習支援、就職支援、メンタルケア、学生による学生支援という4つの設問を設定し、それぞれについての現状認識を尋ねた。各節では、回答の全体的な傾向を確認した上で、大学の設置形態（国立、公立、私立）、学科属性（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、学力（所属学生の学力に対する回答者の認識）をふまえた分析結果のうち、特に目立った傾向が見られた点を中心に言及し、学科の現状について述べる。

### 2. 学科の現状

#### 全体の傾向

「I-A. 学科の現状」では、学科の意思決定、学生数、大学教育の評価の3点について6項目の設問を設定し、それぞれの設問について5年程度前と現状との比較という観点から尋ねた。設問は、学科の意思決定については全学や学部の影響力および学科長の役割を問うもの（I-A(1)、I-A(2)）、学生数については受験者数および中退率を問うもの（I-A(3)、I-A(4)）、大学教育の評価については学生の教育に対する満足度および卒業後の就職先での評判を問



図表 1-1 学科の現状（全体）

うもの (I-A(5)、I-A(6)) の 6 つで、それぞれについて「①弱まって／小さくなって／減少して／悪化して／低下している」から「⑤強まって／大きくなって／増加して／改善して／高まっている」および「⑥分からない」の 6 つのうち、最も当てはまるものをいずれか 1 つ回答してもらった。図表 1-1 は、I-A(1)～(6)の設問に対する回答のうち、「⑥分からない」を除く①～⑤について、①と②の合計の割合、③の割合、④と⑤の合計の割合を図示したものである。

まず、学科の意志決定に関する設問では、「(1)学科の意志決定に対する全学・学部の影響力」については、「③変化なし」が 44.5%であるが、「④⑤強まっている」が 45.5%とそれを上回る高い割合を示している。その一方で、「①②弱まっている」は 10.1%にすぎないことから、学科の意思決定における全学・学部の学科に対する影響力は強まってきているととらえられる。「(2)学科の意志決定における学科長の役割」については、「③変化なし」が 53.2%と過半数を占めている。しかし、31.1%と全体の 3 割以上が「④⑤大きくなっている」と回答しており、反対に、「①②小さくなっている」は 15.7%と少数であることから、学科長の役割は大きな変化は見られていないが、ゆるやかに強まりつつある傾向にあることがうかがえる。

次に、学生数に関する設問では、「(3)受験者数」については、「④⑤増加している」が 25.3%、「③変化なし」が 33.5%であるのに対し、「①②減少している」が 41.2%と高い割合を示していることから、受験者数は全体的に減少傾向にあるといえる。「(4)中退率」については、「①②悪化している」は 17.6%であるのに対し、「④⑤改善している」は 23.7%とそれを上回る割合を示しているが、58.7%と全体の 6 割近くが「③変化なし」と回答していることから、近年大きな変化は見られていないようである。

そして、大学教育の評価に関する設問では、「(5)教育に対する学生の満足度」については、49.2%と全体の半数近くが「④⑤高まっている」と回答しており、「①②低下している」は 5.3%と非常に少数にとどまっていることから、教育に対する学生の満足度は顕著に高まってきているととらえられる。「(6)学生の卒業後の就職先での評判」については、「③変化なし」が 51.7%と最も高い割合を占めるが、「④⑤高まっている」が 43.6%とそれに匹敵するほどに高い割合を示している。そして、「①②低下している」は 4.5%とほとんど見られないこ

とから、学生の卒業後の就職先での評判は大きな変化は見られていないが、高まりつつあるととらえられる。

以上から、学科の現状に関する全体の傾向として、5年程度前と比較して学科の意志決定における全学・学部の影響力や学科長の役割は強まっており、学生数は減少、大学教育の評価は高まってきている傾向にあるといえる。

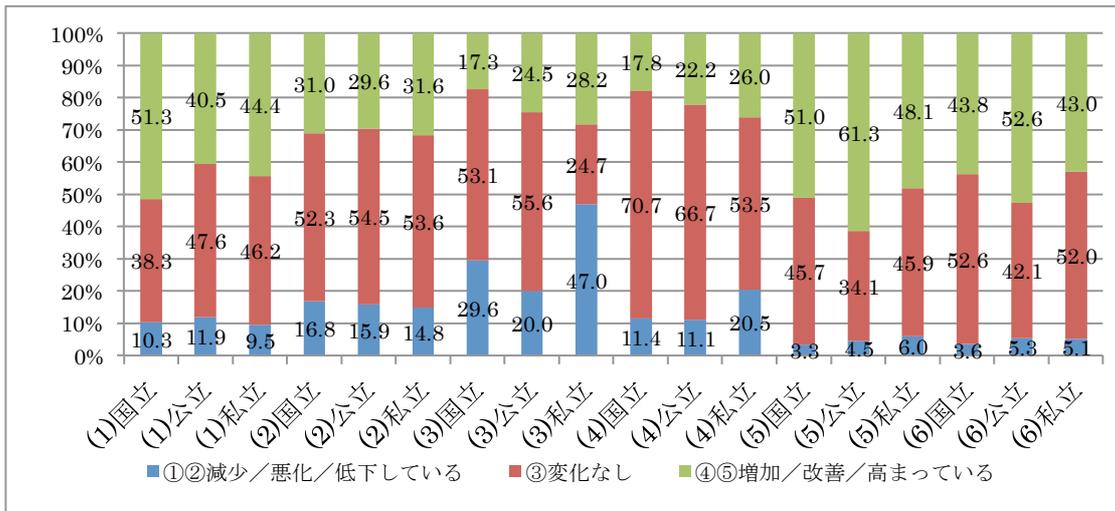
### 設置形態による相違

次に、こうした全体の傾向について、国立、公立、私立という大学の設置形態による相違を見ていく。I-A(1)～(6)の設問について、設置形態別に回答の割合を示したものが図表1-2である。まず、「(1)学科の意志決定に対する全学・学部の影響力」について、設置形態別に回答の割合を見てみると、公立(40.5%)や私立(44.4%)に比べ国立では過半数(51.3%)が影響力が強まっていると回答している。このことから、全体的には全学・学部の学科に対する影響力は強まってきている傾向にあるが、公立・私立ではその傾向は強くなく、特に国立において顕著に全学・学部の学科に対する影響力は強まってきていることがうかがえる。「(2)学科の意志決定における学科長の役割」については、全体的には大きな変化が見られない傾向にあるが、国公立いずれの設置形態においても同様の傾向にある。

「(3)受験者数」については、全体的には減少傾向にあるが、設置形態別には、国立(29.6%)や公立(20.0%)に比べ私立(47.0%)において減少傾向が強いことがわかる。一方で、公立においては、変化していないという回答(55.6%)が最も多く、また、受験者数が増加している(24.5%)という回答が減少している(20.0%)という回答を上回っていることから、国立・私立に比べ受験者数はゆるやかに増加傾向にあることがうかがえる。

「(4)中退率」については、全体的には大きな変化は見られておらず、設置形態別に見ても同様の傾向にある。ただし、中退率が変化していないという回答は、私立(53.5%)では5割程度であるのに対し、公立(66.7%)では6割以上、国立(70.7%)では7割以上と非常に高い割合を示していることから、特に国立においては近年中退率に大きな変動がないことがうかがえる。また、国立、公立、私立のいずれにおいても、中退率が改善しているという回答が悪化しているという回答を上回っている点も全体的な傾向と同様である。中退率が改善しているという回答は、国立(17.8%)、公立(22.2%)に比べ私立(26.0%)において多いが、それと中退率が同時に悪化しているという回答も国立(11.4%)、公立(11.1%)に比べ私立(20.5%)において多い。このように、私立においては、中退率の改善(26.0%)と悪化(20.5%)が国公立と比べ高い割合で見られることから、中退率の改善している大学と悪化している大学に二極化が進んでいる可能性も考えられる。

「(5)教育に対する学生の満足度」、「(6)学生の卒業後の就職先での評判」については、いずれも全体的に顕著に高まってきている傾向にあるが、こうした傾向は設置形態によらず共通して見られるようである。以上から、設置形態別には、特に国立において学科の意志決定における全学・学部の影響力は強まってきており、私立は国公立に比べ学生数の減少傾向が顕著であるといえる。



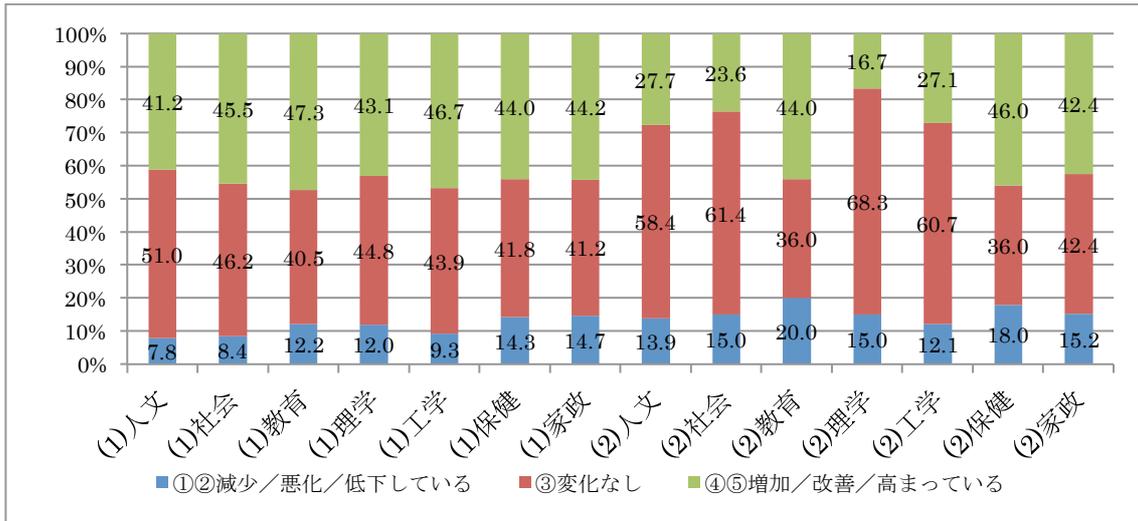
図表 1-2 学科の現状（設置形態別）

### 学科属性による相違

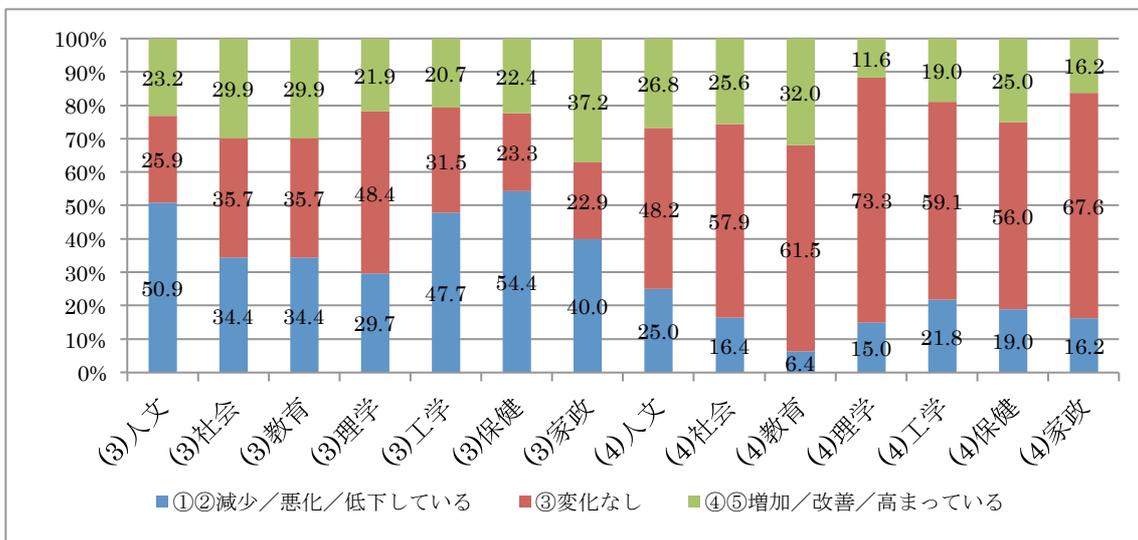
つづいて、学科の現状について、人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政といった学科属性による相違を見ていく。I-A(1)～(6)の設問について、学科属性別に回答の割合を示したものが図表 1-3～図表 1-5 である。図表 1-3 に示すように、「(1)学科の意志決定に関する全学・学部の影響力」については、いずれの学科においても全体の傾向と同様影響力が弱まっているという回答が 1 割前後と最も少なく、変化していないという回答と強まっているという回答が 8～9 割を占める。中でも、教育（47.3%）や工学（46.7%）において学科の意志決定に関する全学・学部の影響力が高い傾向にあるようである。「(2)学科の意志決定における学科長の役割」については、理学（68.3%）や工学（60.7%）、社会（61.4%）、人文（58.4%）などの学科においては、全体の傾向同様、学科長の役割は変化していないという回答が高い割合で見られる。一方で、保健（46.0%）、教育（44.0%）、家政（42.4%）などの学科においては、学科長の役割が大きくなっているという回答が目立つ。

「(3)受験者数」については、全体的に減少傾向にあるが、図表 1-4 に示すように、保健（54.4%）、人文（50.9%）、工学（47.7%）においては過半数が減少していると回答しており、中でもその傾向が顕著である。「(4)中退率」については、全体的には大きな変化は見られていないが、いずれの学科属性においても全体の傾向と同様変化していないという回答が最も高い割合で見られる。中退率の改善・悪化については、改善しているという回答は教育（32.0%）で最も多く、悪化しているという回答は人文（25.0%）で最も多い。また、人文、社会、教育、保健では改善が悪化を上回っていることから改善傾向が、理学、工学では悪化が改善を上回っていることから悪化傾向がうかがえる。家政では改善・悪化が同程度見られる。

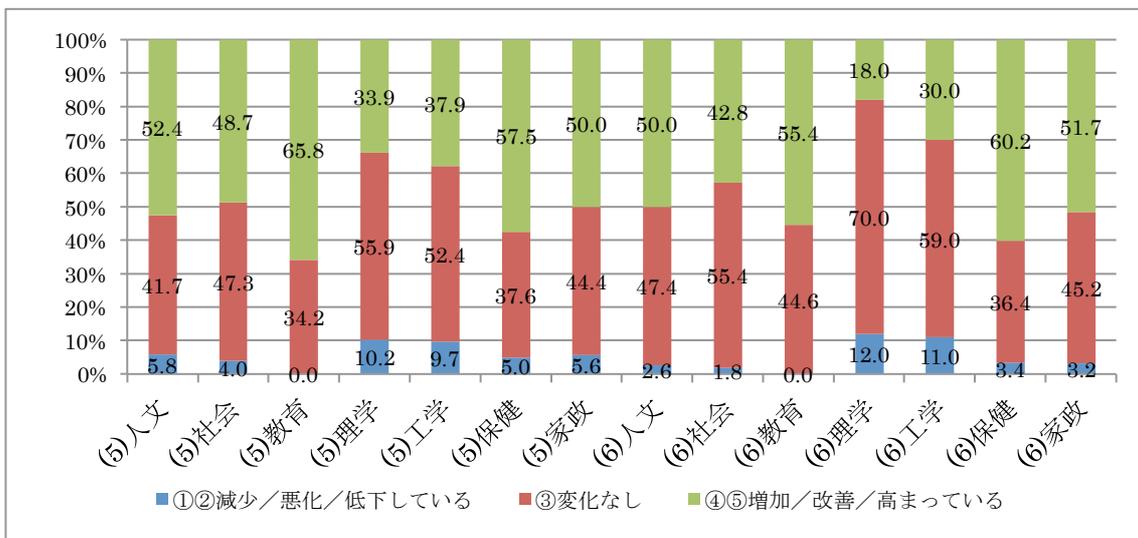
「(5)教育に対する学生の満足度」については、全体的に顕著に高まってきている傾向にあるが、図表 1-5 に示すように、中でも、教育（65.8%）、保健（57.5%）、人文（52.4%）において満足度が高まっているという回答が顕著に見られる。また、「(6)学生の卒業後の就職先での評判」については、全体的には大きな変化は見られていないが、中でも理学（70.0%）、工学（59.0%）、社会（55.4%）においてその傾向が強い。一方で、保健（60.2%）、教育（55.4%）、家政（51.7%）、人文（50.0%）においては就職先での評判が高まっているという回答が高



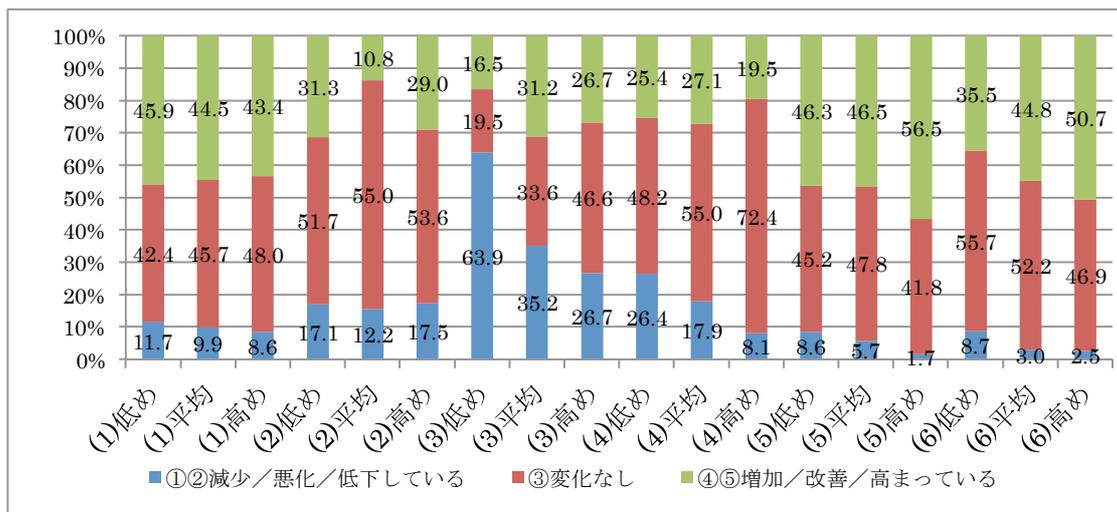
図表 1-3 学科の現状(1)(2) (学科の意思決定関連事項・学科属性別)



図表 1-4 学科の現状(3)(4) (学生数関連事項・学科属性別)



図表 1-5 学科の現状(5)(6) (大学教育の評価関連事項・学科属性別)



図表 1-6 学科の現状（学力別）

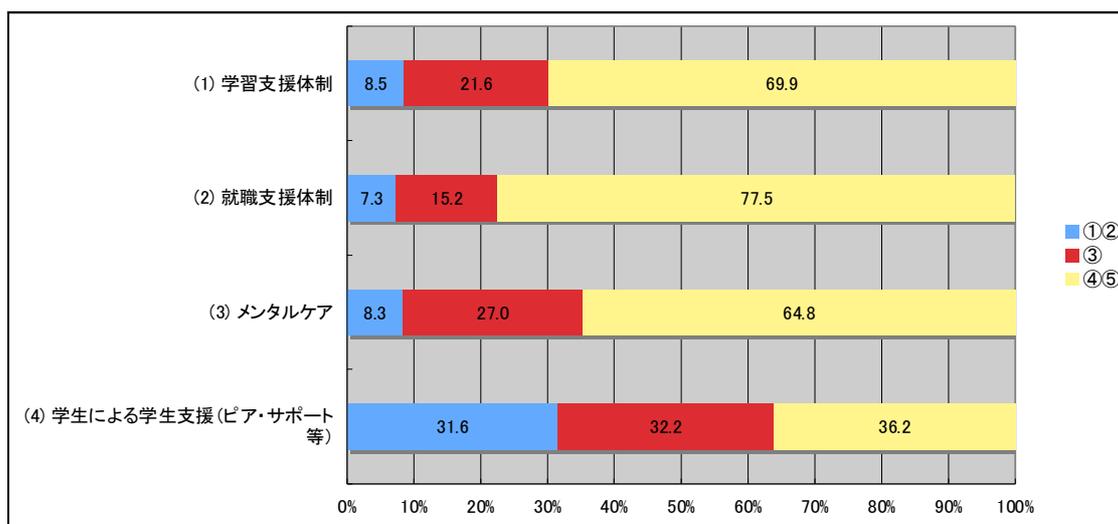
い割合で見られる。

以上から、学科属性別には、特に教育系の学科において学科の意志決定における全学・学部の影響力や学科長の役割は大きくなってきており、人文系の学科において受験者数が減少しかつ中退率が悪化している傾向にあるといえる。また、教育に対する学生の満足度や学生の卒業後の就職先での評判は、教育系や保健系の学科において高いが、理工系の学科においては比較的低いといえる。

### 学力別

そして、学科の現状について、学科の所属学生の学力による相違を見ていく。I-A(1)～(6)の設問について、学力別に回答の割合を示したものが図表 1-6 である。全体の傾向としては、「(1)学科の意志決定に関する全学・学部の影響力」は強まってきており、「(2)学科の意志決定における学科長の役割」および「(4)中退率」については大きな変化が見られないことはすでにふれたとおりであるが、図表 1-6 に示すように、学力別でも同様の傾向が見てとれる。しかし、「(3)受験者数」については、全体的には減少傾向にあるが、学力別には、回答者により所属学生の学力が低めと回答された学科の実に 63.9%が受験者数が減少していると回答している。その一方で、学力が高めの学科においては 46.6%が受験者数に変化が見られないと回答していることから、受験者数の減少は特に学力が低めの大学において顕著であることがわかる。

「(5)教育に対する学生の満足度」については、全体的には顕著に高まってきている傾向にあるが、学力別には、満足度が高まっていると回答したのは、学力が低めの学科では 46.3%、平均の学科では 46.5%、高めの学科では 56.5%であり、学力が高めの学科の方がより満足度が高いといえる。「(6)学生の卒業後の就職先での評判」についても同様に、学力が低め（35.5%）、平均（44.8%）の学科に比べ、高め（50.7%）の学科において、評判が高まっているという回答の割合が高くなることから、学力が低めの学科に比べ、高めの学科の方が、教育に対する学生の満足度や学生の卒業後の就職先での評判が高い傾向にあることがわかる。以上から、学力別には、学力が低めの学科においてより受験者数の減少が著しく、学力が高めの大学においてより教育に対する学生の満足度や学生の卒業後の就職先での評判が高い傾向にあるといえる。



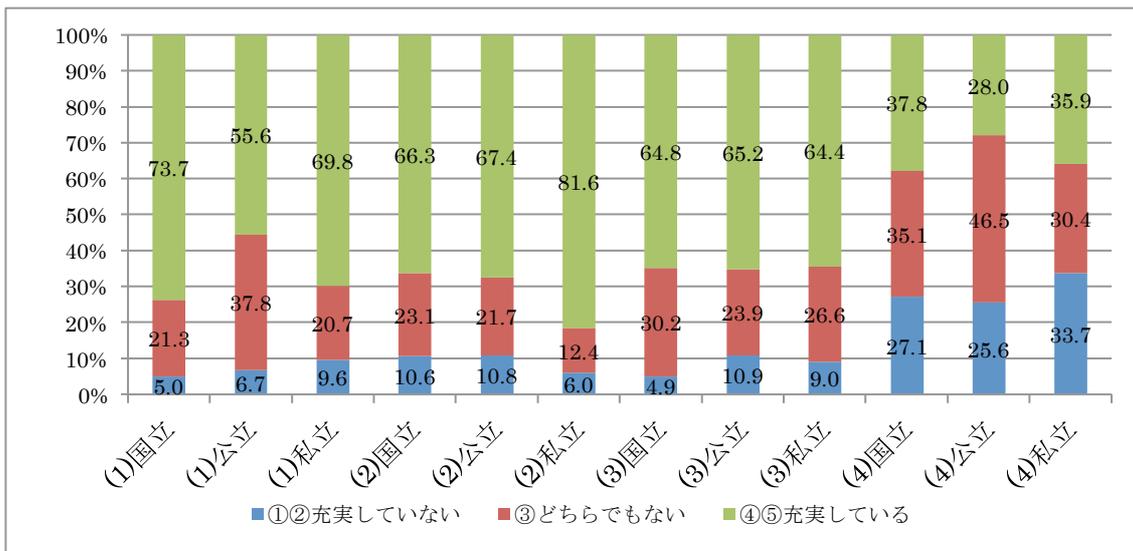
図表 1-7 大学の学生支援体制（全体）

### 3. 大学の学生支援体制

#### 全体の傾向

「I-B. 大学の学生支援体制」では、各大学の全学レベルでの学生に対する支援体制について、学習支援（I-B(1)）、就職支援（I-B(2)）、メンタルケア（I-B(3)）、ピア・サポート等の学生による学生支援（I-B(4)）という4つの設問を設定し、それぞれ「①充実していない」から「⑤充実している」、および「⑥分からない」の6つのうち、最も当てはまるものをいずれか1つ回答してもらった。図表 1-7 は、第 2 節と同様、I-B(1)～(4) の設問に対する回答のうち、「⑥分からない」を除く①～⑤について、①と②の合計の割合、③の割合、④と⑤の合計の割合を図示したものである。

これによると、いずれの設問においても、「④⑤充実している」が最も高い割合を占めていることから、(1)～(4)のいずれの学生支援体制についても全体的に充実していることがわかる。特に、「(2)就職支援体制」については、全体の77.5%が「④⑤充実している」と回答しており、その一方で「①②充実していない」という回答は7.3%と非常に少数である。このことから、学習支援体制やメンタルケア、ピア・サポート等と比べると、就職支援体制がより充実していることがうかがえる。ただし、「(4)学生による学生支援」については、「①②充実していない」、「③どちらでもない」、「④⑤充実している」の回答が同程度ずつ見られる。



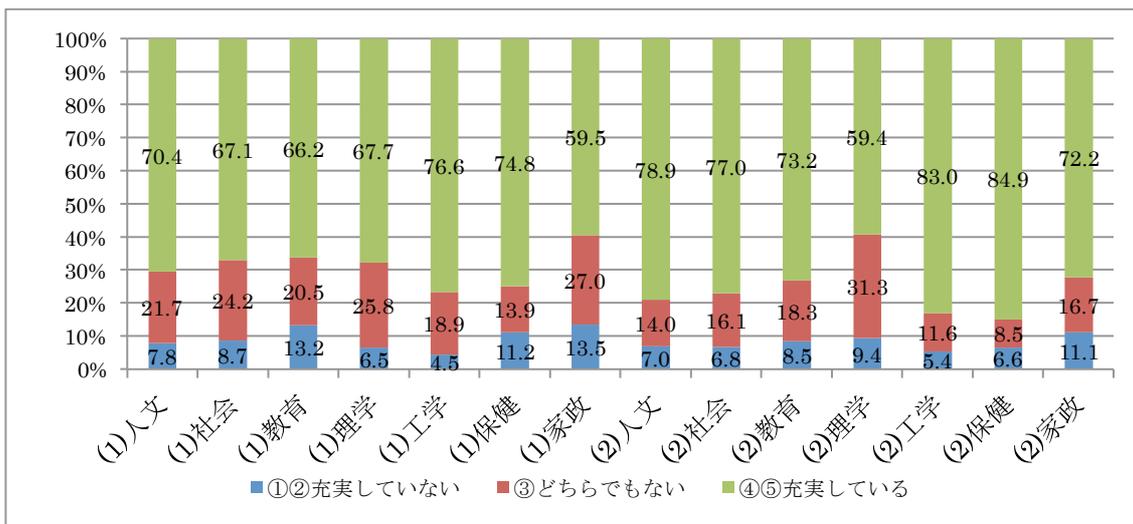
図表 1-8 大学の学生支援体制（設置形態別）

#### 設置形態別

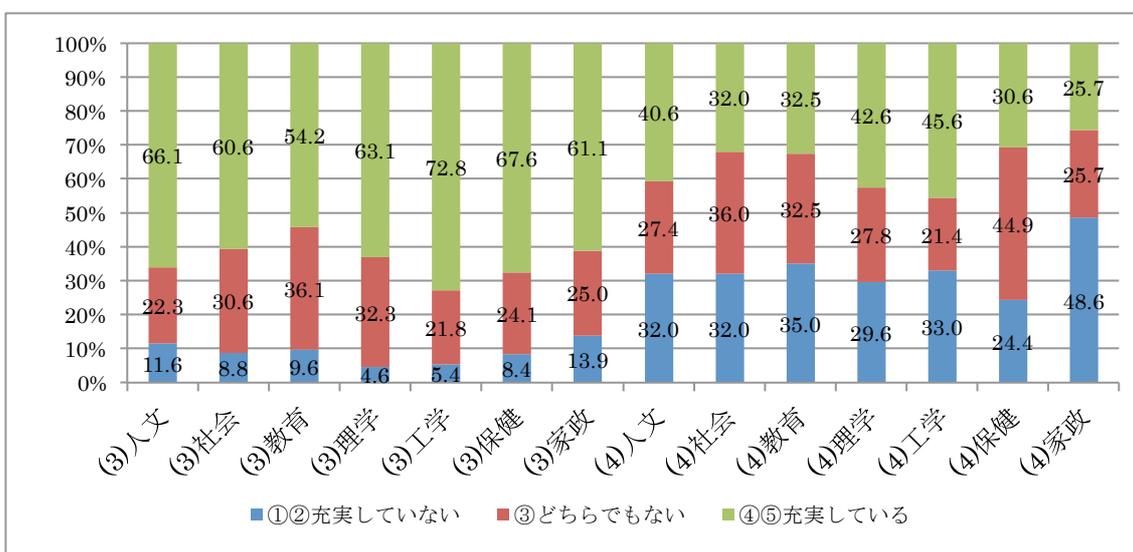
I-B(1)～(4)の設問について、設置形態別に回答の割合を示したものが図表 1-8 である。これによると、「(1)学習支援体制」については特に国立（73.7%）において、「(2)就職支援体制」については特に私立（81.6%）において、体制が充実しているという回答が高い割合で見られる。他方、「(3)メンタルケア」については、設置形態の別による大きな差異は見られず、国公私立のいずれにおいても全体の傾向と同様充実しているという回答が最も多い。「(4)学生による学生支援」についても同様で、全体の傾向と同様、「①②充実していない」、「③どちらでもない」、「④⑤充実している」の回答が同程度の割合を示している。以上から、学生支援体制は全体的に充実しているが、設置形態別には、学習支援体制については国立、就職支援体制については私立においてより充実している傾向にあるといえる。

#### 学科属性による相違

I-B(1)～(4)の設問について、学科属性別に回答の割合を示したものが図表 1-9 および図表 1-10 である。全体的に学生支援体制は充実している傾向にあるが、学科属性別に見てみると、「(1)学習支援体制」については、工学（76.6%）、保健（74.8%）、人文（70.4%）、「(2)就職支援」については、保健（84.9%）、工学（83.0%）、人文（78.9%）、「(3)メンタルケア」については工学（72.8%）、保健（67.6%）、人文（66.1%）、「(4)学生による学生支援」については、工学（45.6%）理学（42.6%）、人文（40.6%）において、充実しているという回答が高い割合で見られる。一方で、学生支援体制が充実していないという回答は、(1)～(4)のいずれの設問についても、家政において最も高い割合を示しており（(1)13.5%、(2)11.1%、(3)13.9%、(4)48.6%）、中でも学生による学生支援は充実していないという回答が半数近くにのぼる（48.6%）。以上から、学生支援体制は、特に工学系の学科において充実しており、家政系の学科において充実していない傾向にあるといえる。



図表 1-9 大学の学生支援体制(1)(2) (学科属性別)

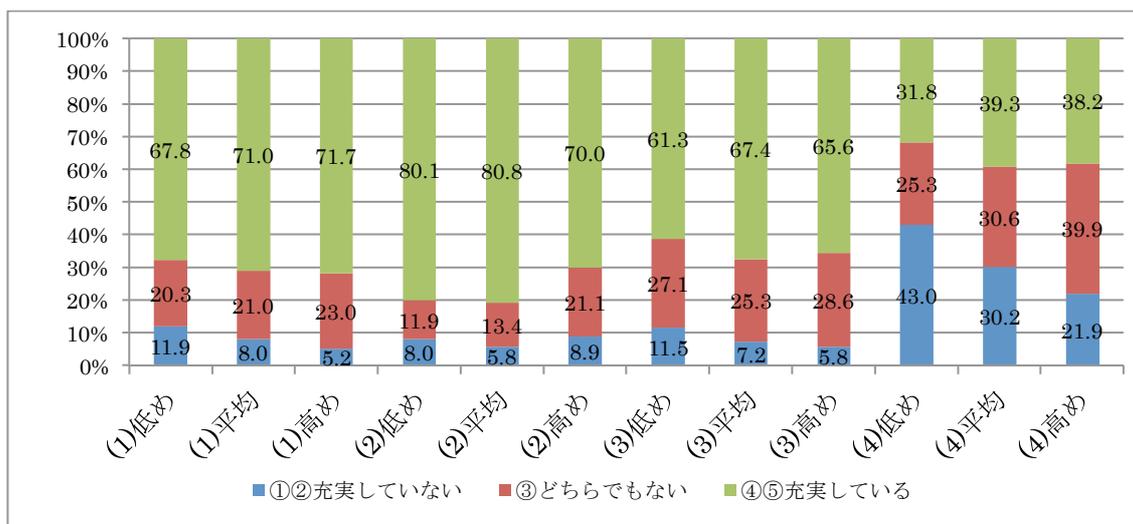


図表 1-10 大学の学生支援体制(3)(4) (学科属性別)

### 学力別

I-B(1)~(4)の設問について、学力別に回答の割合を示したものが図表 1-11 である。学力別に見てみると、「(1)学習支援体制」については、学力が低めの学科の 67.8%、平均の学科の 71.0%、高めの学科の 71.7%が充実していると回答していることから、学力が高めの学科において学習支援体制がより充実しているということがうかがえる。一方で、「(2)就職支援体制」については、充実していると回答したのは学力が高めの学科では 70.0%であるが、低めの学科では 80.1%、平均の学科では 80.8%とそれを上回る割合を示している。

「(3)メンタルケア」については、全体の傾向と同様、いずれの学力の学科においても、「④⑤充実している」が 6 割以上と最も多く、「③どちらでもない」がそれに次ぎ、「①②充実していない」が最も少ない。「(4)学生による学生支援」については、全体的には回答にばらつきが見られたが、学力が平均の学科においては充実しているという回答が (39.3%)、学力が高めの学科においてはどちらでもないという回答が (39.9%)、学力が低めの学科においては充実していないという回答が (43.0%)、それぞれ最も高い割合で見られる。



図表 1-11 大学の学生支援体制（学力別）

以上から、学力別には、学習支援体制は学力が高めの学科においてより充実しているが、就職支援体制は学力が低めの学科の方がより充実しているといえる。また、学生による学生支援は、学力が低めの学科においては充実していない傾向にあるといえる。

#### 4. まとめ

以上、本章では、学科の現状と大学の学生支援体制について分析を行った。学科の現状については、全体の傾向として、学科の意志決定における全学・学部の影響力は強まり、学生数は減少し、大学教育の評価は高まってきていることが明らかになった。とりわけ、国立大学や教育系の学科において学科の意志決定における全学・学部の影響力は強まってきており、私立大学や学力が低めの学科、人文系の学科においては顕著に学生数が減少傾向にあり、学力が高めの学科や教育系の学科において、教育に対する学生の満足度や学生の卒業後の就職先での評判が高まってきている傾向にあることがわかった。大学の学生支援体制については、全体的に充実しているが、学習支援体制については国立大学や工学系の学科において、就職支援体制については私立大学や学力が低めの学科において、メンタルケアについては工学系の学科において、より充実している傾向にあることが明らかになった。

## 第二章 「Ⅱ. 教育・学習目標の設定と内容」

吉田武大（関西国際大学）

学士課程教育段階の教育・学習目標をどのように策定していくかは、ディプロマポリシー一等に対する関心の高まりに伴って重要な課題となりつつある。そこで本調査では、学部と学科の教育・学習目標の記述様式や設定はどのようになっているのか、また、学科の教育・学習目標の内容にはどのようなものが含まれるのかを明らかにした。

全体として、①学部と学科のいずれにおいても、学習者の立場から教育・学習目標を定義するケースが多い、②教育・学習目標の設定手続きについて、学部の場合は学部で独自に検討・決定が、学科の場合は、学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定が、それぞれ最も高い割合で実施されている、③専門分野に特有の知識の修得、専門分野に特有の考え方・ものの見方の修得に関する教育・学習目標を掲げている学科がそれぞれ 8 割程となっている、等の点が指摘できる。

なお私立大学の特徴としては、学部の教育・学習目標を学部で独自に検討・決定する割合が国公立大学に比して若干低いこと、学科の教育・学習目標を学科で独自に検討・決定する割合が国立大学よりも低いこと、教育・学習目標の内容として専門的職業人になるための資格や免許等の取得と人格的な成長を挙げる場合が多いことなどが分かった。

### 1. 本章の構成

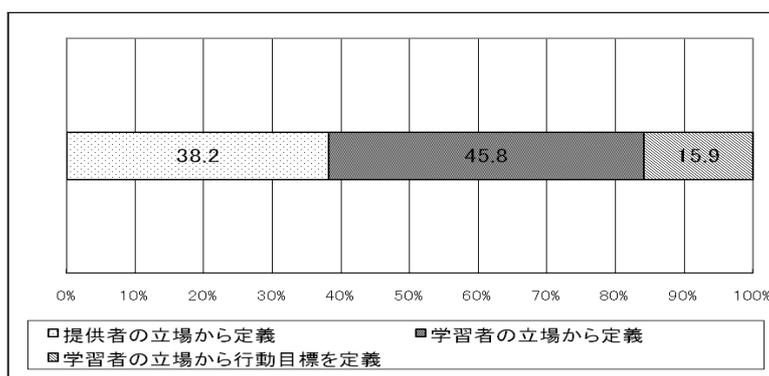
本章では、教育・学習目標の設定に関する改革の現状（設問Ⅱ-A）と教育・学習目標の内容（設問Ⅱ-B）に対する回答を、2つの節に分けて分析する。各節では、全体的な傾向を把握した後、設置形態（国立、公立、私立）、専門分野（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、学力（所属学生の学力に関する回答者の認識）、大学規模（単科、中規模、大規模（5学部以上））の4つの学科属性を考慮した分析結果のうち、カイ二乗検定によって有意差のあったものを取り上げ、教育・学習目標の設定と内容の特徴を述べていくこととする。

### 2. 教育・学習目標の設定

#### 2-1. 「(2) 学部の教育・学習の記述様式として、最も近いものを教えて下さい」

##### 全体の傾向

図表1のように、学習者の立場から定義の割合が最も高く、提供者の立場から定義がそれに続いている。学習者の立場から行動目標を定義の割合は最も低い。



図表 1.学部の教育・学習目標の設定手続き

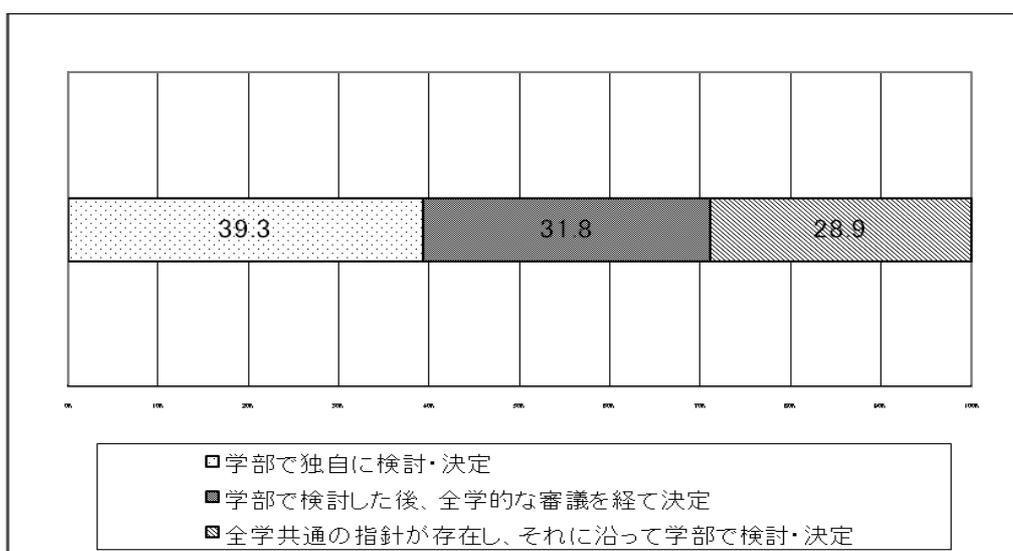
### 学科属性による相違

4つの学科属性のうち、設置形態と専門分野では教育・学習目標の記述様式との間に明確な関連はみられない。一方で、学力と大学規模については関連がみられる。まず、学力についてみていくと、学力の低い学科では、提供者の立場から定義（41.5%）が最も高く、学習者の立場から定義（42.7%）が最も低いのに対して、学力の高い学科では反対の結果（それぞれ 33.7%、49.1%）となっている。次に、大学規模については、単科と中規模で提供者の立場から定義を選択した割合（それぞれ 43.0%、41.9%）が高く、大規模では反対に低い結果（35.4%）となっている。対照的に、学習者の立場から定義においては、単科と中規模は低く（それぞれ 40.7%、40.0%）、大規模は高く（50.4%）なっている。

### 2-2. 「(3) 学部の教育・学習の設定手続きとして、最も近いものを教えてください」

#### 全体の傾向

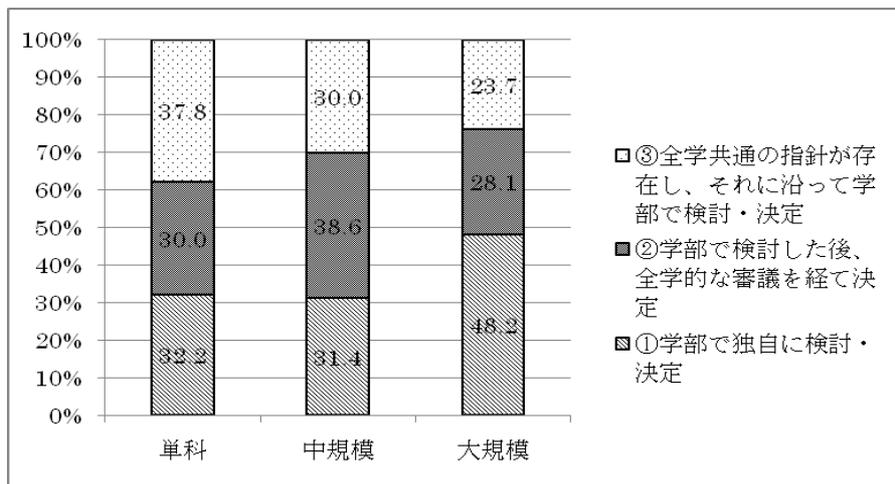
図表 2 に示したように、学部で独自に検討・決定の割合が最も高く、学部で検討した後、全学的な審議を経て決定、全学的な審議を経て決定が続いている。



図表 2.学部の教育・学習目標の設定手続き

### 学科属性による相違

4つの学科属性のうち、設置形態と大学規模で関連がみられた。まず、設置形態でみていくと、学部で独自に検討では国立（51.1%）が最も高く、私立（35.4%）の場合と対照的な結果となっている。次に、大学規模でみたのが図表3である。



図表3.設定手続きと大学規模のクロス

同図表からも明らかなように、大規模では学部で独自に検討・決定が最も高く、単科では全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定が最も高い。これらのことから、国立または大規模の場合には、学部が独自に決定する権限を有しているケースが多いことが考えられる。なお、単科の場合は、学部の指針と全学共通の指針が同一であると考えられることから、上記のような結果になったと思われる。

### 2-3. 「(4) 学科としての教育・学習目標が明文化されている」

#### 全体の傾向

明文化されている、つまり「はい」と回答したのは9割近くにのぼっている。

### 学科属性による相違

4つの学科属性のうち、専門分野と学力で有意差がみられた。まず、専門分野でみていくと、工学（97.3%）、保健（96.3%）、家政（94.6%）が高く、社会（81.3%）、教育（82.9%）は低い値を示している。これは、教育を除けば、卒業後の進路のありようと大きく関係しているものと考えられる。次に、学力では、学力の高い学科（83.8%）が最も低くなっている。

### 2-4. 「(5) 学科の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい」

#### 全体の傾向

学部の教育・学習目標の記述様式と同様の傾向となった。つまり、学習者の立場から定義（46.7%）が最も高く、提供者の立場から定義（35.2%）がそれに続いている。学習者

の立場から行動目標を定義は 20%を割り込んでいる。

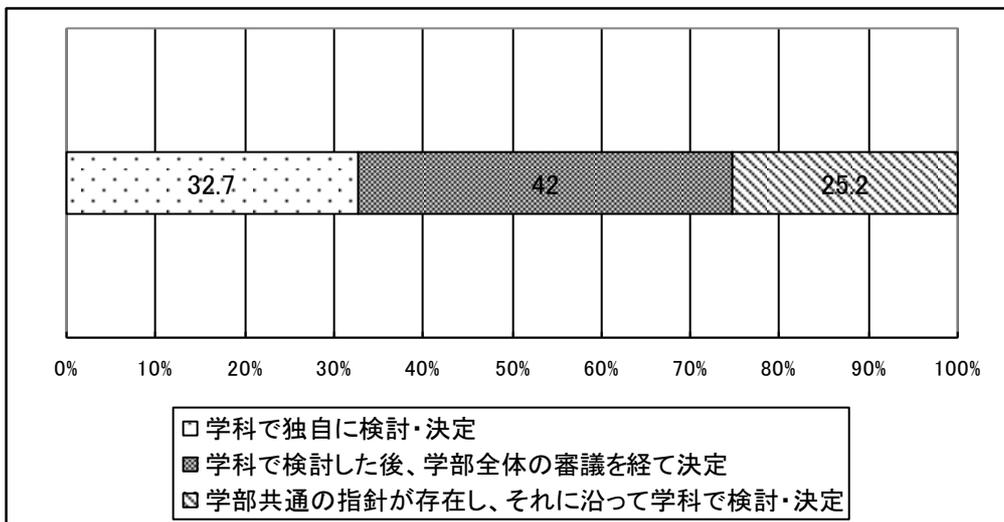
#### 学科属性による相違

4 つの学科属性のうち、専門分野と学力で関連がみられた。まず専門分野についてみていく。提供者の立場から定義に着目すると、家政（51.4%）と教育（47.7%）が高い数値を示しているのに対して、工学（26.0%）は最も低い。学習者の立場から定義に着目すると、理学（55.8%）が最も高く、家政（34.3%）は最も低い。また、学習者の立場から行動目標を定義では、工学（26.0%）と保健（23.5%）が全体傾向に比して高い数値を示しているのに対して、理学（9.6%）と教育（12.3%）は低くなっている。次に、学力別ではどうか。提供者の立場から定義では、低い学科と平均的な学科が全体傾向と同様に高い数値を示している（それぞれ 38.3%、36.6%）のに対して、高い学科は低くなっている（27.3%）。対照的に、学習者の立場から定義では、高い学科が最も高く（55.8%）、低い学科と平均的な学科は共に低い（それぞれ 42.5%、44.4%）。なお、「学習者の立場から行動目標を定義」では、いずれもほぼ同様の値を示している。

#### 2-5. 「(6) 学科の教育・学習の設定手続きとして、最も近いものを教えて下さい」

##### 全体の傾向

図表 4 に示した通り、学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定が最も高く、学科で独自に検討・決定がそれに続いている。学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定は最も低い。



図表 4. 学科の教育・学習目標の設定手続き

#### 学科属性による相違

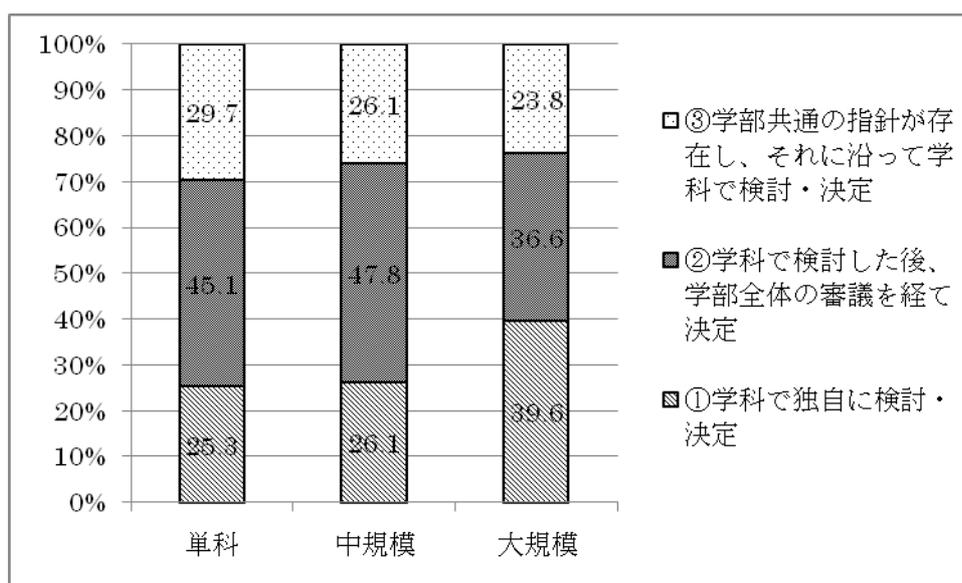
4 つの学科属性すべてにおいて有意差がみられた。

設置形態でみていくと、国立（47.1%）が学科で独自に検討・決定において顕著に高い割合を示しているのに対し、私立（26.6%）は学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定においてやや高くなっている。

専門分野別にみていくと、理学が学科で独自に検討・決定（54.3%）では突出して高くなっており、一方で、学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定では21.0%と他の分野と比して極端に低くなっている。学部の教育・学習目標の設定手続きにおいても、理学が他の分野に比べて高かったことを考えると、理学においては、学部レベルおよび学科レベルの双方において高度な自治が維持されていることが看取できる。また、社会は学科で独自に検討・決定（18.5%）において最も低いものの、学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定では34.7%と最も高い割合を示している。

学力の別では、学力の高い学科ほど学科で独自に検討・決定する割合（40.4%）が高く、学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定（17.3%）が低い。対照的に、学力の低い学科では学科で独自に検討・決定する割合（28.2%）が最も低く、学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定（29.7%）は高くなっている。

大学規模でみていくと、図表5の通り、大規模では学科で独自に検討・決定する割合が最も高く、学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定が最も低い。また、単科および中規模では、学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定する割合がそれぞれ最も高くなっているのに対して、学科で独自に検討・決定は低い。



図表 5. 教育・学習目標の設定手続きと大学規模のクロス

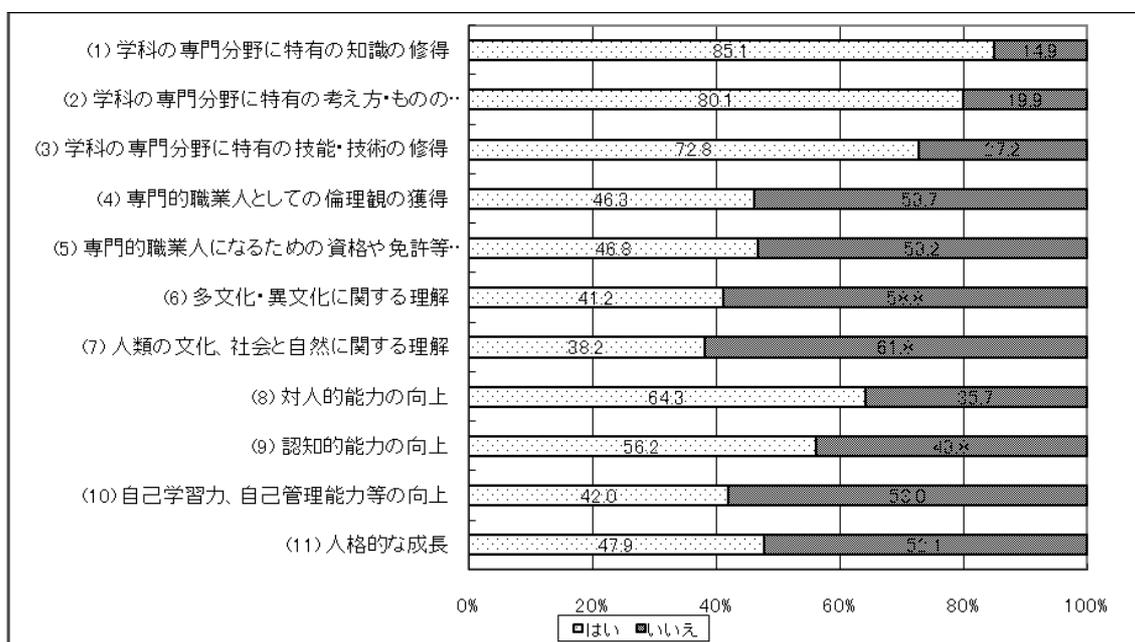
### 3. 明文化された教育・学習目標の内容

#### 全体の傾向

前節では、教育・学習目標の記述様式や設定手続きといった形式的側面を検討してきた。ここでは、内容的側面を確認していくこととする。

図表6は、11個の教育・学習目標の内容について当てはまるかどうかをたずねたものである。ここでは、専門分野に特有の知識の修得や、専門分野に特有の考え方・ものの見方の修得は高い割合を示している。一方で、人類の文化、社会と自然に関する理解、多文化・

異文化に関する理解、自己学習力、自己管理能力等の向上などは低くなっている。



図表 6. 教育・学習目標の内容

#### 学科属性による相違

全ての学科属性において有意差がみられた。

まず、設置形態についてみていく。国立では、(4)専門的職業人としての倫理観の獲得 (54.9%)、(7)人類の文化、社会と自然に関する理解 (47.5%) において、全体の傾向と比べて高い値を示す一方、(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得 (30.2%) や(11)人格的な成長 (38.3%) において、全体の傾向と比べて低くなっているのが特徴的である。対照的に、私立では、(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得 (52.6%) や(11)人格的な成長 (51.8%) において、全体の傾向と比べて高い値である一方で、(4)専門的職業人としての倫理観の獲得 (43.7%)、(7)人類の文化、社会と自然に関する理解 (35.2%) は全体の傾向と比べて低くなっている。

次に、専門分野でみていくと、図表 7 の通り、理学は 5 つの項目において最も低い数値を示すなど、調査項目で設定した内容の多くを学科目標に含めていないことが明らかとなった。低い数値を示した項目は、(5) 専門的職業人になるための資格や免許等の取得、(6) 多文化・異文化に関する理解、(8) 対人的能力の向上、(10) 自己学習力、自己管理能力等の向上、(11) 人格的な成長である。また、社会は 2 つの項目、つまり(1)学科の専門分野に特有の知識の習得、(3)学科の専門分野に特有の技能・技術の修得において、最も低い数値を示している。一方で、家政および保健では、3 つの項目、つまり、(1)学科の専門分野に特有の知識の修得、(3)学科の専門分野に特有の技能・技術の修得、(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得、において最も高い数値を示す結果となった。

	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	
(1)学科の専門分野に特有の知識の修得	86.5	74.7	80.7	84.4	91.1	91.7	94.6	***
(2)学科の専門分野に特有の考え方・ものの見方の修得	82.0	78.5	69.9	84.4	85.7	80.7	73.0	
(3)学科の専門分野に特有の技能・技術の修得	70.3	51.9	74.7	64.1	86.6	87.2	91.9	***
(4)専門的職業人としての倫理観の獲得	27.0	32.3	41.0	32.8	74.1	76.1	35.1	***
(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得	54.1	28.5	56.6	25.0	35.7	71.6	78.4	***
(6)多文化・異文化に関する理解	78.4	42.4	34.9	23.4	35.7	30.3	29.7	***
(7)人類の文化、社会と自然に関する理解	50.4	33.5	24.1	45.3	52.7	24.8	27.0	***
(8)対人的能力の向上	71.2	53.2	57.8	37.5	74.1	81.7	59.5	***
(9)認知的能力の向上	55.9	57.0	43.4	48.4	75.0	57.8	37.8	***
(10)自己学習力、自己管理能力等の向上	44.1	31.0	37.3	28.1	55.4	56.0	32.4	***
(11)人格的な成長	60.4	46.2	49.4	25.0	46.4	54.1	43.2	***

図表 7 教育・学習目標

注：カイ二乗検定の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目

\*\*\* p<.01

学力別では、低い学科で(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得（56.0%）が高く、(7)人類の文化、社会と自然に関する理解（32.0%）が全体の傾向と比して低い数値を示しているのに対して、高い学科ではその正反対の結果となっている。

大学規模でみると、単科が(4)専門的職業人としての倫理観の獲得（59.2%）、(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得（56.3%）、(8)対人的能力の向上（72.8%）において、全体の傾向と比して高い数値を示していたのに対して、大規模では(7)人類の文化、社会と自然に関する理解（43.9%）が全体の傾向と比して高く、(5)専門的職業人になるための資格や免許等の取得（37.9%）が最も低くなっている。

#### 4. 今後の課題

教育・学習目標をどのような内容で以って構成し、設定していくのかは、近年のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに対する関心の高まりと相まって、学士課程教育段階における重要なテーマの1つになりつつある。そのようななかで本章では、このテーマに関する現状の一端を明らかにしてきたが、教育・学習目標の内容と専門分野以外の属性との関係を十分に検討するには至らなかった。また、専門分野についても、理学が他分野と比して特徴的であることを指摘したにとどまり、他分野の特徴を明確に分析し得たわけではない。今後、本章で指摘した特徴を有する事例を選定し、個別調査を通じて上記の課題を分析していくことが求められる。

### 第三章 「Ⅲ. 教育プログラムの設計」

小島佐恵子（北里大学）

第三章では、教育プログラムの設計について、改革状況の進捗、設置科目、単位数などについて尋ねた。

全体として、①シラバスにおける学習成果の明示や授業 15 回の確保など、大学設置基準に明記されているものについては実施されているが、学科の目標と各授業科目との関連の図表化（カリキュラム・マップ）などの実施は半数以下であった。また、②私立大学、小・中規模大学、人文・保健・家政系において、「日本語表現」「レポートの書き方」などのスキルに関する科目の設置が多くなされていた。そして、③卒業要件単位数については、私立よりも国公立の方が卒業要件単位数が多く（とくに人文・社会・教育系）、分野別でばらつきはあるものの、保健系において専門科目・必修の単位数が多いことがわかった。

私立大学の特徴としては、学習スキル系の科目設置率が高く、人文系において卒業要件単位数における専門科目の必修の単位数が多いという傾向が見られた。

#### 1. 本章の構成

本章では、教育プログラムの設計に関する改革の現状（設問 III-A）と設置科目の内容（設問 III-B）、卒業要件単位（設問 III-C）について記述する。各節では、全体的な傾向を把握した後、設置形態（国立、公立、私立）、専門分野（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、学力（所属学生の学力に対する回答者の認識）、大学規模（単科、中規模、大規模（5 学部以上））の 4 つ学科属性を考慮した分析結果のうち、有意差のあった項目を中心に、教育プログラムの設計の現状と傾向を述べる。

#### 2. 教育プログラムの設計に関する改革の現状（設問 III-A）

##### 全体の傾向

図表 3-1 からわかるように、もっとも多くの大学で進んでいるのが「学習成果のシラバス内での明示」「授業 15 回の確保（試験を除く）」であり、約 8 割の大学で実施されていた。「特定のテーマ・内容について、異なる科目の担当教員が、相互に連携・調整しながら教育を行う（以下、モジュール制）」や「カリキュラムの編成について、上位組織（学部ならば全学、学科等ならば学部）による確認・承認手続きがある（課程承認）」も約 7 割程度の大学で実施されていた。なお、実施している割合はまた、学科の目標と各授業科目との関係を図や表にする、いわゆる「カリキュラム・マップ」や学部・学科の目標の図表化等は、実施は 5 割に満たなかったものの、「検討中」が 2 割と他よりも高かった。

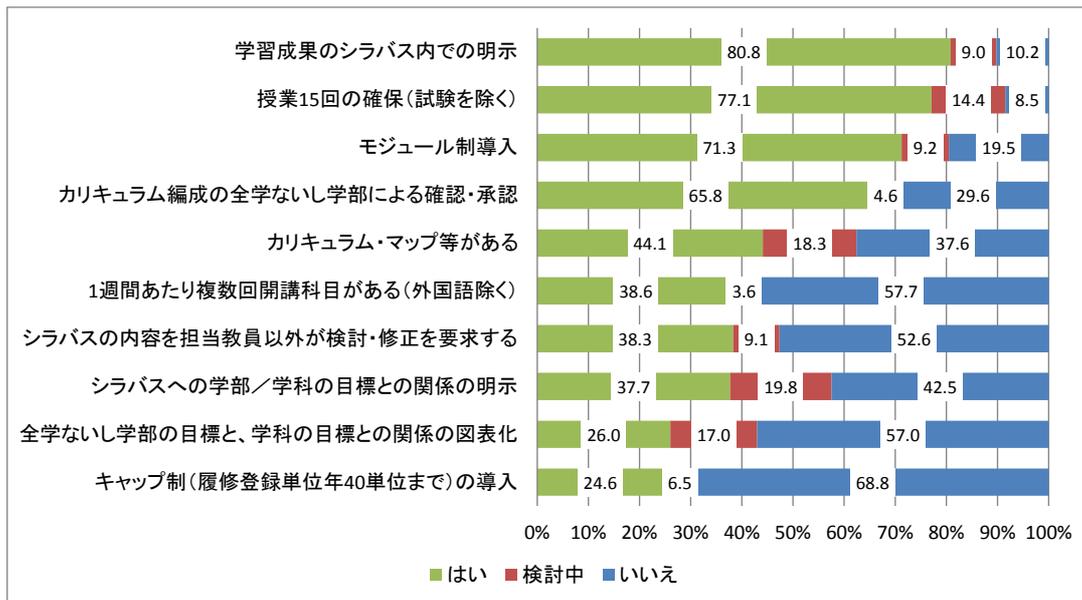
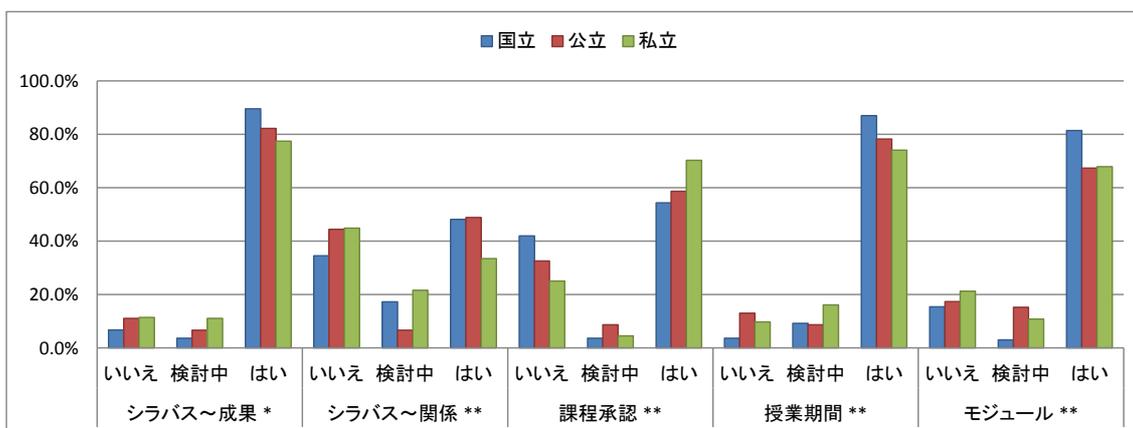


図 3-1 教育プログラムの設計に関する改革の状況

### 学科属性による相違

設置形態別では、国立大学と私立大学での傾向の違いが明らかになった（図表 3-2）。国立大学では「学習成果のシラバス内での明示（表中「シラバス～成果）」「シラバスへの学部/学科の目標との関係の明示（表中「シラバス～関係）」「授業 15 回の確保（表中「授業期間）」「モジュール制」を実施している割合が高く、「カリキュラムの編成について、上位組織（学部ならば全学、学科等ならば学部）による確認・承認手続きがある（表中「課程承認）」は私立大学で実施している割合が高かった。

図表 3-2 教育プログラムの設計に関する改革状況（設置形態別）

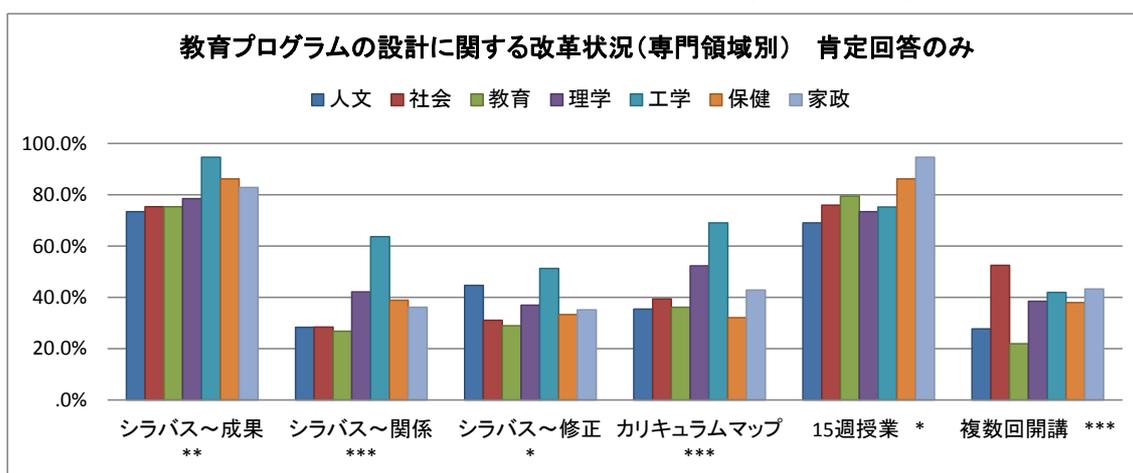


	シラバス～成果 *			シラバス～関係 **			課程承認 **			授業期間 **			モジュール **		
	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい
国立	6.7%	3.7%	89.6%	34.6%	17.3%	48.1%	42.0%	3.7%	54.3%	3.7%	9.3%	87.0%	15.4%	3.1%	81.5%
公立	11.1%	6.7%	82.2%	44.4%	6.7%	48.9%	32.6%	8.7%	58.7%	13.0%	8.7%	78.3%	17.4%	15.2%	67.4%
私立	11.5%	11.1%	77.5%	44.9%	21.6%	33.5%	25.1%	4.6%	70.3%	9.8%	16.1%	74.1%	21.2%	10.8%	67.9%

残差分析の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目 \*\* p<.01, \* p<.05

次に専門領域別に見てみると、7つの項目に関して差が見られた(図表 3-3)。「シラバスの改善」(表上段)は、主に工学系で進んでいたが、人文・社会系では進んでいなかった。同様に、「学科目標との関係を示す資料(表中「学科～科目)」は、工学系では作成されていたが、教育・保健系では検討中が多く、社会系では作成されていなかった。また、「授業15回の確保(表中「授業期間)」は、保健・家政系で進んでおり、「複数回開講科目がある(表中「複数回開講)」は社会系で、「モジュール制」の導入は教育系で進んでいた。

図表 3-3 教育プログラムの設計に関する改革状況(専門領域別)



	q3a1 シラバス～成果 **			q3a2 シラバス～関係 ***			q3a3 シラバス～修正 *		
	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい
人文	14.2%	12.4%	73.5%	46.0%	25.7%	28.3%	44.6%	10.7%	44.6%
社会	11.7%	13.0%	75.3%	46.9%	24.7%	28.4%	57.8%	11.2%	31.1%
教育	13.6%	11.1%	75.3%	54.9%	18.3%	26.8%	66.3%	4.8%	28.9%
理学	18.5%	3.1%	78.5%	48.4%	9.4%	42.2%	55.4%	7.7%	36.9%
工学	2.7%	2.7%	94.6%	20.4%	15.9%	63.7%	39.8%	8.8%	51.3%
保健	4.6%	9.2%	86.2%	39.8%	21.3%	38.9%	57.4%	9.3%	33.3%
家政	5.7%	11.4%	82.9%	44.4%	19.4%	36.1%	54.1%	10.8%	35.1%

	q3a5 学科～科目 ***			q3a7 授業期間 *			q3a8 複数回開講 ***		
	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい	いいえ	検討中	はい
人文	45.1%	19.5%	35.4%	13.3%	17.7%	69.0%	66.1%	6.3%	27.7%
社会	45.0%	15.6%	39.4%	7.4%	16.7%	75.9%	42.0%	5.6%	52.5%
教育	37.3%	26.5%	36.1%	8.4%	12.0%	79.5%	78.0%	0%	22.0%
理学	33.8%	13.8%	52.3%	10.9%	15.6%	73.4%	60.0%	1.5%	38.5%
工学	19.5%	11.5%	69.0%	7.1%	17.7%	75.2%	54.5%	3.6%	42.0%
保健	41.3%	26.6%	32.1%	7.3%	6.4%	86.2%	58.3%	3.7%	38.0%
家政	40.0%	17.1%	42.9%	5.4%	0%	94.6%	56.8%	0%	43.2%

残差分析の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目 \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05

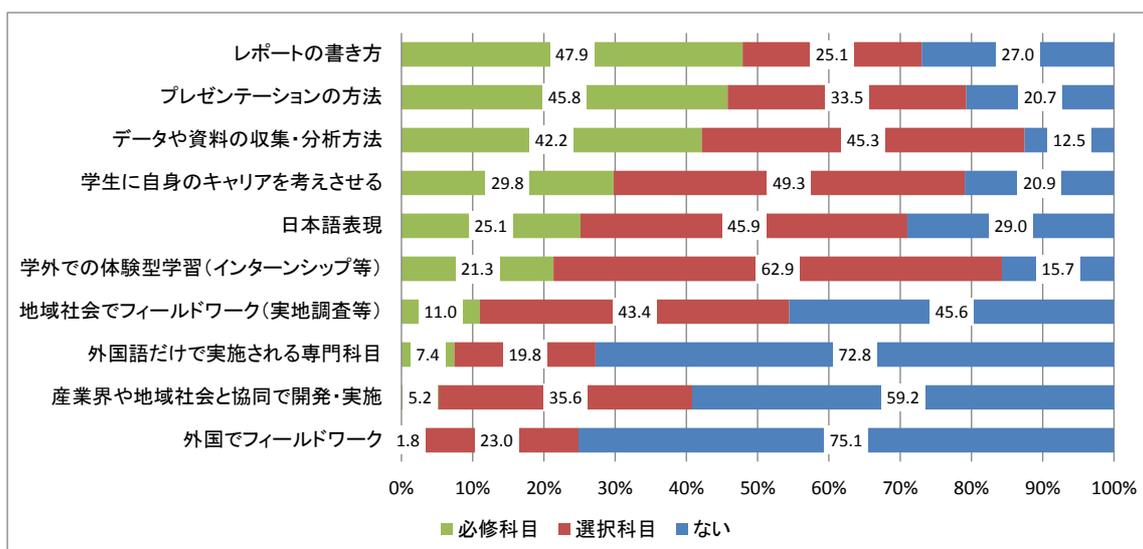
一方、学生の学力別や大学規模（学部数）については、教育プログラムの設計に関する改革状況での差はあまり見られなかった。

### 3. 設置科目の内容（設問 III-B）

#### 全体の傾向

学習スキルやキャリア教育関連科目、体験型学習等、近年新しく導入されている科目は各大学でどの程度設置されているだろうか。

図表 3-4 からわかるように、「レポートの書き方」「プレゼンテーション」「データや資料の収集・分析方法」は4-5割の大学で必修科目とされていた。選択科目も含めると、「データや資料の収集・分析方法」「学外での体験型学習（インターンシップ等）」（以下「体験型学習」と記載）は8割を超えた。また、「外国語だけで実施される専門科目」や「外国でフィールドワーク」をする科目の設置の割合は、必修・選択を含めて3割以下であり、あまり開講されていないことがわかった。

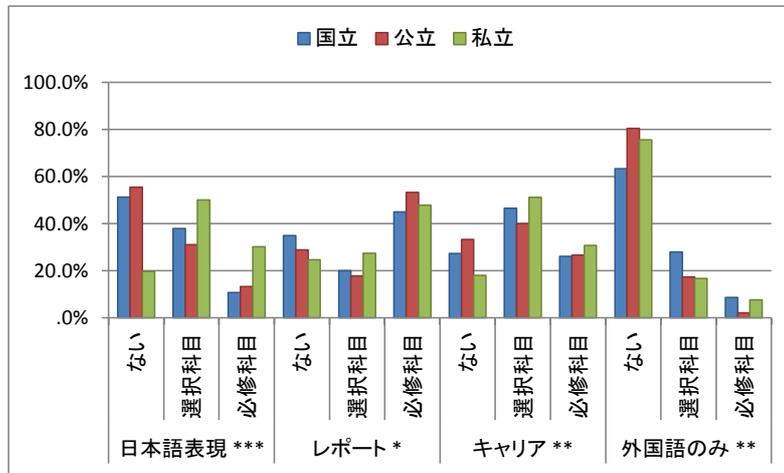


図表 3-4 設置科目の内容

#### 学科属性による相違

設置形態別では、主に国公立大学と私立大学で設置科目の違いが見られた（図表 3-5）。私立大学では、「日本語表現について学ぶことを目的とした科目（表中「日本語表現」。以下略記）」や「レポートの書き方（表中「レポート）」に関する科目が開講されている割合が高かった。国立大学では「外国語だけで実施される専門科目（表中「外国語のみ）」が開講されている割合が高かった。「学生に自身のキャリアを考えさせる科目（表中「キャリア」。以下「キャリア教育」と記載）」は国公立では開講されていない割合が高かった。

図表 3-5 設置科目の内容（設置形態別）



	日本語表現 ***			レポート *			キャリア **			外国語のみ **		
	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目
国立	51.3%	38.0%	10.8%	35.0%	20.0%	45.0%	27.3%	46.6%	26.1%	63.4%	28.0%	8.7%
公立	55.6%	31.1%	13.3%	28.9%	17.8%	53.3%	33.3%	40.0%	26.7%	80.4%	17.4%	2.2%
私立	19.7%	50.1%	30.2%	24.6%	27.5%	47.9%	18.1%	51.2%	30.7%	75.7%	16.7%	7.6%

残差分析の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目 \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05

専門領域と上記の設置科目の内容については、ほぼすべての領域において有意な差が見られた（図表 3-6）。人文系・保健系・家政系で必修科目化が多く、社会・教育では選択科目化が多い。分野別では下記の科目の必修化が見られた（割合が 1 割以上のもののみ）。

人文系：「日本語表現」「外国語だけで実施される専門科目（表中「外国語のみ）」

保健系：「データや資料の収集・分析方法（表中「データ分析）」「体験型学習」

「地域社会でフィールドワーク（表中「実地調査）」

教育系：「キャリア教育」

家政系：「キャリア教育」「体験型学習」「産業界や地域社会と協同で開発・実施する科目（表中「地域と協同）」

また、学生の学力別に見てみると、「日本語表現」「キャリア教育」「体験型学習」「外国語だけで実施される専門科目」において有意な差が見られた。学力低めの大学では「日本語表現」を必修科目に、「体験型学習」を選択科目にしている割合が高く、学力高めの大学では「外国語だけで実施される専門科目」を選択科目にしている割合が高かった（図表 3-7）。

そして、大学規模（学部数）でも、小規模・中規模大学で「日本語表現」「レポートの書き方」「体験型学習」の必修化が進んでいる傾向が見られた（図表 3-8）。

そして、これら属性別の結果は、私立大学において人文・社会系、保健・家政系が多いこと、中規模大学（学部数 2~4 学部）が多いことなどから、いずれも設置形態との関連が

高いと考えられる。

図表 3-6 設置科目の内容（専門領域別）

	日本語表現 ***			キャリア ***			データ分析 ***			体験型学習 ***		
	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目
人文	13.3%	44.2%	42.5%	16.8%	51.3%	31.9%	15.5%	45.5%	39.1%	15.8%	70.2%	14.0%
社会	29.5%	46.8%	23.7%	12.5%	58.1%	29.4%	7.5%	57.2%	35.2%	11.2%	77.6%	11.2%
教育	28.8%	43.8%	27.5%	18.3%	40.2%	41.5%	6.3%	56.3%	37.5%	11.1%	64.2%	24.7%
理学	47.6%	41.3%	11.1%	36.5%	47.6%	15.9%	21.0%	45.2%	33.9%	39.7%	54.0%	6.3%
工学	34.2%	48.6%	17.1%	26.1%	54.1%	19.8%	25.0%	33.3%	41.7%	15.3%	71.2%	13.5%
保健	29.2%	47.2%	23.6%	28.4%	40.4%	31.2%	6.5%	36.1%	57.4%	14.8%	30.6%	54.6%
家政	27.0%	51.4%	21.6%	11.1%	41.7%	47.2%	8.1%	35.1%	56.8%	16.7%	47.2%	36.1%

	地域と協同 ***			外国語のみ ***			実地調査 ***			外国調査 ***		
	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目
人文	62.3%	30.7%	7.0%	53.6%	30.4%	16.1%	32.1%	53.6%	14.3%	60.2%	35.4%	4.4%
社会	41.3%	54.4%	4.4%	67.9%	24.1%	8.0%	41.0%	52.8%	6.2%	74.1%	24.1%	1.9%
教育	59.3%	34.6%	6.2%	70.0%	25.0%	5.0%	33.7%	54.2%	12.0%	67.9%	32.1%	.0%
理学	73.4%	26.6%	.0%	78.1%	14.1%	7.8%	66.7%	25.4%	7.9%	95.3%	4.7%	.0%
工学	70.1%	27.1%	2.8%	77.7%	17.0%	5.4%	74.1%	24.1%	1.9%	91.6%	8.4%	.0%
保健	65.7%	26.9%	7.4%	88.0%	8.3%	3.7%	36.1%	38.0%	25.9%	71.0%	24.3%	4.7%
家政	66.7%	16.7%	16.7%	86.1%	8.3%	5.6%	50.0%	38.9%	11.1%	77.8%	22.2%	.0%

残差分析の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目 \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05

図表 3-7 設置科目の内容（学生の学力別）

	日本語表現 ***			キャリア ***			体験型学習 **			外国語のみ ***		
	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目
学力低め	17.8%	50.8%	31.5%	18.5%	49.5%	32.0%	11.5%	68.0%	20.5%	84.0%	10.0%	6.0%
学力普通	27.0%	47.1%	25.9%	16.0%	55.1%	28.9%	13.7%	64.9%	21.4%	70.1%	21.5%	8.4%
学力高め	43.6%	39.9%	16.5%	33.2%	41.2%	25.7%	23.3%	51.9%	24.9%	64.7%	26.3%	8.9%

残差分析の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目 \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05

図表 3-8 設置科目の内容（大学規模(学部数)別）

	日本語表現 **			レポート *			体験型学習 **		
	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目	ない	選択科目	必修科目
単科	26.0%	49.0%	25.0%	30.5%	28.6%	41.0%	10.5%	56.2%	33.3%
中規模(2~4)	23.1%	45.5%	31.4%	24.6%	19.8%	55.6%	12.3%	65.3%	22.4%
大規模	34.5%	45.6%	19.9%	28.5%	28.2%	43.3%	19.4%	64.1%	16.5%

残差分析の結果、赤字＝割合が高い項目、青字＝割合が低い項目 \*\*\* p<.001, \*\* p<.01, \* p<.05

#### 4. 卒業要件単位数

##### 全体の傾向

問 III-C では、卒業要件単位数とそれを構成する専門科目、共通（教養）科目、その他の自由選択科目の単位数を尋ねた。図表 3-9 は設置形態別と専門分野別に見た回答数であるが、上段は本節における分析対象校数で、下段は回答校数全体を示している。分析対象としたのは、卒業要件単位数と専門・共通（教養）科目等の単位数が記入されており、卒業要件単位数と専門・共通（教養）科目等の単位数が論理的に整合している（専門科目と共通(教養)科目の単位数、そして自由選択科目の単位数が記入されている場合はそれも含め

た単位数の合計と卒業要件単位数が一致する) 回答のみである。したがって、以下の対象は全体の約 5 割に該当する 345 校に関する数値である (巻末のクロス集計値とは母数が異なっている)。

図表 3-9 本節における分析対象校数 (上段) と回答校数全体 (下段) (設置形態・分野別)

	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	合計
国立	<b>2</b>	<b>19</b>	<b>14</b>	<b>18</b>	<b>22</b>	<b>8</b>	<b>0</b>	<b>84</b>
	9	26	32	32	44	14	2	159
公立	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>16</b>
	5	8	2	4	6	13	3	41
私立	<b>48</b>	<b>67</b>	<b>27</b>	<b>15</b>	<b>35</b>	<b>40</b>	<b>13</b>	<b>245</b>
	100	128	47	28	64	82	32	481
合計	<b>54</b>	<b>88</b>	<b>42</b>	<b>36</b>	<b>59</b>	<b>52</b>	<b>14</b>	<b>345</b>
	114	162	81	64	114	109	37	681

単位は校数

図表 3-10 は、この 345 校について、設置形態別・専門領域別に見た単位数の平均値と標準偏差を示したものである。上記を見ればわかるとおり、設置形態と専門分野でクロス集計をすると 1 校しか該当しないところもあり、今回の分析対象には偏りがある。それをふまえたうえで見てみると、私立よりも国公立の方が卒業要件単位数が多く (とくに人文・社会・教育系)、分野ごとにばらつきはあるものの、保健系において専門科目・必修の単位数が多いことがわかった。

同様に、図表 3-11 は設置形態別・専門領域別に見た卒業要件単位数におけるそれぞれの科目の占める割合を示したものである。すなわち、卒業要件単位における専門・共通 (教養) 科目の構成比率である。網かけの部分は、それぞれの専門分野ごとに最も高い割合を占めたものにつけた。全体的に専門科目の占める割合は 7 割から 8 割程度、共通 (教養) 科目の占める割合は 2 割から 3 割程度であった。専門科目について、分野ごとに見てみると、人文社会系では選択必修の割合が高いのに対して、理学・工学・保健・家政系では必修の割合が高かった。さらに、設置形態別に見てみると、国立大学において教育・工学・保健系の必修の割合が高く、私立大学では人文系の必修科目の割合が高かった。家政は公立大学において専門科目の自由選択の割合が高くなっているが、今回の場合は 1 大学の数値であり、全体的な傾向を表しているとはいえない。

一方、共通 (教養) 科目について見てみると、国立大学では教育系において共通 (教養) 科目の必修の割合が高かった。

このように今回の調査からは、専門科目と共通 (教養) 科目の配置は、分野別の特性の

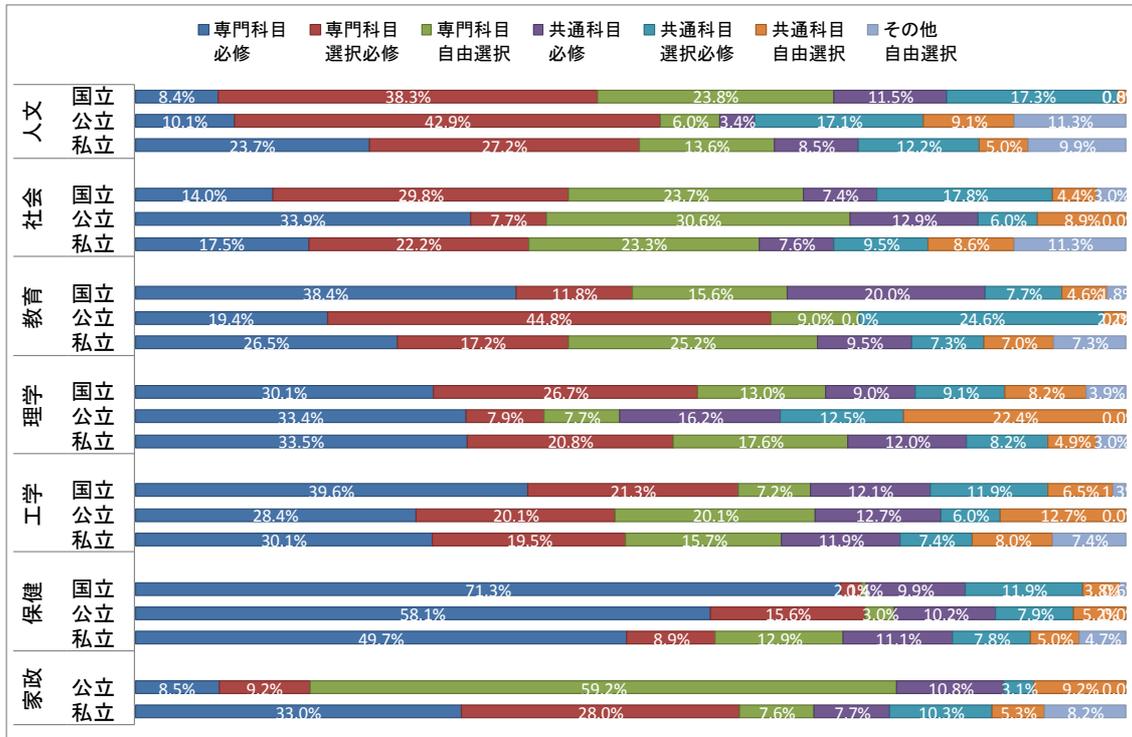
ほか、設置形態別の影響もうかがえた。なお、今回の調査では専門・共通（教養）科目等と卒業要件単位数が論理的に整合するデータに絞ったため、分析対象校が減ってしまった。今後の課題として、詳細かつ豊富なデータを得るために、よりわかりやすい尋ね方を工夫する必要があると言える。

図表 3-10 設置形態別・専門領域別にみた単位数の平均値と標準偏差

設置形態	専門領域	専門科目必修	専門科目選択必修	専門科目自由選択	共通科目必修	共通科目選択必修	共通科目自由選択	その他自由選択	卒業要件単位数
国立	人文	11.0 (1.41)	50.0 (31.11)	31.0 (24.04)	15.0 (16.97)	22.5 (20.51)	2.0 (0.00)	0.0 (0.00)	130.5 (0.71)
	社会	16.5 (12.14)	46.4 (28.68)	41.8 (30.99)	15.7 (12.53)	27.3 (12.53)	12.6 (6.84)	12.7 (10.56)	128.9 (6.54)
	教育	54.3 (30.54)	26.1 (22.54)	27.5 (25.47)	28.2 (19.01)	15.3 (9.68)	16.2 (16.83)	5.7 (3.50)	129.3 (6.39)
	理学	37.5 (20.36)	37.4 (26.40)	23.6 (15.16)	16.6 (9.51)	17.9 (14.63)	24.4 (14.87)	9.25 (8.25)	124.9 (2.01)
	工学	52.7 (18.08)	26.9 (21.36)	14.5 (10.89)	17.0 (14.20)	16.7 (15.27)	15.2 (12.60)	4.1 (7.56)	127.0 (2.57)
	保健	91.9 (7.41)	4.4 (5.94)	4.0 (0.00)	17.0 (14.20)	17.5714 (11.22)	13.0 (2.65)	3.0 (4.24)	128.9 (4.94)
	家政	11.0 (0.00)	12.0 (0.00)	77.0 (0.00)	14.0 (0.00)	4.0 (0.00)	12.0 (0.00)	— (0.00)	130.0 (0.00)
公立	人文	16.6 (5.77)	53.3 (21.65)	10.0 (12.49)	5.7 (4.04)	21.3 (14.73)	15.0 (12.29)	18.7 (17.24)	124.0 (0.00)
	社会	42.0 (25.46)	19.0 (0.00)	38.0 (31.11)	16.0 (2.83)	15.0 (0.00)	22.0 (0.01)	— (0.00)	124.0 (0.00)
	教育	26.0 (0.00)	60.0 (0.00)	12.0 (0.00)	— (0.00)	33.0 (0.00)	3.0 (0.00)	— (0.00)	134.0 (0.00)
	理学	46.0 (11.3)	11.0 (15.56)	10.5 (9.19)	22.5 (16.26)	17.0 (18.38)	31.0 (9.90)	0.0 (0.00)	138.0 (2.83)
	工学	38.0 (14.14)	27.0 (38.18)	27.0 (38.18)	17.0 (1.41)	8.0 (11.31)	17.0 (24.04)	0.0 (0.00)	134.0 (0.00)
	保健	73.3 (30.03)	26.7 (32.71)	7.5 (4.95)	13.0 (12.81)	20.0 (8.49)	13.0 (9.90)	— (0.00)	126.5 (1.91)
	家政	11.0 (0.00)	12.0 (0.00)	77.0 (0.00)	14.0 (0.00)	4.0 (0.00)	12.0 (0.00)	— (0.00)	130.0 (0.00)
私立	人文	31.0 (15.28)	38.2 (19.72)	30.3 (26.08)	13.1 (9.08)	19.3 (10.24)	17.5 (14.21)	21.2 (12.26)	125.4 (2.48)
	社会	24.5 (17.98)	33.9 (24.36)	43.3 (21.26)	11.2 (7.65)	15.6 (13.04)	16.8 (8.42)	24.3 (25.40)	125.2 (2.47)
	教育	34.5 (24.05)	26.5 (24.13)	47.2 (23.19)	13.4 (11.68)	12.3 (7.48)	15.8 (11.58)	18.8 (10.93)	125.1 (2.49)
	理学	45.0 (20.81)	30.2 (24.47)	36.9 (20.19)	17.7 (13.54)	12.9 (9.20)	10.1 (6.88)	9.3 (10.33)	125.7 (3.69)
	工学	38.2 (19.56)	30.9 (24.90)	31.8 (22.84)	17.8 (14.28)	15.5 (15.17)	16.2 (10.74)	17.3 (11.54)	127.1 (3.64)
	保健	64.3 (33.39)	18.5 (17.28)	34.5 (31.25)	14.7 (13.49)	14.5 (11.52)	12.6 (9.90)	16.8 (18.90)	126.1 (3.25)
	家政	41.4 (33.79)	37.7 (25.86)	30.5 (25.65)	9.6 (6.83)	15.1 (10.09)	14.2 (5.31)	22.3 (26.73)	124.8 (2.24)

(上段太字：平均値、下段( )内：標準偏差。なお、記載が無かったところは「—」とした)

図表 3-11 設置形態別・専門領域別にみた卒業要件単位数における各科目の占める比率



専門領域	設置形態	専門科目 合計	共通科目 合計	専門科目 必修	専門科目 選択必修	専門科目 自由選択	共通科目 必修	共通科目 選択必修	共通科目 自由選択	その他 自由選択
人文	国立	70.5%	29.5%	8.4%	38.3%	23.8%	11.5%	17.3%	0.8%	0.0%
	公立	59.1%	29.6%	10.1%	42.9%	6.0%	3.4%	17.1%	9.1%	11.3%
	私立	64.5%	25.6%	23.7%	27.2%	13.6%	8.5%	12.2%	5.0%	9.9%
社会	国立	67.4%	29.6%	14.0%	29.8%	23.7%	7.4%	17.8%	4.4%	3.0%
	公立	72.2%	27.8%	33.9%	7.7%	30.6%	12.9%	6.0%	8.9%	0.0%
	私立	63.0%	25.7%	17.5%	22.2%	23.3%	7.6%	9.5%	8.6%	11.3%
教育	国立	65.9%	32.3%	38.4%	11.8%	15.6%	20.0%	7.7%	4.6%	1.8%
	公立	73.1%	26.9%	19.4%	44.8%	9.0%	0.0%	24.6%	2.2%	0.0%
	私立	68.9%	23.8%	26.5%	17.2%	25.2%	9.5%	7.3%	7.0%	7.3%
理学	国立	69.8%	26.3%	30.1%	26.7%	13.0%	9.0%	9.1%	8.2%	3.9%
	公立	49.0%	51.0%	33.4%	7.9%	7.7%	16.2%	12.5%	22.4%	0.0%
	私立	71.9%	25.1%	33.5%	20.8%	17.6%	12.0%	8.2%	4.9%	3.0%
工学	国立	68.1%	30.5%	39.6%	21.3%	7.2%	12.1%	11.9%	6.5%	1.3%
	公立	68.7%	31.3%	28.4%	20.1%	20.1%	12.7%	6.0%	12.7%	0.0%
	私立	65.3%	27.3%	30.1%	19.5%	15.7%	11.9%	7.4%	8.0%	7.4%
保健	国立	73.8%	25.6%	71.3%	2.1%	0.4%	9.9%	11.9%	3.8%	0.6%
	公立	76.7%	23.3%	58.1%	15.6%	3.0%	10.2%	7.9%	5.2%	0.0%
	私立	71.5%	23.8%	49.7%	8.9%	12.9%	11.1%	7.8%	5.0%	4.7%
家政	公立	76.9%	23.1%	8.5%	9.2%	59.2%	10.8%	3.1%	9.2%	0.0%
	私立	68.6%	23.2%	33.0%	28.0%	7.6%	7.7%	10.3%	5.3%	8.2%

## 第四章 「IV. 教育プログラムの実施」

葛城 浩一（香川大学）

大学は、以前にもまして学力や学習意欲の水準、ひいては学習レディネス自体が保証されないことを前提に大学教育を行うことを余儀なくされる状況におかれている。こうした状況下で、学生の学習成果を担保するために、各大学では、様々な教育プログラムが行われている。本章ではそうした教育プログラムの実施状況について明らかにした。

まず、教育プログラムの実施状況には、設置形態や所属学生の学力、学部数の影響力以上に、専門分野の影響力が大きいことが確認された。しかし、高大接続に関わる教育プログラムの実施状況には、専門分野だけでなく、設置形態や所属学生の学力の影響力も大きいことが確認された。特に所属学生の学力の影響力は広範であり、高大接続に関わる教育プログラムは、所属学生の学力の低い大学で多く行われているという結果が得られた。高大接続に関わる教育プログラムへの対応は、特に学力の低い学生を多く受け入れており、より多くの教育上の困難に直面している私立大学で進められているといえよう。

### 1. 本章の構成

本章では、教育プログラムの実施に関する設問である「IV-A. 教育プログラムの実施」、「IV-B. 高等学校の教育課程との接続」に対する回答についての分析を行う。各節では、まず回答全体の傾向を確認した上で、設置形態、専門分野、所属学生の学力、学部数といった学科属性を考慮した分析結果の内、特に目立った傾向が見られた点について言及する。

### 2. 教育プログラムの実施状況

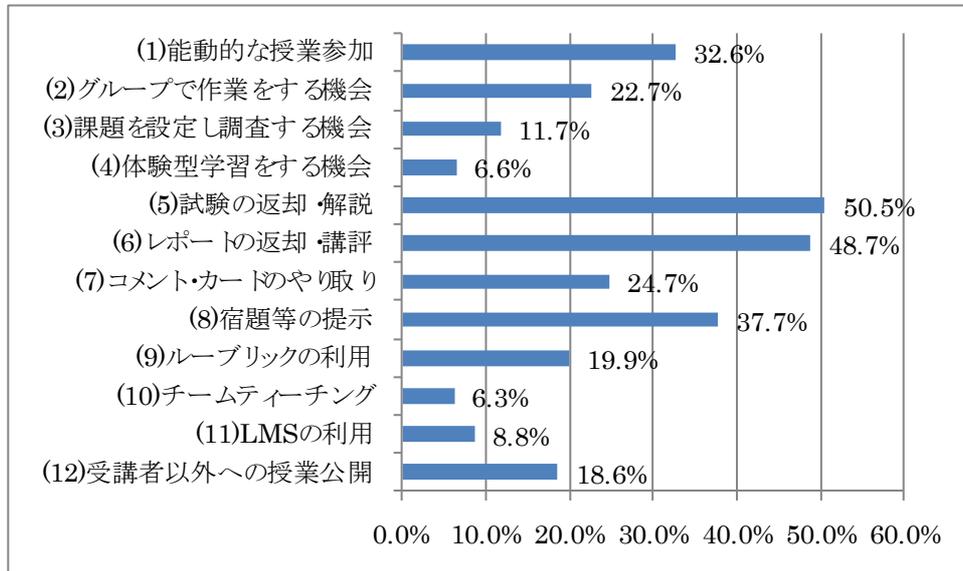
#### 全体の傾向

教育プログラムの実施状況については、「全授業である」「大部分の授業である」「半分位の授業である」「特定授業である」「ほとんどない」の5段階で尋ねている。図表4-1には、半分以上の授業で行われている（「全授業である」＋「大部分の授業である」＋「半分位の授業である」）割合を示している。

もっとも多く行われているのは、「(5) 試験や小テストの返却・解説」「(6) レポートの返却・講評」である。半分以上の授業で行われている割合は5割前後に及んでいる（これに比べると、より手間のかかる「(7) 毎回の授業でのコメント・カードのやり取り」は3割にも満たず低調である）。次いで多く行われているのは、「(8) 授業時間外学習を促進するための宿題等の提示」「(1) 質疑や発表等による、学生の能動的な授業参加」である。半分以上の授業で行われている割合は前者が4割弱、後者が3割強である。単位の実質化や双方向型の授業が求められている現状に鑑みれば、必ずしも高い値であるとはいえない。

一方、あまり行われていないのは、「(10) 複数教員での同時担当（チームティーチング）」「(4) 体験型学習をする機会（教育実習や臨床実習等、資格・免許取得に必要な実習を除

く)」「(11) ラーニング・マネジメント・システム (Blackboard や Moodle 等) の利用」であり、半分以上の授業で行われている割合は 1 割にも満たない。なお、「(9) 成績評価の観点・水準表 (ルーブリック) の利用」は、認知度が高まっている割には、半分以上の授業で行われている割合は 2 割に過ぎず、実際の利用にまでは至っていない現状がうかがえる。



図表 4-1 教育プログラムの実施状況

#### 学科属性の影響力

前項でみてきた教育プログラムの実施状況に対して、設置形態、専門分野、所属学生の学力、学部数といった学科属性はどのような影響を及ぼしているのだろうか。重回帰分析によって検証したい (分析の詳細については章末を参照)。

図表 4-2 に分析結果を示した (半分以上の授業で行われている割合が多い順に左から右、上から下に並び変えて示している)。この結果から、教育プログラムの実施状況には、設置形態や所属学生の学力、学部数の影響力以上に、専門分野の影響力が大きいことがわかる。

すなわち、比較的多く行われている「(5) 試験や小テストの返却・解説」「(6) レポートの返却・講評」「(8) 授業時間外学習を促進するための宿題等の提示」については、特に社会系や教育系のような専門分野ではあまり行われていない。いずれの分野でも半分以上の授業で行われている割合は、(5) (6) については 4 割に満たず、(8) については 3 割前後である。こうした結果には、社会系については授業規模が大きいことが強く関係していると考えられるが、教育系についてはむしろ授業規模は小さいはずであるから、単に行われていないだけなのか、それとも構造的に行われにくい要因があるのか、留意が必要である。

また、双方向型の授業 (「(1) 質疑や発表等による、学生の能動的な授業参加」「(2) グループで作業やディスカッションをする機会」「(3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会」(4)「体験型学習をする機会」) については、双方向型の授業が、教育系では多く行われているのに対し、理学系・工学系ではあまり行われていない。半分以上の授業で行われている割合は、相対的に多く行われている (1) については、教育系で 6 割近い値であるのに対し、理学系・工学系では 2 割前後にとどまっている。また、相対的にあまり行われていない (4) については、教育系でも 1 割弱にすぎないが、理学系にいたっては 0%

である。こうした結果には、教育系については授業規模が小さいことが、また理学系・工学系では、積み上げ型のカリキュラムであることが強く関係していると考えられる。

なお、その他の項目については、設置形態、専門分野、所属学生の学力、学部数といった学科属性の影響力はかなり小さい。

図表 4-2. 教育プログラムの実施状況と学科属性との関係

	(5) 試験の 返却・解説	(6) レポートの 返却・講評	(8) 宿題等の提示	(1) 能動的な 授業参加	(7) コメント・カー ドのやり取り	(2) グループで作 業をする機会
設置形態 国立ダミー 公立ダミー						
専門分野 人文系ダミー				.116 *		
社会系ダミー	-.171 **	-.219 ***	-.154 *	-.126 *		-.129 *
教育系ダミー	-.132 *	-.133 *	-.113 *	.124 *		.104 *
理学系ダミー				-.134 **		-.139 **
工学系ダミー	.175 **			-.135 *		-.169 **
保健系ダミー						
所属学生の学力 学部数						.092 *
調整済みR <sup>2</sup> F値	.077 6.184 ***	.053 4.473 ***	.037 3.397 ***	.085 6.787 ***	.007 1.439	.084 6.754 ***

	(9) ルーブリック の利用	(12) 受講者以外 への授業公開	(3) 課題を設定し 調査する機会	(11) LMSの利用	(4) 体験型学習を する機会	(10) チーム ティーチング
設置形態 国立ダミー 公立ダミー				.048 -.088 *		
専門分野 人文系ダミー						-.161 **
社会系ダミー						-.169 **
教育系ダミー			.108 *		.110 *	
理学系ダミー			-.175 ***		-.156 **	
工学系ダミー			-.116 *			
保健系ダミー						
所属学生の学力 学部数		-.192 ***				
調整済みR <sup>2</sup> F値	.006 1.377	.022 2.408 **	.067 5.455 ***	.003 1.213	.062 5.112 ***	.020 2.262 *

注：\*\*\*は P<0.001、\*\*は P<0.01、\*は P<0.05。

値は標準化偏回帰係数。統計的に有意な値のみ示している。図表 4-4 も同様。

### 3. 高大接続に関わる教育プログラムの実施状況

#### 全体の傾向

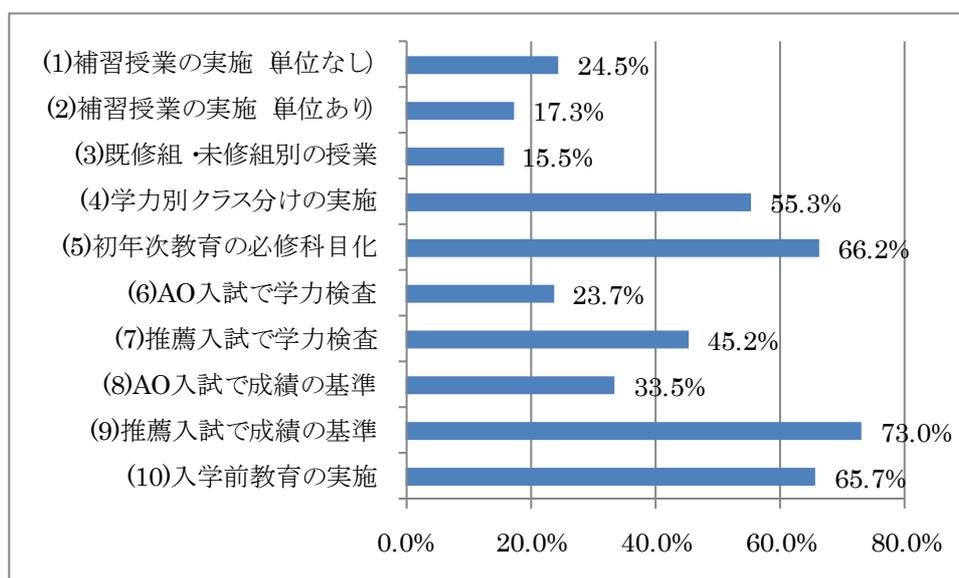
高大接続に関わる教育プログラムの実施状況については、「はい」「検討中」「いいえ」の3段階で尋ねている。図表 4-3 には、「はい」と回答した割合を示している。

もっとも多く行われているのは、「(9) 推薦入試で評定平均値や科目成績の基準を満たすことを求めている」である。その割合は 7 割を越えているが、そう驚くような値ではないだろう。次いで多く行われているのは、「(5) 初年次教育を必修科目として設置している」

「(10) 入学前教育を行っている」である。その割合は 6 割を越えていることから、こうしたプログラムがなければもはや大学教育が立ちいかない状況にあることがうかがえる。

一方、あまり行われていないのは、「(2) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定あり）」「(3) 既修組・未修組に分けた授業を実施している」であり、その割合は 2 割にも満たない。なお、「(1) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定なし）」は 2 割を越えており、単位認定の有無にかかわらず補習授業を実施している割合は 4 割（のべ）に達している。

留意したいのは、「(6) AO 入試に学力検査を採用している」割合が 2 割を、「(8) AO 入試で評定平均値や科目成績の基準を満たすことを求めている」割合が 3 割を越えているという点である。AO 入試は、詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接等を組み合わせたきめ細かな選抜方法であり、推薦入試以上に学力検査や成績の位置づけが曖昧である。しかし、実際の運用ではそれらを評価基準のひとつと考える大学は少なくないようである。



図表 4-3. 高等学校の教育課程との接続

### 学科属性の影響力

前項でみてきた高大接続に関わる教育プログラムの実施状況に対して、設置形態、専門分野、学力、大学規模といった学科属性はどのような影響を及ぼしているのだろうか。重回帰分析によって検証したい（分析の詳細については章末を参照）。

図表 4-4 に分析結果を示した（実施割合が多い順に左から右、上から下に並び変えて示している）。この結果から、高大接続に関わる教育プログラムの実施状況には、専門分野だけでなく、設置形態や所属学生の学力の影響力も大きいことがわかる。

特に所属学生の学力については、「(7) 推薦入試に学力検査を採用している」「(6) AO 入試に学力検査を採用している」を除くすべての項目でその影響力が確認された。特に「(4) 学力別クラス分けを実施している（初年次の英語教育等を含む）」「(10) 入学前教育を行っている」「(2) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定あり）」に対する影響力は大きく、学力の低い大学の実施割合は学力の高い大学に比べ 2 倍前後にもなる。このように、高大接続に関わる教育プログラムは所属学生の学力の低い大学で多く行

われている。高大接続に関わる教育プログラムへの対応は、特に学力の低い学生を多く受け入れ、より多くの教育上の困難に直面している私立大学で進められているといえよう。

なお、「(7) 推薦入試に学力検査を採用している」「(6) AO入試に学力検査を採用している」については、設置形態、専門分野、所属学生の学力、学部数といった学科属性の影響力はかなり小さい。

図表 4-4. 高大接続に関わる教育プログラムの実施状況と学科属性の関係

	(9) 推薦入試で 成績の基準	(5) 初年次教育の 必修科目化	(10) 入学前教育の 実施	(4) 学力別クラス 分けの実施	(7) 推薦入試で 学力検査
設置形態 国立ダミー	-.215 ***		-.394 ***	-.147 ***	
公立ダミー	-.084 *		-.123 ***	-.117 **	
専門分野 人文系ダミー				.114 *	
社会系ダミー					
教育系ダミー					
理学系ダミー	-.113 *				
工学系ダミー			.143 **		
保健系ダミー					
所属学生の学力	-.102 *	-.136 **	-.168 ***	-.210 ***	
学部数					
調整済みR <sup>2</sup>	.107	.017	.245	.128	-.004
F値	8.254 ***	2.109 *	21.195 ***	10.240 ***	.762

	(8) AO入試で 成績の基準	(1) 補習授業の実 施 単位なし	(6) AO入試で 学力検査	(2) 補習授業の実 施 単位あり	(3) 既修組・未修 組の授業
設置形態 国立ダミー	-.160 ***	-.090 *			
公立ダミー	-.128 **		-.136 **		
専門分野 人文系ダミー		-.145 *		-.200 ***	
社会系ダミー				-.136 *	
教育系ダミー				-.128 *	
理学系ダミー	.113 *		.113 *		.148 **
工学系ダミー		.189 ***			.183 **
保健系ダミー	.150 *				
所属学生の学力	-.100 *	-.095 *		-.156 ***	-.112 *
学部数	.131 **				
調整済みR <sup>2</sup>	.066	.079	.014	.091	.056
F値	4.861 ***	6.360 ***	1.795	7.281 ***	4.718 ***

注：重回帰分析の被説明変数には、第2節でみてきた教育プログラムの実施状況（「ほとんどない」=1から「全授業である」=5までの得点を配分）と第3節でみてきた高大接続に関わる教育プログラムの実施状況（「いいえ」=1から「はい」=3までの得点を配分）を用いた。また、説明変数には、設置形態（基準変数を私立とし、国立、公立についてそれぞれダミー変数を作成）、専門分野（基準変数を家政系とし、人文系、社会系、教育系、理学系、工学系、保健系についてそれぞれダミー変数を作成）、所属学生の学力（「低い」=1から「高い」=5までの得点を配分）、学部数を用いた。

## 第五章 「V. 教育成果」

串本 剛（東北大学）

大学教育の成果を把握・評価し、わかりやすい形で公表すると共に、教育改善に活かしていくことは、学士課程教育改革の主要側面のひとつである。本調査では、教育成果の第一義的かつ核心的な指標である学習成果について、どのような情報が如何に把握されているのか、そしてそれらを含めた教育成果に関する各指標が、どの程度重視されているのかを明らかにした。

全体として、①成績評価に関する取り組みが進む一方で、それを使った指標である GPA は依然ほとんど活用されていない、②今回の調査の対象となった学科について言えば、およそ 90%程度の学生が卒業研究を行っていると推計される、③教育成果として最も重視されているのは就職実績である、等の点が指摘できる。

なお私立大学の特徴としては、卒業研究の必修率が低く、指導・審査共に単独実施率が高いこと、また総じて教育成果に対する意識が鮮明であることなどが分かった。

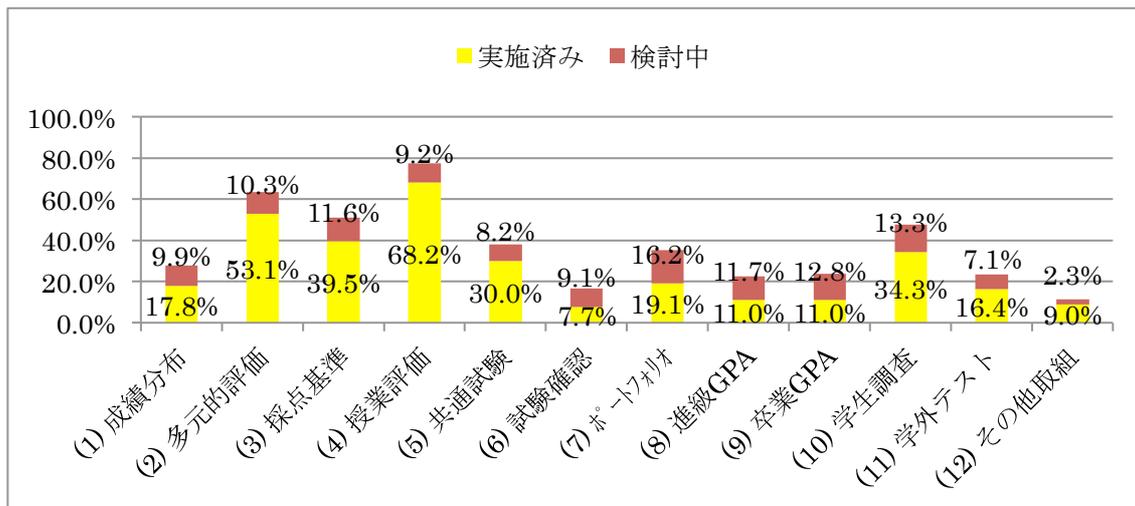
### 1. 本章の構成

本章では教育成果に関する設問である「V-A. 学習成果の把握・評価」、「V-B. 卒業研究」、および「V-C. 教育成果の捉え方」に対する回答を、3つの節に分けて順次記述的に分析する。各節では、回答全体の傾向を確認した上で、設置形態（国立、公立、私立）、専門分野（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、学力（所属学生の学力に対する回答者の認識）、大学規模（単科、中規模、大規模（5学部以上））という4つの学科属性を考慮した分析結果の内、特に目立った傾向が見られた点について言及していく。そして第5節では、教育成果に係わる取組に関連して、今回の調査では十分に明らかにならなかった部分を整理しておく。

### 2. 学習成果の把握・評価

#### 全体の傾向

教育成果を考えるために不可欠なのは、学生が身に付けた学習成果を把握・評価することである。その方法には、成績評価など学生の達成そのもの（もしくはそれを反映した指標）を見る場合（直接的把握）と、学生自身や第三者にその達成度を主観的に述べてもらう場合（間接的把握）が考えられる。学科として如何に学生の学習成果を把握・評価しているかを論じるためには、様々な方法の採否と共に、得られる情報の厳格性を保つための工夫も視野に入れる必要がある。例えば、「成績」という情報を有効活用するためには、成績評価方法やその根拠となる試験のあり方についても、等閑視することはできない。こうした観点から、学習成果の把握・評価に係わる様々な取組の実施状況を尋ねた。



図表 5-1 学習成果の把握・評価

「はい」(実施済み) - 「検討中」 - 「いいえ」(実施なし) の3択で求めた回答結果を示したのが図表 5-1 である。最も実施率が高いのは、授業評価における学習成果の確認で、在学生や卒業生を対象とした学生調査による確認と共に、間接的把握が普及している様子が看取できる。

(1)~(3)で聞いている成績評価に関する取り決めも比較的实施率は高いが、その結果を使った指標である GPA (Grade Point Average) が一定水準以上であることを持って進級や卒業を認めるという取組は、あまり行われていない。

#### 学科属性による相違

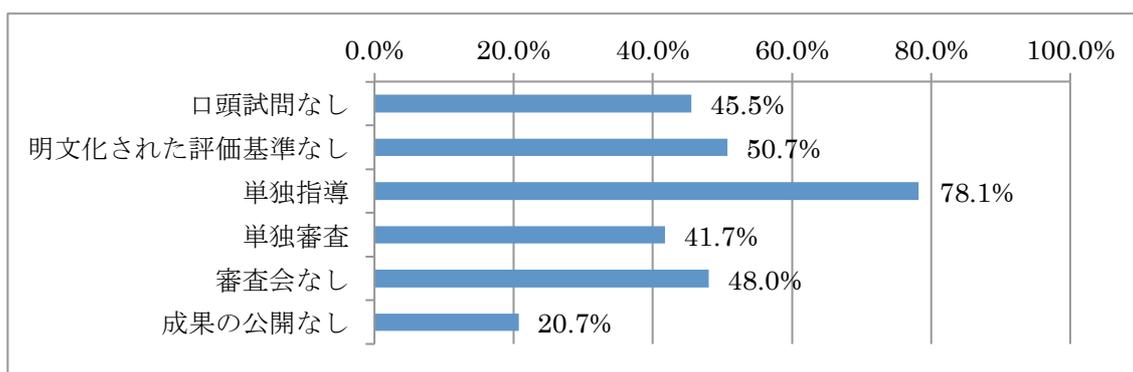
4つの学科属性の内、設置形態と学力の違いは、学習成果の把握・評価に関する取組との間に明確な関連は見られない。また大学規模では、5学部以上の大規模大学において進級、卒業時に一定水準の GPA を求めることが少ないという傾向があるものの、その他の項目には特に影響がない。

対照的に、専門分野の特徴は幾つか指摘できる。まず試験問題の相互チェックは、理学・工学といった理系分野で進んでいる。加えて学生に学習成果の記録(学習ポートフォリオ)を作成させている事例は、教育系や工学系で多い。さらに保健系学科では、進級や卒業において一定基準以上の GPA を求める学科が2割以上となっている。

### 3. 卒業研究

#### 全体の傾向

GPAによる卒業認定が例外的な日本の大学では、学士課程全体としての学習成果を見る機会として、卒業研究は重要な位置づけにあると言える。この科目の設置状況は、必修で77.8%、選択で18.7%であり、選択科目の場合の平均選択率が6割弱であることから、およそ90%程度の学生が、卒業研究を行っていると推計される。また、卒業研究の単位数は1~20と幅があるが、平均は5.7単位で、最低卒業必須単位数の5%ほどを占める。



図表 5-2 卒業研究の設置体制

図表 5-2 には、卒業研究を設置している場合の、その体制についてまとめている。指導は単独で行われることが殆どだが、審査自体を複数教員で行う、あるいは口頭試問を課するという事例は過半数となっている。成果の公開については、学内限定が 57.6%で、学外に対しても開いている例が 21.6%であった。

#### 学科属性による相違

まず卒業研究の設置状況については、必修の割合が私立で低く（72.2%）、所属学生の学力が高めの学科で高い（85.0%）という傾向が見られる。

指導・審査体制では、設置形態および専門分野による差異が複数認められるので、回答が 2 択である口頭試問の有無、指導体制、審査体制、審査会の有無についてロジスティック重回帰分析を行い、各属性を統制してもなお残る影響を検証した（図表 5-3）。

図表 5-3 指導・審査体制と学科属性

		口頭試問（あり）	指導体制（複数）	審査体制（複数）	審査会（あり）
設置	国立	1.502	1.894 *	2.787 ***	2.095 *
	公立	1.143	1.812	2.034	1.388
専門	人文	6.185 ***	0.472	2.066	1.454
	社会	1.419	0.151 **	0.549	0.419 *
	教育	2.253	0.618	1.543	0.804
	理学	4.272 **	0.770	1.561	2.799 *
	工学	13.526 ***	1.077	5.900 ***	26.075 ***
	保健	0.982	0.546	1.032	0.853
学力	低め	0.529 *	0.346 **	1.000	0.733
	平均	0.630	0.728	1.201	0.749
規模	単科	1.030	0.966	1.500	1.663
	中規模	1.776 *	0.774	1.313	1.149
Nagelkerke R <sup>2</sup>		.243	.177	.203	.341

注：値はオッズ比。モデルの検定は全て  $p < .000$ 。\*\*\* $p < .001$ 、\*\* $p < .010$ 、\* $p < .050$ 。

設置（形態）、専門（分野）、学力、規模の基準変数はそれぞれ、私立、家政、高め、大規模。

これによれば、社会科学系や所属学生の学力が低めの学科で、主に単独指導が採られている。また審査体制では、工学系の影響が顕著で、口頭試問あり、複数教員による審査、審査会の実施という傾向がある。これに加え、口頭試問の実施は人文系及び理学系でも多く、私立大学よりも国立大学において複数教員による審査が広く行われているようである。

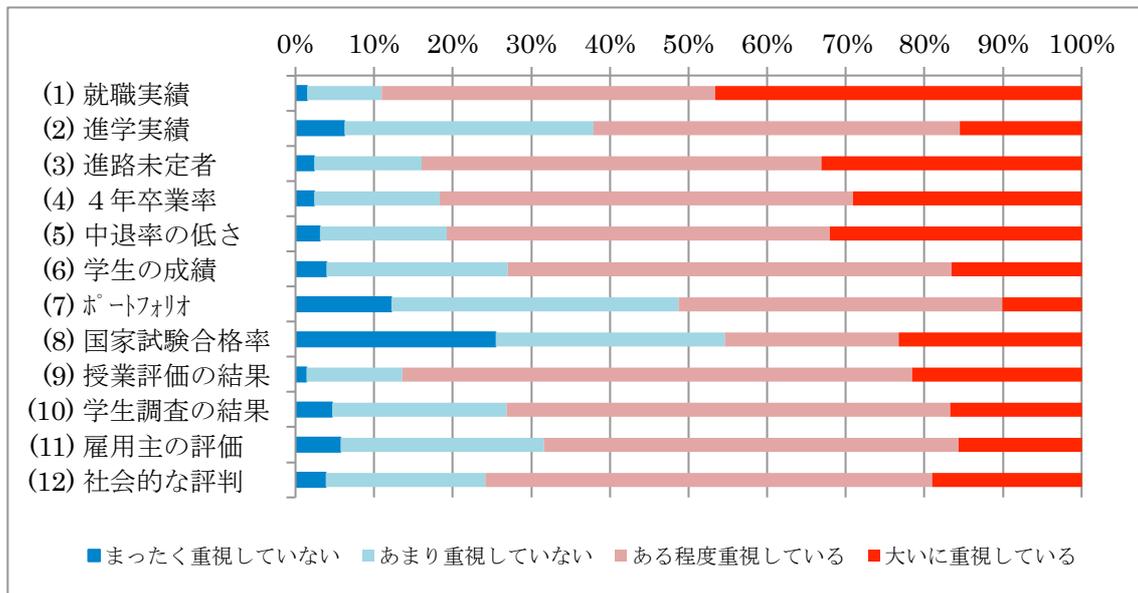
#### 4. 教育成果の捉え方

##### 全体の傾向

ここまでは、教育成果を検討する上で必要と思われる情報を如何に把握しているか、という関心に沿った設問であったと言える。最後に確認するのは、どのような情報を教育成果として重視しているかである。

図表 5-4 には、教育成果の指標と考えられる 12 項目について、重視する程度を回答してもらった結果をまとめている。殆どの項目で肯定的回答が 7 割以上となっているが、進学実績、学習ポートフォリオ、国家試験合格率に関しては、重視していないとする回答も多い。進学実績や国家試験合格率は、学科により関連のあるなしが分かれることが、また学習ポートフォリオについては、第 2 節でもみた通り、実施率そのものが低いことがこうした結果の原因になっていると考えられる。

重視する教育成果は、学科の教育目標と直結しており、学科属性による相違が大きいものと予想される。前節と同様の方法で、その点を検証してみよう。



図表 5-4 教育成果の重視度

##### 学科属性による相違

重要度への回答は 4 段階尺度で求めているので、通常重回帰分析を使って、学科属性の相対的影響力を精査する。なお、モデルの検定で  $p < .01$  の条件を満たさなかった項目に関しては、属性による影響が限定的であると判断し、図表 5-5 には含めていない。また学力と規模については、カテゴリー化していない回答をそのまま連続変数として投入している。

網がけをしてある変数に着目すると、設置形態、専門分野、学力、規模の各属性にまんべんなく散らばっており、教育成果の種類によって、重視する学科の属性が異なっていることが分かる。設置形態では、進学実績を国立大学の方が重視しているのを除き、基準変数の私立大学において重視度が高い項目が多くなっている。

専門分野では、独立変数ごとに横に見ると、保健系において正の標準化係数が有意となっていることが多く、雇用主や社会の評価といった学外からの視線も意識している様子が窺える。他方で独立変数ごとに縦に見ると、国家試験に関しては、人文、社会、理学、工学の4分野で有意な負の値となっている。基準変数は家政系なので、当該分野および保健系では国家試験の結果が重視されていることが分かる。

この他に、所属学生の学力や大学の規模と、重視されている教育成果の関連も散見される。学力との対応はだいたい直観を裏付けるものと言えるが、雇用主の評価は学生の学力が高い場合ほど意識しているというのは少し意外な結果である。学部数では、統計的に有意な変数とならない場合も含め、ほぼ負の係数となっていることから、小規模な大学ほど教育成果を重視する傾向にあると言えそうである。

図表 5-5 重視する教育成果と学科属性

	(1)就職	(2)進学	(4)卒業	(5)中退	(6)成績	(7)ポー	(8)国試	(11)雇	(12)社
国立	-.059	.103	-.142	-.063	-.004	.002	-.116	-.003	-.087
公立	-.019	.001	-.062	-.050	-.102	-.046	-.049	-.122	-.050
人文	-.059	.045	.077	.134	.113	-.054	-.259	-.038	.079
社会	.056	-.068	-.043	.043	.008	-.063	-.152	-.010	.100
教育	.124	-.021	.066	.078	.018	.018	-.059	.101	.087
理学	-.052	.173	.071	.009	-.067	-.153	-.172	-.015	.013
工学	.035	.179	.035	.023	.034	-.076	-.221	-.002	.121
保健	.141	-.026	.073	.096	.149	.043	.351	.209	.236
学力	-.117	.188	-.032	-.138	.042	-.009	.013	.092	.069
規模	-.032	.010	-.091	-.043	-.046	-.055	-.079	-.095	-.072
R <sup>2</sup>	.054	.138	.028	.045	.030	.026	.340	.069	.036

注：値は標準化係数。網がけは変数の有意確率が  $p < .05$  のもの。R<sup>2</sup>は自由度調整済み。

設置形態と専門分野の基準変数は、私立と家政。

## 5. 更なる調査に向けて

教育成果を明示することは、近年の学士課程教育改革における要点のひとつであり、多くの大学が試行錯誤している取組である。学生や教員、さらには雇用主を対象とした質問紙調査の広がりや、その一証左である。間接的な把握に関しても、質問項目の立て方など、検討すべき課題は存在するが、それよりもむしろ、大学の基本的な営みである各科目や卒業研究科目における成績（評価方法）について、再検討する意義が大きいものと思われる。

通常の科目の成績評価に関しては、厳格化ということが言われているが、その意味する

ところは明確ではない。絶対評価か相対評価か、出席や授業態度などの要素を考慮すべきか、などの点は議論の分かれるところであるし、成績評価基準という言葉が指す内容（「優=80点以上」？）も不分明である。このあたりを詳細に論じるためには、今回の調査項目には語句の定義を含め、不備があることは否定できない。

さらに卒業研究についても、科目の設置状況や指導・審査体制など、これまで必ずしも明らかでなかった側面を扱ってはいるものの、実際に卒業研究が4年間の学習成果を評価する機会として適切に機能しているかについては、殆どわからないと言っても過言ではない。明文化された評価基準があるとする学科が半数に満たない中で、その評価結果がどのような能力を如何に保証するものであるかを知るには、研究方法を吟味する必要がある。

いずれにしても、質問紙調査の対象や設問を工夫するということに加え、より質的なアプローチを使って個別事例を扱うことが求められる。

## 第六章 「VI. 取り組み状況についての認識」

吉原 恵子（兵庫大学）

本章では、学士課程教育の構築に向けて、学科としての取り組み状況をどのように認識しているのか、〔難航している⇔上手くいっている〕尺度による自己評価を通して見ていく。

主な分析結果として、教育・学習目標、教育プログラムの設計／実施に関わる評価と改革に関わる教職員の能力開発等の評価は全体として「上手くいっている」のに対して、学習成果の評価方法と評価体制に関する評価は「難航している」が3～4割近くに及ぶことが分かった。また、学外識者等の参画やデータに基づいた学科方針の決定・運営、改革のための資金調達は「必要性」自体が認識されていない割合は1～2割にも及んでいる。

全体として、「取り組み状況」に対する自己評価は、国公立よりも私立大学で数値が低い項目が多く、学生の学力との関連性も高い傾向が読み取れる。また、学科別について全13項目を合計して平均値を見ると、工学系が最も高く、教育系、保健系、人文系がこれに続いている。最も低いのは社会系であり、家政系、理学系がそれに次いでいる。

### 1. 分析内容と方法

本章では、学士課程教育の構築に向けての取り組み状況をどのように自己評価しているかに関する13項目を取り上げる。第2節では、全体の傾向を確認した上で、「必要性を感じない」項目を併せて検討する。第3節では設置形態別（国立、公立、私立）、第4節では専門分野別（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、第5節では大学規模（単科、中規模、大規模〔5学部以上〕）という3つの属性を考慮した分析結果のうち、特に目立った傾向が見られる点について取り上げる。そして最後に第6節では、項目群（下記①～⑥）別に結果から予想される背景要因について、主として、学生の「学力」（所属学科の学生の学力に対する回答者の認識）と「設置形態」に注目して分析を行う。

なお、図表の質問項目は、次のような順で並べられている〔括弧内の数字は質問紙の項目番号〕。また、第6節の分析で使用する項目群とは、以下の①～⑥を指す。

- ① 教育（学習）目標、教育プログラムの設計／実施など「学生の教育・学習」に関する項目 [(1)～(3)]
- ② 学習成果の評価方法と評価体制に関する項目 [(4)～(5)]

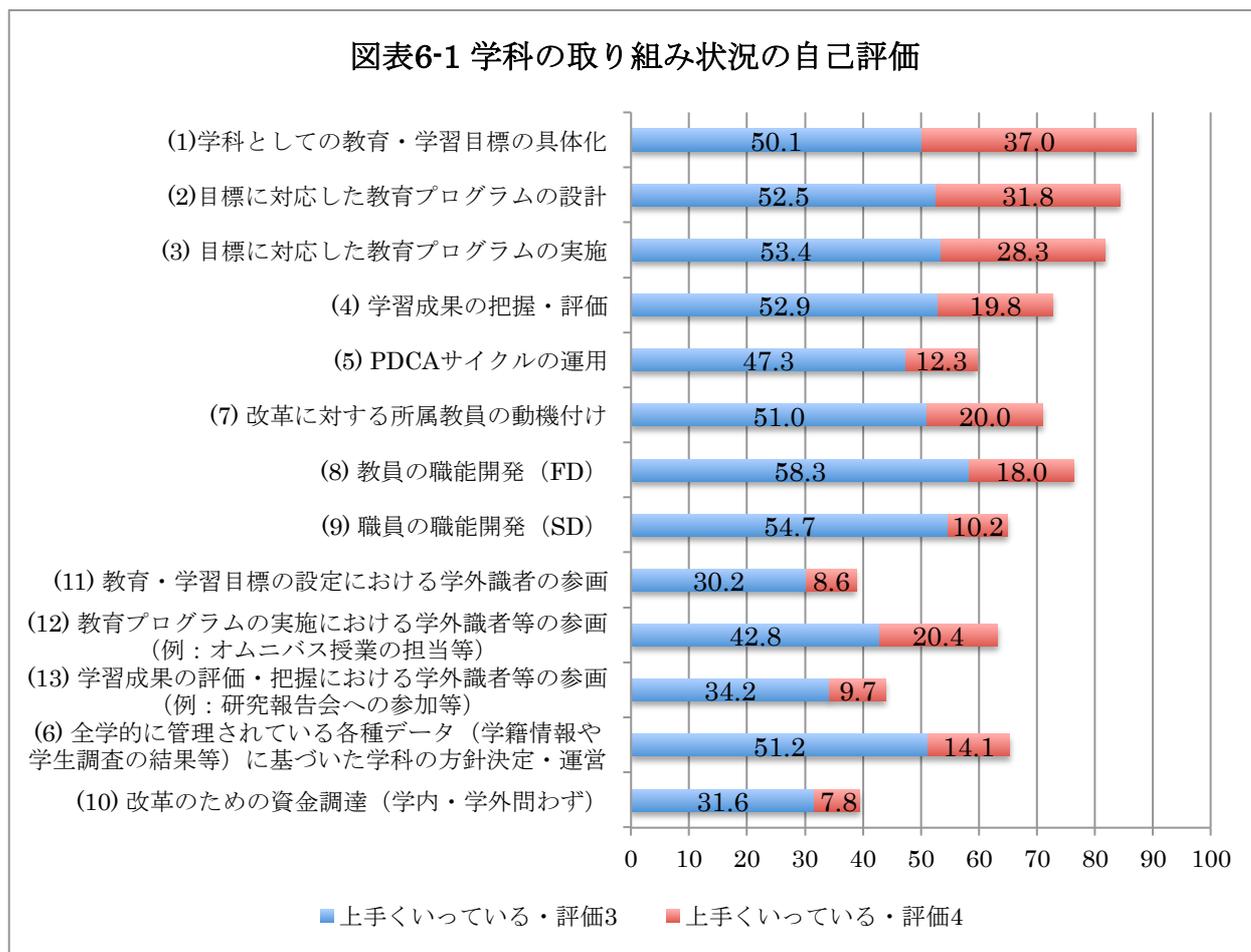
- ③ 改革に関わる教職員の能力開発等に関する項目 [(7)~(9)]
- ④ 学外識者等の参画に関する項目 [(11)~(13)]
- ⑤ データに基づいた学科方針の決定・運営 [(6)]
- ⑥ 改革のための資金調達についての項目 [(10)]

## 2. 学科の取り組み状況の自己評価

図表 6-1 では、13 項目について 4 段階尺度の高い方から 2 段階の数値のみを表した。すなわち、「上手くいっている」【評価 3】と「上手くいっている」【評価 4】を合計した数値である。

### (1) 全体の傾向

これによると、「学生の教育・学習」に関わる項目はどれも、80%を超えている。とくに、「学科としての教育・学習目標の具体化」については 87.1%と高い数値となっている。また、教職員の職能開発に関する項目も 76.3%と定着傾向が見られる。一方、学科の教育・学習目標の設定や学習成果の評価・把握において、学外識者の参画は 30%から 40%台にとどまっている。

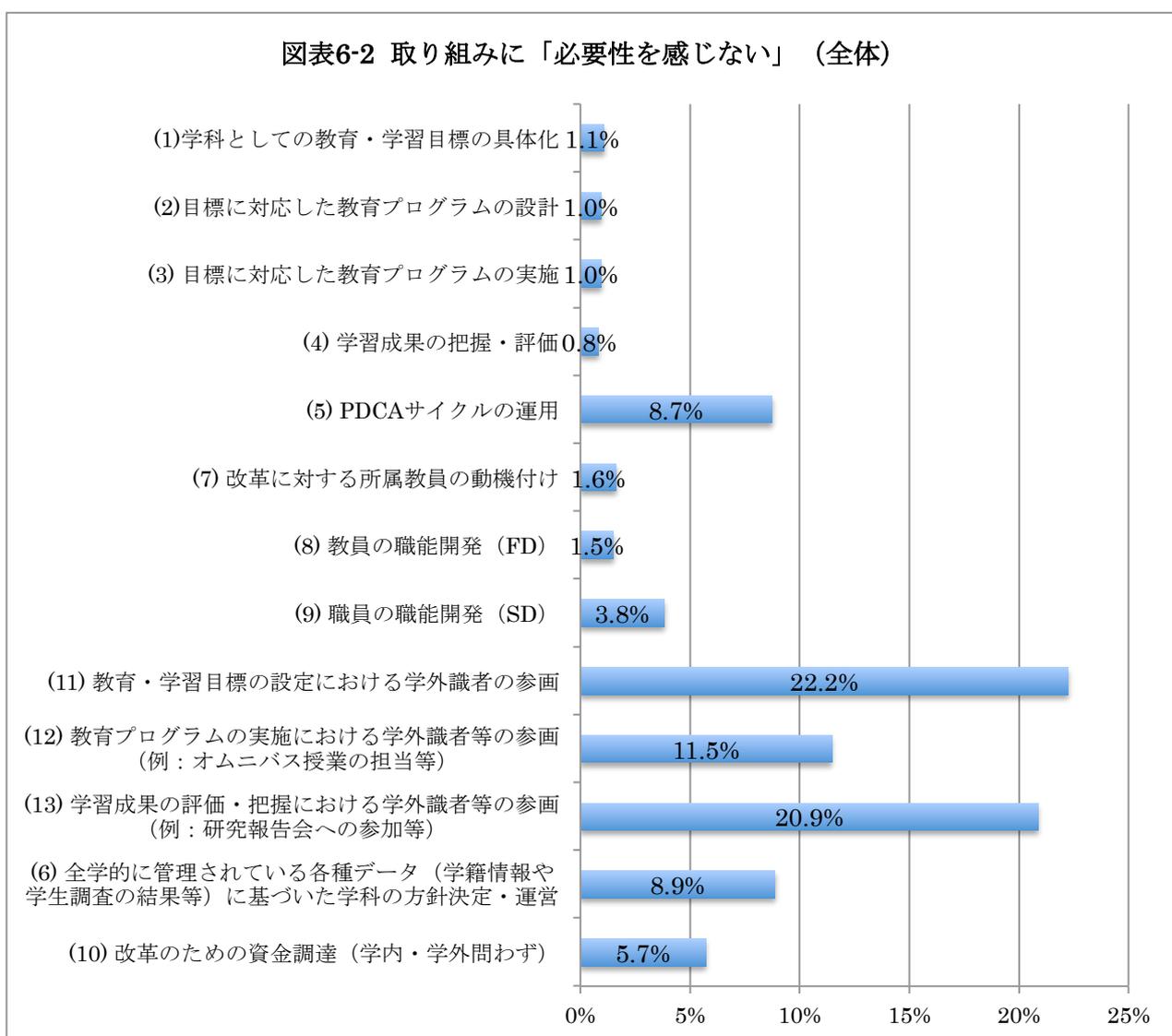


また、PDCA サイクルの運用や IR（計画立案や意思決定に全学的に管理された客観的・系統的データ分析を用いる）を利用した学科の方針決定・運営なども前回調査に比べて実施が広まってきていることがうかがわれる。全体として、学習目標や学習成果「設定」に関する取り組みは進んでいるが、それに対する「評価」については相対的に遅れている。

一方、学外識者の参画による教育・学習目標の具体化や促進、評価の仕組みづくりやデータ利用は十分には進められていないことがうかがわれる。また、これらの活動に必要な資金調達是不十分であると捉えられている。

(2) 取り組みに「必要性を感じない」項目の比率

図表 6-2 では、「必要性を感じない」という選択肢の結果をまとめた。回答者実数（733 票）を分母として、比率を示した。図表 6-1 を参照しながら見ると、「学生の教育・学習」



に関わる項目は、取り組みが「上手くいっている」だけでなく、必要性も高く認識されていることがわかる。一方、PDCAサイクルの運用については、「上手くいっている」【評価4】が12.3%にとどまっているだけでなく、8.7%の学科で必要性自体が認識されていない。

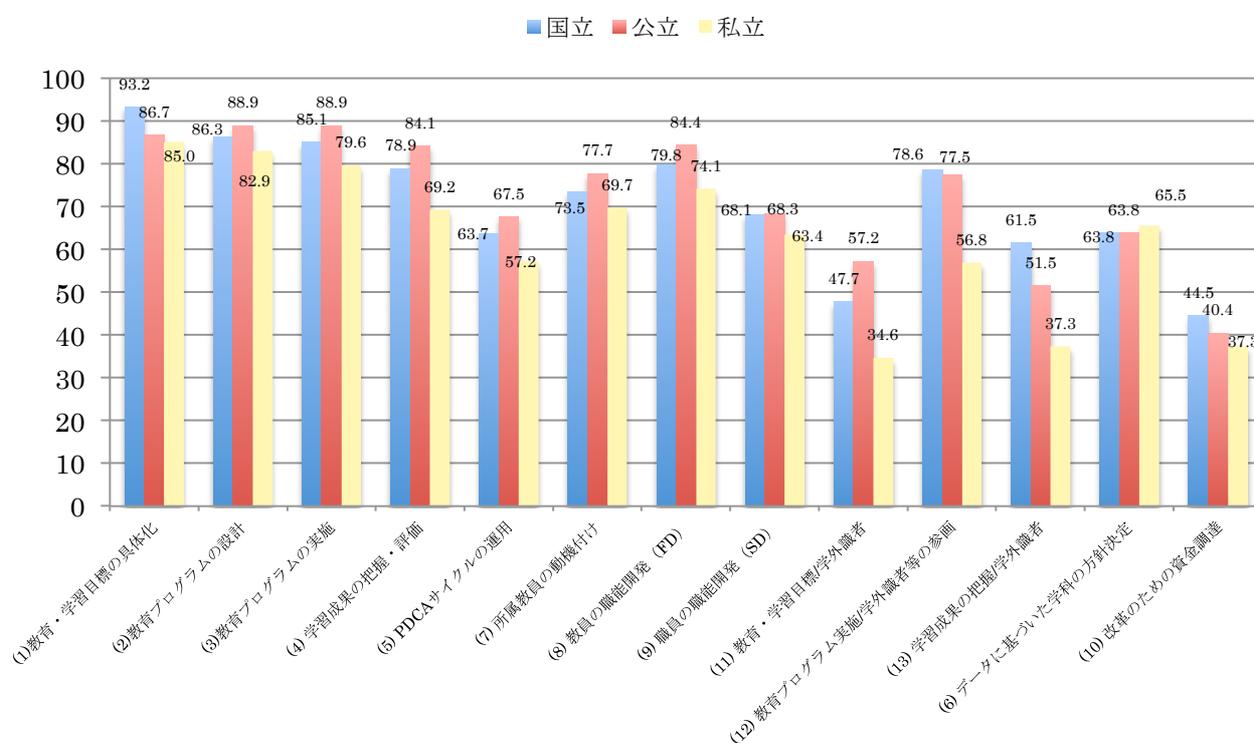
また、最も「必要性を感じない」と捉えられている項目は、「教育・学習目標の設定における学外識者の参画」である(22.2%)。学習成果の把握や評価は、必要性が高く認識されている一方で、それに対する「学外識者等の参画」は必要ないとする比率は20.9%に及ぶ。

### 3. 設置形態別の傾向

学科の学士課程教育構築に向けての取り組み状況を、設置形態別に見たのが、図表6-3である。有効サンプルの設置形態別内訳は、国立大学が23.2% (166大学)、公立大学6.4% (46大学)、私立大学70.4% (505大学)である。

図表6-3では、各項目の「上手くいっている」【評価3】と「上手くいっている」【評価4】の合計値を設置形態別に表した。国公立と私立の対比で見ると、差が目立つ項目は、教育プログラム実施への「学外識者等の参画」である。また、教育・学習目標設定における「学

図表6-3 学科の取り組み状況の自己評価 (設置形態別)



外識者等の参画」では、国立 47.7%、公立 57.2%、私立 34.6%、学習成果の把握における「学外識者等の参画」でも国立 61.5%、公立 51.5%、私立 37.3%、と全体として、「学外識者等の参画」においてばらつきが見られ、国公立に比して、私立大学で低くなっている。

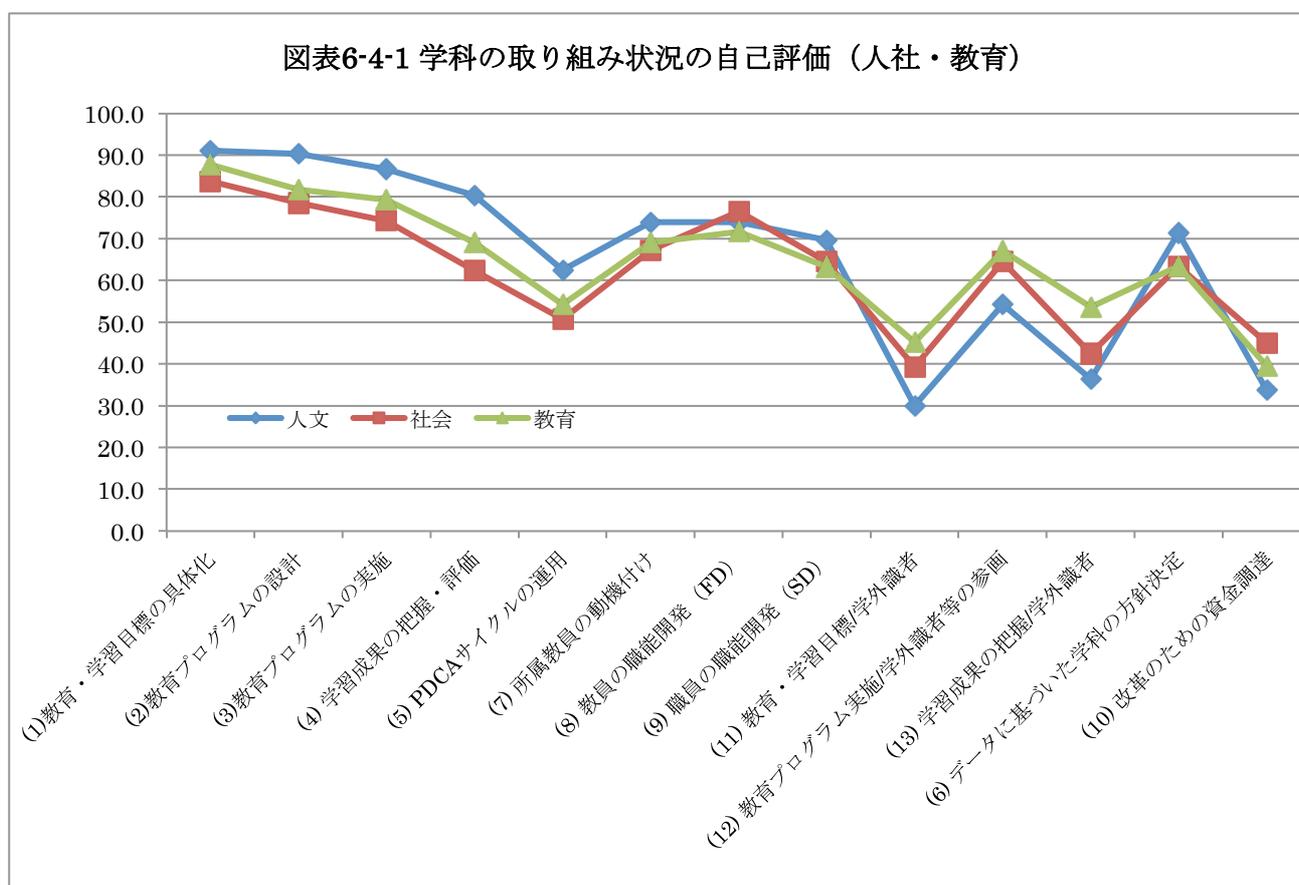
これらの結果の解釈では、サンプル特性として、国立のおよそ 50% が理系（理学系、工学、農学系学科の合計）で占められている一方、公立では 25%、私立では 18.9%であることを考慮する必要がある、そこで次節では、専門分野別のデータを見ることにする。

#### 4. 専門分野別の傾向

図表 6-4-1 および図表 6-4-2 は、各項目の「上手くいっている」【評価 3】と「上手くいっている」【評価 4】の合計値のみを専門分野別に見たものである。ここでは、人文系学科（115）、社会学系学科（163）、教育学系学科(83)、理学系学科（65）、工学系学科（114）、保健系学科（109）、家政学系(37)の 7 分野に分類したカテゴリーを用いる。

##### (1) 人社系および教育系

「学生の教育・学習」に関する項目や学習成果の評価方法と評価体制については「社会」教育」に比べ、人文系の数値が高い。人文系の約 88%が私立大学であり、取り組みの

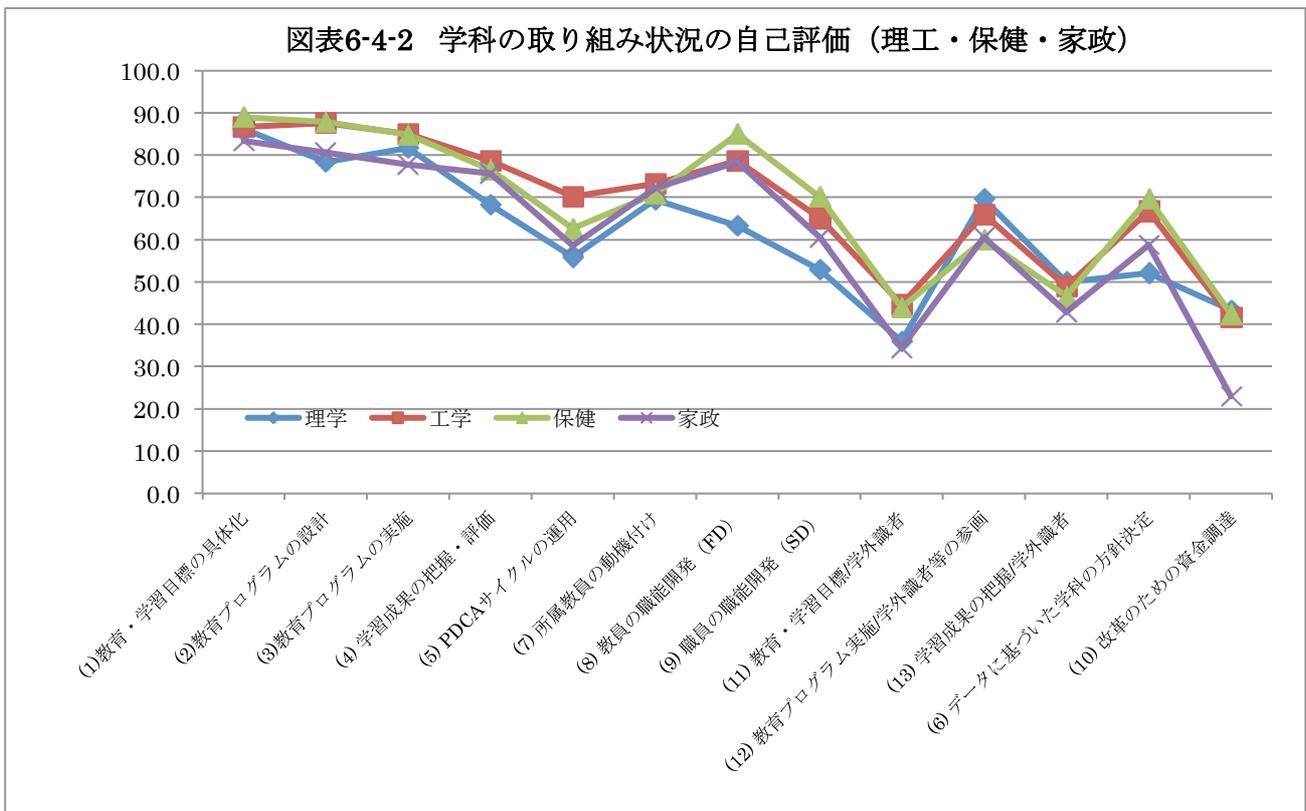


考え方や実施体制などにおいて、私立大学に特徴的要因がどの程度あるのかについては、さらなる分析が必要であろう。一方、「学外識者の参画」については、教育系で数値が高い。FD/SD など改革に関わる教職員の能力開発等においては専門分野による差は小さい。

(2) 理工系および保健系／家政系

一方、理学系は「学生の教育・学習」に関する項目や学習成果の評価方法と評価体制、改革に関わる教職員の能力開発等は、教育系に次いで低くなっている。また、FD/SD など改革に関わる教職員の能力開発等は他のどの学系よりも低い数値となっている。このような取り組みに対する評価は、当該大学や学部学科の組織体制や活動方針の影響を受けることが予想される。

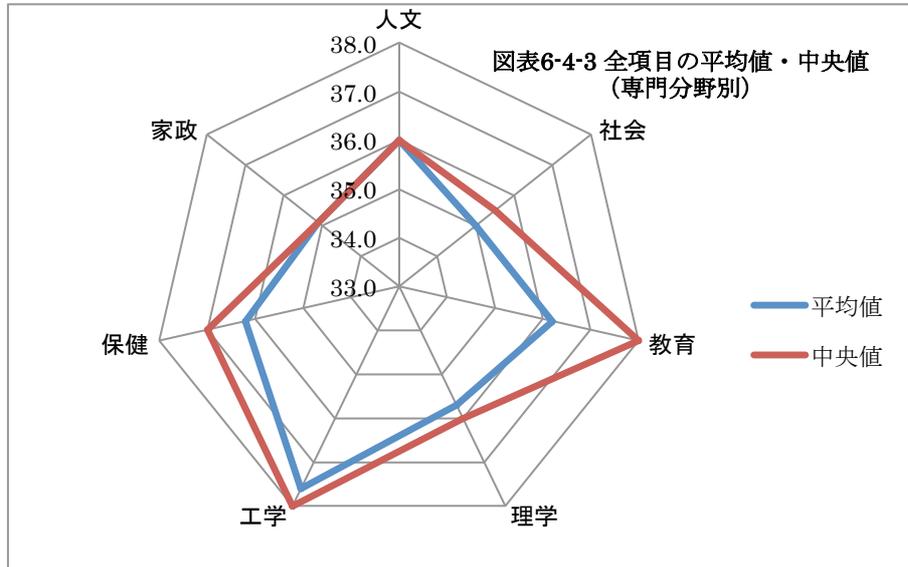
そこで、理学系について国立と私立に注目してみると、国立でFDについて【評価3】と【評価4】の合計が53.3%であるのに対して、私立では56.0%と差は見られないことから、専門性による特性であることがうかがわれる。SDについても同様である。FD・SDについては保健、工学、家政系が人社・教育系よりも高い点であることが注目される。また、理学系は他学科に比べて、IRへの取り組みについての評価の低さがめだっている(図表6-4-1参照)。



(3) 取り組み状況全体の傾向

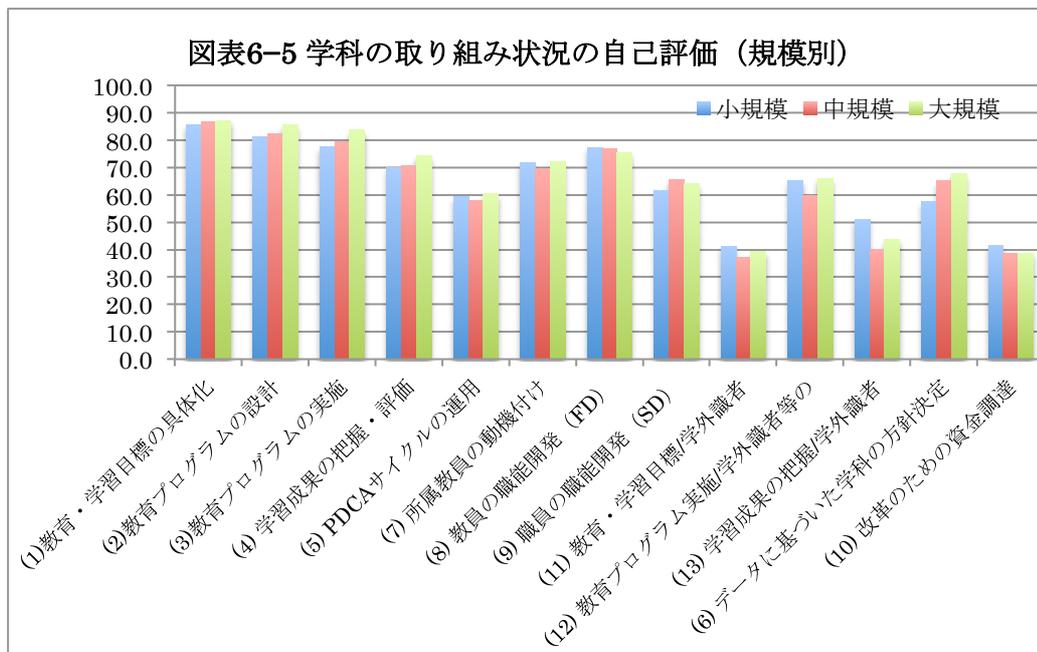
さいごに、取組状況全体の進捗状況を把握するため、専門分野別に13項目の数値を合計

し、その平均値と中央値を図表 6-4-3 に示した。工学系が最も高く、教育系、保健系、人文系がこれに続いている。最も低いのは社会系であり、家政系、理学系がそれに次いでいる。



### 5. 大学規模別の傾向

ここでは、大学規模を学部数により、「小規模大学 (1 学部)」[107 校]、「中規模大学 (2～4 学部)」[272 校]、「大規模大学 (5 学部以上)」[316 校] に分け、学科の取り組み状況の自己評価にどのような傾向があるか見る。



図表 6-5 を見ると、小規模大学では、学習成果の把握において「学外識者の参画」が相

対的に多い。また、IRについては、小規模、中規模に比べて大規模大学で高い傾向が見られるが、それ以外の項目についてはとりわけ目立った特徴的な傾向は見られない。

## 6. 項目群 (①～⑥) 別の背景要因

以上、学科の取り組み状況に対する評価項目を、主な属性ごとに見てきたが、項目内容によって「上手くいっている」と「難航している」の評価を分ける要因が異なることが予想される。ここでは背景要因について、(1)学生の学力が、取り組みの目標設定や成果を評価する場合の方法や体制と関連している、(2)設置形態により取り組みのための組織体制や進捗状況の把握の仕方が異なる、の二点に焦点を絞り、これらが回答者の当該大学および学部学科の取り組みに対する評価に影響を与えると仮定して分析を行う。

そこで、主として「学生の学力」と「設置形態」を取り上げ、①から⑥の分類ごとに分析を行う。なお、ここで「学生の学力」(以下、「学力」と簡略的に表記する場合もある)とは、「貴学科の学生の学力は平均して、全国レベルで見てどのあたりに位置するとお考えですか」への学科長による回答であることを断っておく。

### (1) ①教育(学習)目標、教育プログラムの設計/実施について

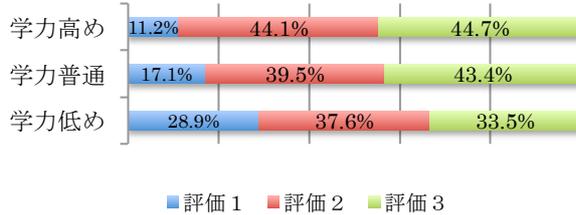
まず、①教育(学習)目標の具体化、教育プログラムの設計/実施など「学生の教育・学習」に関する3項目について、難航している(1点)から上手くいっている(4点)までの数値を合計し、低得点から高得点までを3群(3～8点=評価1、9点=評価2、10～12点=評価3)に分類した。

まず、「学生の学力」との関連を見ると、学生の学力が高い学科ほど教育(学習)目標、教育プログラムの設計/実施の評価が高くなる傾向が見られる(図表 6-6-1:  $\chi^2=21.631$ ,  $p<0.0001$ )。

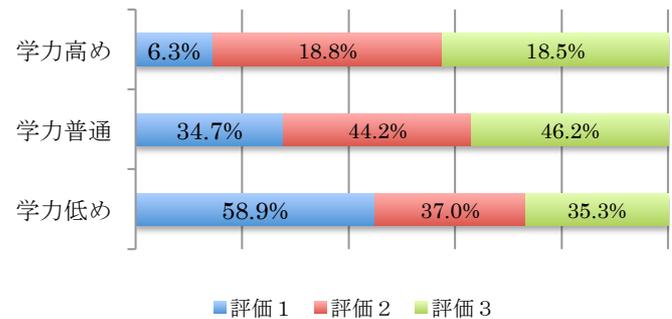
また、設置形態別では国立で「評価3(高い群)」において高い傾向が見られるが、一貫した特徴は見いだせない( $\chi^2=5.462$ , n.s.)。このことから、他の要因を探る必要がある。たとえば、学力の分布に着目すると、「学力高め」群の内訳は、国立が45.1%、公立が15.5%、私立が39.4%である。一方、「学力低め」群の内訳は、国立が5.0%、公立が0.5%、私立が94.5%、を占めている。

そこで、国立大学(166大学)、公立大学(46大学)、私立大学(505大学)別に「学生の学力」ごとに学力との関係を検討した。国立、公立では有意な差は見られなかったのに対して、私立大学では、学力が高いほど教育(学習)目標、教育プログラムの設計/実施の評価も高いことがわかった(図表 6-6-2:  $\chi^2=18.655$ ,  $p<0.001$ )。

図表6-6-1 学力×教育プログラムの設計／実施（全体）



図表6-6-2 学力×教育プログラム設計／実施（私立大学）



(2) ②学習成果の評価方法と評価体制について

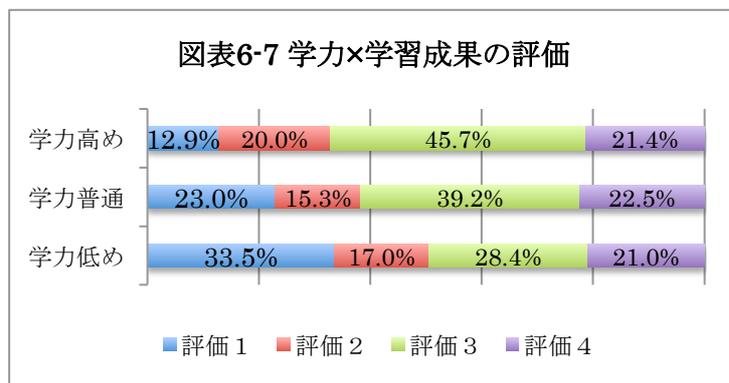
つぎに、②学習成果の評価に関する2項目について、評価の数値を合計して、低得点から高得点までを4群（2～4点=評価1、5点=評価2、6点=評価3、7～8点=評価4）に分類した。

まず、学生の学力が高い学科ほど、学習成果の把握・評価やPDCAサイクルの運用について「上手くいっている」と考える率が高くなることがわかる（図表6-7： $\chi^2=21.904$ ,  $p<0.001$ ）。一方、設置形態別では、国公立と私立において有意な差は見られなかった（ $\chi^2=10.423$ , n.s.）。これは、国公立では学力分布において約9割が「普通」「高め」であるのに対して、私立では「普通」「低め」を合わせて約8割と偏りがあるためである。そのため、私立大学のみを取り出して検討したところ、学力が高めである場合、数値が高い傾向が見られた（ $\chi^2=13.979$ ,  $p<0.05$ ）。

また、学習成果の把握・評価といった活動は、組織的な取り組みを行う環境が整っているかどうかと関係があると考え、学部数・学科数との関連を検討した。学部数では関連は見られなかったが、学科数が多いと評価活動の数値がやや高くなる傾向が見られた（ $\chi^2=20.915$ ,  $p=0.052$ ）。さらに、「学生満足度」や「学生支援」とのあいだに関連が見られた〔それぞれ、第1章-A参照（ $\chi^2=34.099$ ,  $p<0.0001$ ）、第1章-B参照（ $\chi^2=45.755$ ,  $p<0.0001$ ）〕。

さいごに、第5章-C《教育成果に対する貴学科の捉え方》について教育成果の指標として重視している項目との関係についてみた。「就職実績」とは関連が見られない。一方、「4年間での卒業率の高さ」（ $\chi^2=12.661$ ,  $p<0.05$ ）、「中退率の低さ」（ $\chi^2=20.096$ ,  $p<0.05$ ）、「学生の成績（GPA等）」（ $\chi^2=39.966$ ,  $p<0.0001$ ）について重視している場合

に評価活動の数値が高くなる傾向が見られた。

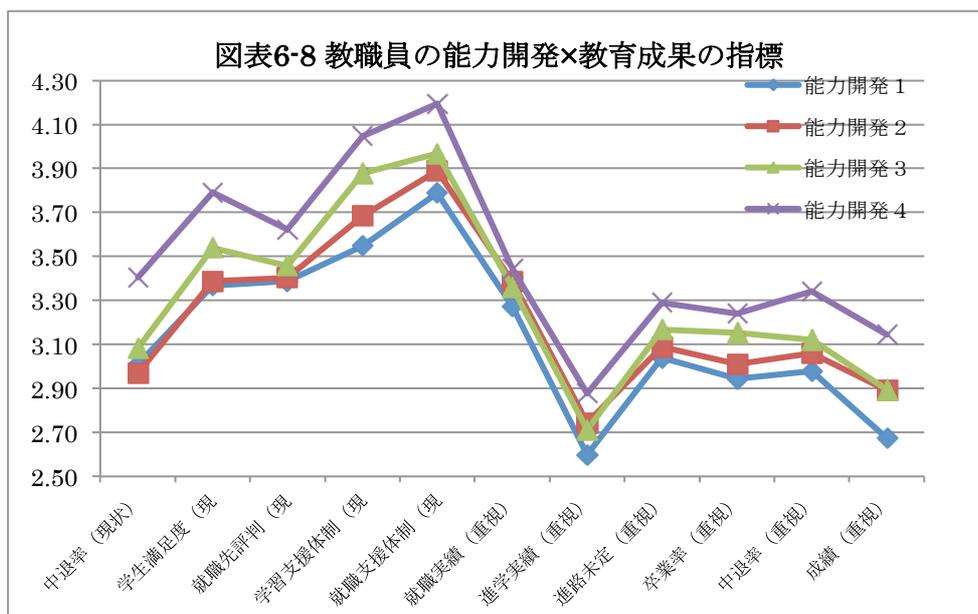


(3) ③改革に関わる教職員の能力開発等について

ここでは、③改革に関わる教職員の能力開発等に関する3項目について、評価の数値を合計して、低得点から高得点までを4群（3～7点=能力開発1、8点=能力開発2、9点=能力開発3、10～12点=能力開発4）に分類した。

本項目群については、学生の学力と、改革に関わる教職員の能力開発等との間に関連は見られない。また、設置形態別においても有意な差は見られない。また、学部数、学科数、設置年数との間にも関連は見られない。

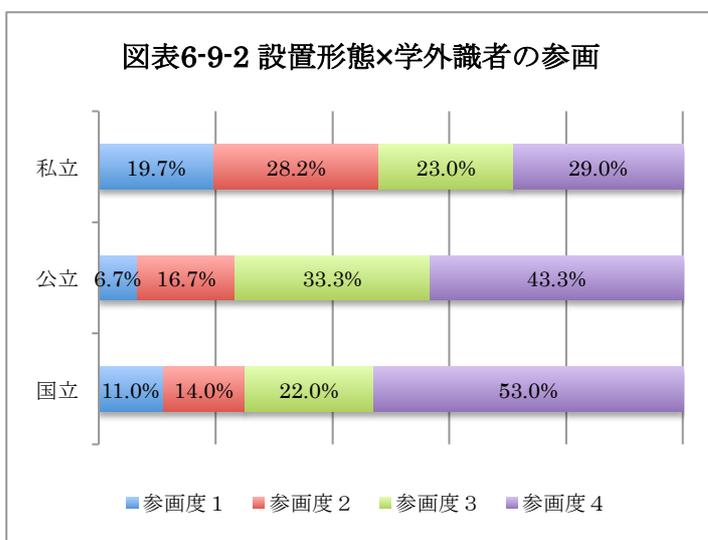
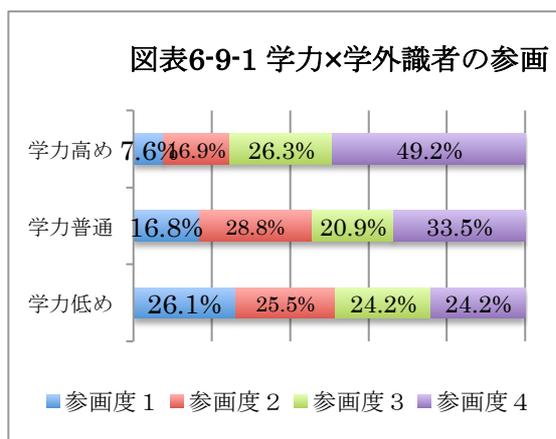
一方、FD や SD など教職員の能力開発等の進捗度合いと学科教育の現状（5段階評価尺度「充実度／改善度」：第1章参照）や教育成果に対する捉え方（4段階評価尺度「重視度」：第5章参照）との関係を見ると、全体として、能力開発が上手くいっているほど、教育成果を重視する度合いが高く、実際の充実度／改善度の評価も高いことがわかった（図6-8）。



(4) ④学外識者等の参画について

④学外識者等の参画に関する3項目について、評価の数値を合計して、低得点から高得点までを4群（3～5点=参画度1、6点=参画度2、7～8点=参画度3、9～12点=参画度4）に分類した。

学外識者等の参画においても、学科の学生の学力の高いほど、「上手くいっている」比率が高まることわかる（図表6-9-1： $\chi^2=30.655$ ,  $p<0.0001$ ）。設置形態別では、国公立が私立よりも高く評価する傾向が見られる（図表6-9-2： $\chi^2=27.812$ ,  $p<0.0001$ ）。



さらに、「学生満足度」や「学生支援」とのあいだに関連が見られた〔それぞれ、第1章-A参照（ $\chi^2=27.467$ ,  $p<0.001$ ）、第1章-B参照（ $\chi^2=30.654$ ,  $p<0.0001$ ）〕。

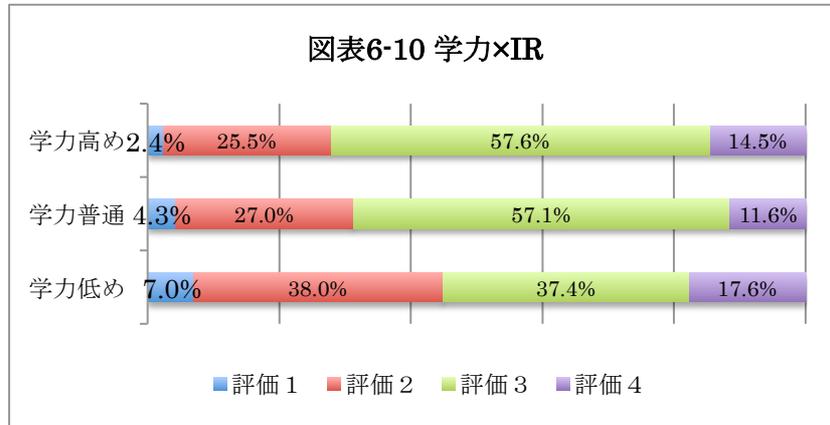
さいごに、第5章-C《教育成果に対する貴学科の捉え方》について教育成果の指標として重視している項目では、「学生の成績（GPA等）」（ $\chi^2=17.808$ ,  $p<0.01$ ）とのあいだで関連が見られた。

(5) ⑤データに基づいた学科方針の決定・運営について

本項目は、最近注目されているIR（Institutional Research）について学科レベルにおける取り組みをたずねたものである。IRは、学内に蓄えられている種々の情報を収集して数値化し、大学の経営管理、教育・研究、学生支援のために、その評価・分析結果を役立てるものである。

全体では、IR活動への評価結果は「難航している【評価1】【評価2】」が昨年度調査の49.2%から34.6%へと減少する一方、「上手くいっている【評価3】【評価4】」が50.9%

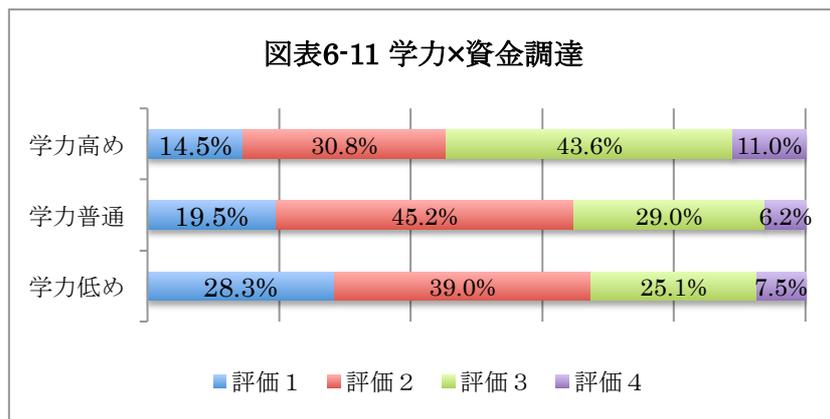
から 65.4%へと大幅に増加した。これを学生の学力別で見ると、学力が高いほど「上手くいっている」とする傾向が見られる（図表 6-10： $\chi^2=22.245$ ,  $p=0.001$ ）。設置形態別では、国公立間で特定の差異は見られない。



(6) ⑥改革のための資金調達について

さいごに、改革のための資金調達について、学生の学力が高い群では、「上手くいっている」度合いが高い（図表 6-11： $\chi^2=27.525$ ,  $p<0.0001$ ）。すでに見たように、学力の分布に着目すると、「学力高め」群の内訳は、国立が 45.1%、公立が 15.5%、私立が 39.4%である。一方、「学力低め」群の内訳は、国立が 5.0%、公立が 0.5%、私立が 94.5%を占めていることが影響していると思われる。

また、設置形態別では有意な差は見られない。



(注) 本節では、取り組み状況についての自己評価の 4 段階尺度を「難航している」【評価 1】、「難航している」【評価 2】、「上手くいっている」【評価 3】、「上手くいっている」【評価 4】として表記する。

## 第七章 「VII. 改革動向への考えと学士課程教育のイメージ」

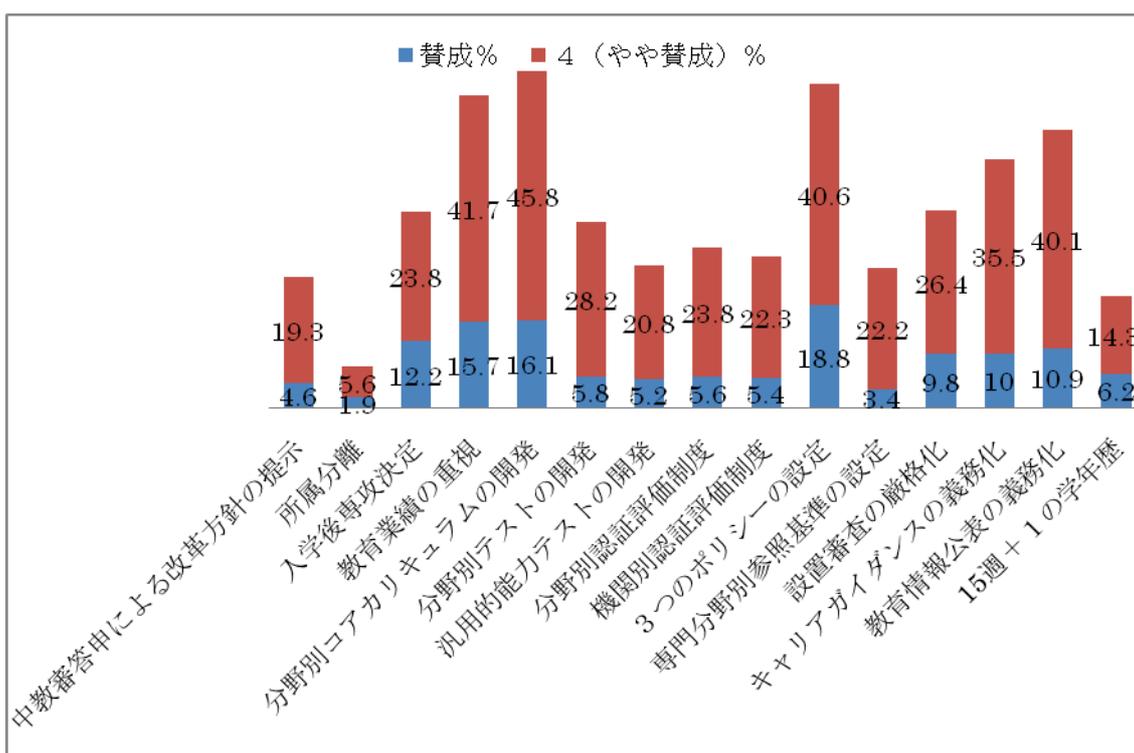
山田 礼子 (同志社大学)

### 1. 本章の構成

本章では改革動向に対する学科長の考えを伺う「VII-A. 近年の改革動向に対する考え」、「VII-B. 『学士課程教育』という用語から浮かぶイメージ」に対する回答について3節に分けて記述する。各節では、回答全体の傾向を確認したうえで、設置形態（国立、公立、私立）、専門分野（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、学力（所属学生の学力に対する回答者の認識）、大学規模（単科、中規模、大規模（5学部以上））という4つの学科属性を考慮した分析結果のなかから、特に目立った傾向が見られた点について示し、3節では今後の調査の改善点について提示する。

### 2. 改革の動向に対する考え方

#### 全体の傾向



図表 7-1 改革動向に対する賛成の度合い

2008年の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」では、各大学が自らの教育理念と学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実させることが強く求められた。2008年答申では、「学士課程教育」は、グローバル化した社会での国際的通用性を意識し、学位授与という大学の教育機能にもとづいた「学位を与える課程（プログラム中心への再整理）」として、整理がなされ、学部・学科ごとの組織中心を越えて、学位授与にふさわしい教育課程の確立が急務であるとされた。結果

として、多くの高等教育機関が、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの確立が普及することとなった。学部・学科ごとの組織や専門分野を超えての共通性を意識したポリシーの確立は決して容易ではないが、本調査においても、3つのポリシーの確立という改革動向へ賛同する高等教育機関が多いことが判明している。近年のFDの義務化にともない、教育業績を重視するという改革の動向への賛同する比率も高い。また、学習成果の評価が求められつつあることの反映とも受け止められるが、分野別コア・カリキュラムの開発という改革動向に賛同する様子が看取できる。

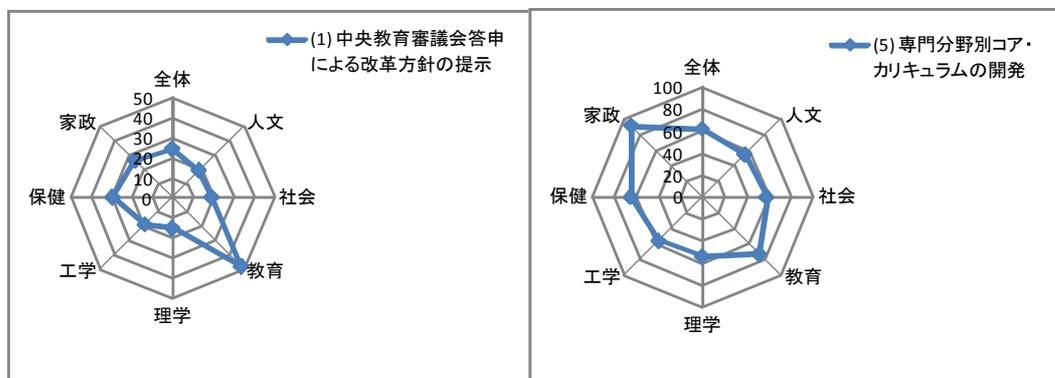
### 学科属性による相違

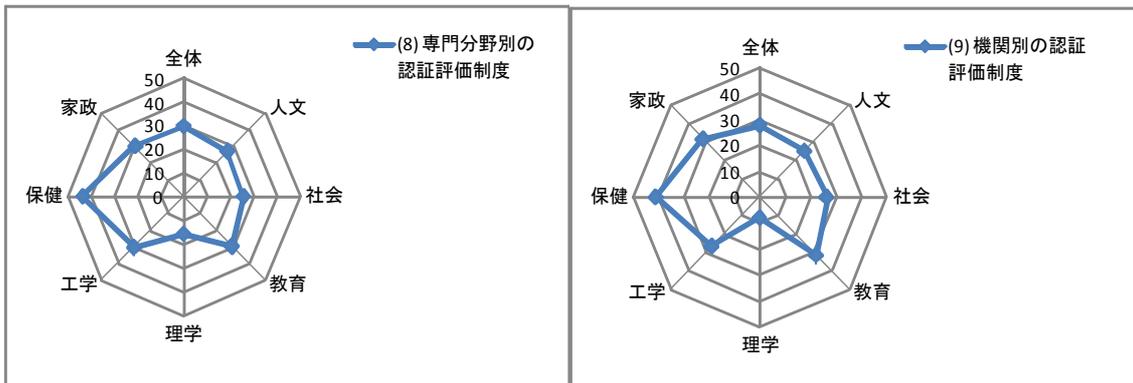
設置形態（国立、公立、私立）、専門分野（人文科学、社会科学、教育、理学、工学、保健、家政）、学力（所属学生の学力に対する回答者の認識）、大学規模（単科、中規模、大規模（5学部以上））という4つの学科属性のうち、学力の違いは、改革動向に関する考え方との間に明確な関連は見られない。「専門分野別に汎用的能力を測る客観テストの開発」についてのみ、設置形態別の回答の違い、すなわち、私立大学が賛意を示す傾向が高いことが確認された。大学規模別では、「機関別の認証評価制度」について、単科大学と4学部以下の中規模大学が賛意を示す傾向が高い。

一方、専門分野と改革動向に関する考え方との間にはいくつかの特徴的な考え方の違いがみられる。

「中央教育審議会答申による改革方針の提示」については、教育系、保健系、家政系といった分野が高い賛意を示す傾向が高い。「専門分野別コア・カリキュラムの開発」については、いずれの分野も賛同している比率が他の項目よりも高いが、家政系、教育系、保健系が賛意を示す比率が特に高い。「専門分野別の認証評価制度」については、逆にそれほど賛同する比率は高くないが、保健系、工学系が比較的賛同している傾向が散見される。「機関別の認証評価制度」については、保健系と教育系が賛同を示す傾向がみられる一方で、理学系は反対の意を示す傾向がみられる。

	全体	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政
(1) 中央教育審議会答申による改革方針の提示	23.9	18.9	19.2	48.1	15.0	18.9	29.2	25.7
(5) 専門分野別コア・カリキュラムの開発	61.9	54.5	58.4	72.9	53.9	56.2	65.1	91.6
(8) 専門分野別の認証評価制度	29.4	26.7	25.9	29.6	15.8	30.4	43.5	29.7
(9) 機関別の認証評価制度	27.7	25.0	26.6	31.7	7.9	26.7	41.1	31.5
数値は⑤賛成と④の回答割合の合計								



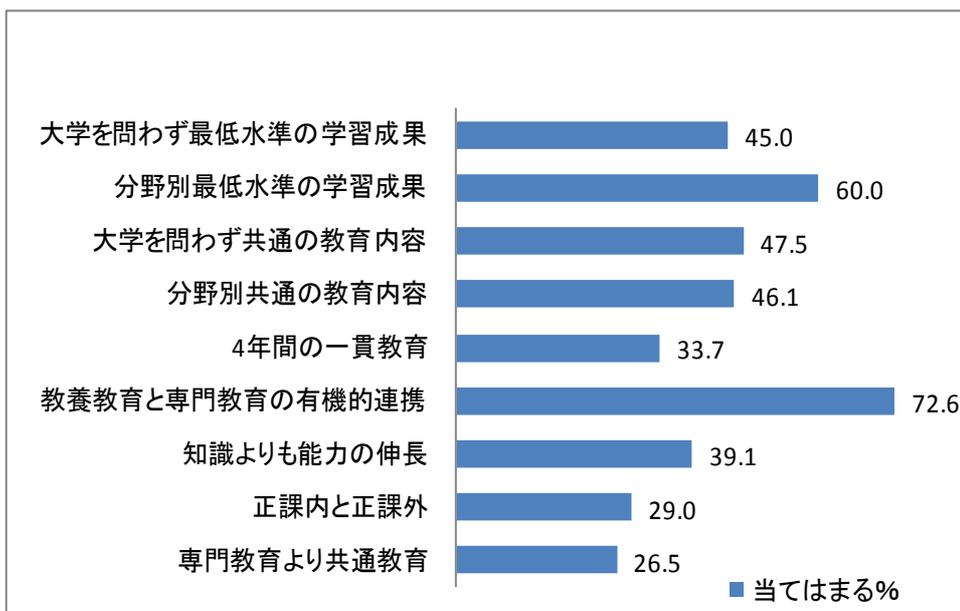


図表 7-2 専門分野別改革動向に対する賛成の度合い

3. 「学士課程教育」という用語のイメージについて

全体の傾向

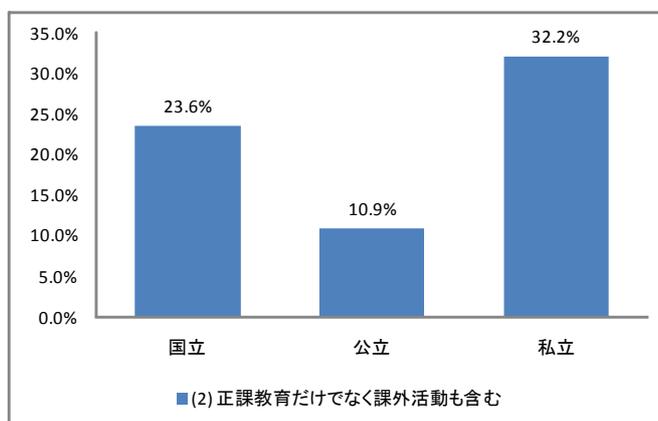
1994年に館が米国のような学位の種類や教育の構成要素に象徴されるような専門分野を越えた共通性が、「学士課程」教育の前提であると整理してからはほぼ7年が経過したが、高等教育機関が専門分野を超えた共通性という認識で「学士課程教育」を構築してきたとは言い難いのが実情である。こうした状況において、「学士課程教育」についてのイメージがどのようなものであるかの設問を設定し、「当てはまる」項目全てに回答してもらった。全体の傾向としては、「教養教育と専門教育の有機的連携」と「専門分野ごとに、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある」が「学士課程教育」のイメージとして持たれている比率が高いことが示されているが、それ以外の項目について「当てはまる」と回答している割合はそれほど高くないことが示されている。



図表 7-3 「学士課程教育」へのイメージ

### 学科属性による相違

「学士課程教育」へのイメージがそれほど進展していないことを反映して、学科属性による相違は明確な関連は見られない。わずかに、「正課教育だけでなく課外活動も含む」という項目において、私立大学が「当てはまる」と回答している割合が高いことが示されている。



図表 7-4 設置形態別「学士課程教育」へのイメージ

#### 4. 更なる調査に向けて

本章では、近年の改革動向についての意見と「学士課程教育」に対するイメージが一定に浸透しているかを各高等教育機関の学科長への調査から纏めてみた。改革動向に対する意見としては、図表 7-1 では賛成と賛成に近い回答を示しているが、設置基準の改正によって義務化されている「3つのポリシーの設定」や「教育情報の公表」については、進捗している状況を反映して反対意見は少なく、賛成の度合いが高い。一方、「15週+1の学年暦」については、多くの大学が既に実施しているにもかかわらず、反対意見が多いことがデータとして得られた。おそらく、分野によっては、学生の「実習」や「海外研修」、「インターンシップ」日程との調整等における困難さも伴っていると推察され、そうした実態の把握なども今後は必要となろう。

「学士課程教育」のイメージは、依然として広く浸透していないだけでなく、共通理解が得られにくいことも今回の調査から把握することができた。学科長に比較的共通して捉えられているイメージは、「教養教育と専門教育の有機的連携」であるが、この文言自体が抽象的で何が有機的連携であるかが不明確であるともいえる。文言の精査とともに、学士課程教育の先進的な事例を収集することを通じて、学士課程教育のイメージを共通認識することも不可欠であると思われる。

## 第八章 「Ⅷ. カリキュラムの今後」

杉谷 祐美子（青山学院大学）

本調査票では、2003年に実施した調査と同じ設問項目を用いて、2つの相対立する選択肢から、各学科の学士課程カリキュラムの今後の在り方として近い考え方を選ぶ問いを設定した。第8章は、その分析を行う。

全体としては、専門教育を重視する傾向はみられるものの、各設問の回答比率に大きな偏りはなく、2つの考え方の間で回答が二分する項目が大半を占めた。2003年の結果と比較した場合には、大綱化以降のカリキュラム改革の動向と反するような、知識志向、アカデミック志向、専門教育の高度化、カリキュラムの厳格化を支持する回答が増大している。ただし、こうした考え方をとる学科は国公立大学や所属学生の学力水準が高いと認識しているところに多く、私立大学では学生のニーズや学習状況に対応する姿勢が顕著となっている。大学の設置形態や学生の学力水準によって、カリキュラムの今後に対する志向性も分極化しつつあるということができよう。

### 1. 本章の分析対象と構成

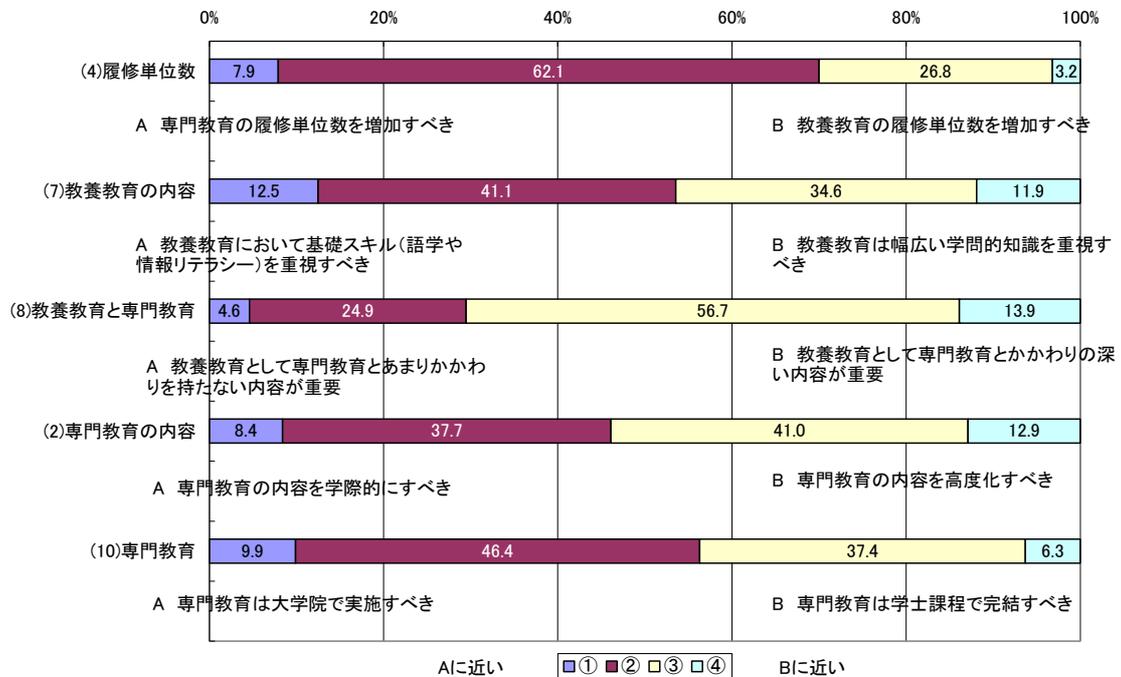
本章では、学士課程カリキュラムの今後の在り方について、2つの相対立する選択肢から各学科の考えに近い方を選択する設問を取り上げ、その回答結果を分析する。設問数は10項目あり、これらは大きく分類すると、教養教育と専門教育に関する設問5問、カリキュラム編成に関する設問3問、カリキュラムの実施組織に関する設問2問から構成される。

以下では、カリキュラムに対する考え方の特徴が明らかになるように、調査票における設問の並び順を変えて、これら設問の3分類の順に回答結果を示す。（ただし、各設問の番号は、調査票の通りとする。）まずは、全体的な傾向を確認し、続いて、①～④までの4件法で尋ねているものを2件法に置き換えたうえで、学科の属性別（設置形態、専門分野、学力水準）の傾向を検討する。さらに、本章で分析した設問は、2003年に筆者が共同研究において実施した学部長調査（吉田 2005）の設問を基本的に踏襲しているため、その回答傾向との比較によって経年的変化をみていく。こうした分析を通して、最後に学士課程カリキュラムの展望と課題を描くこととする。

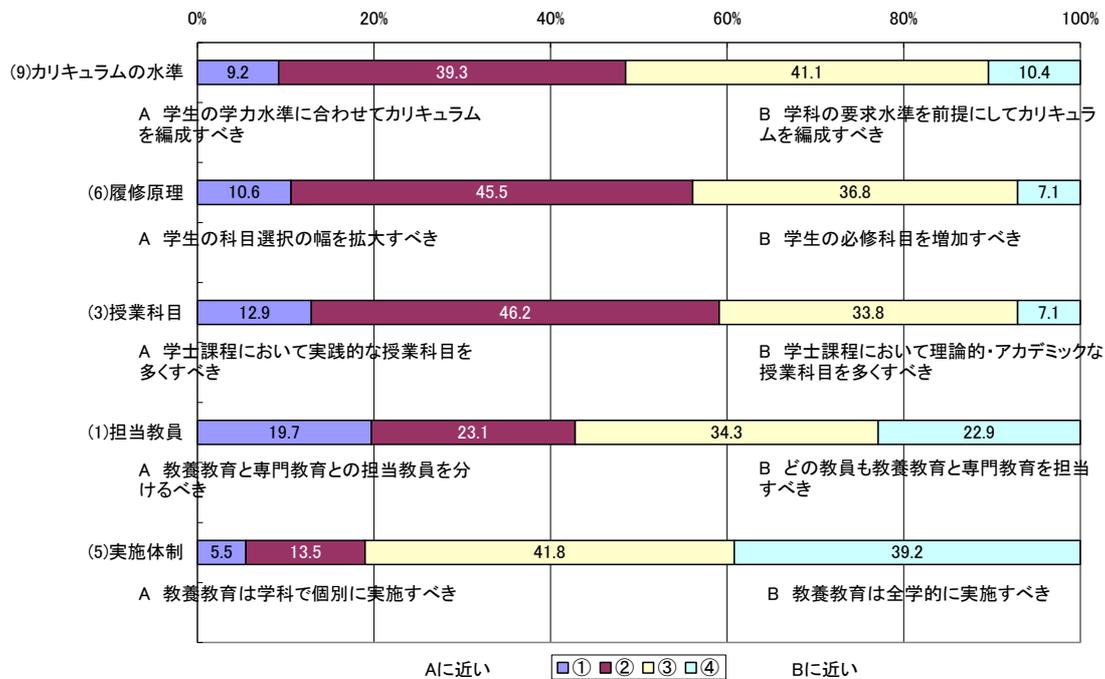
### 2. 全体的な傾向

図表8-1、図表8-2は、回答者の学科におけるカリキュラムの今後に対する考え方についての単純集計の結果を示している。図表8-1では、(4)履修単位数、(7)教養教育の内容、(8)教養教育と専門教育、(2)専門教育の内容、(10)専門教育というように、教養教育と専門教育に関する5つの設問を取り上げている。図表8-2では、(9)カリキュラムの水準、(6)履修原理、(3)授業科目といったカリキュラム編成に関する3つの設問、(1)担

当教員、(5) 実施体制といったカリキュラムの実施組織に関する2つの設問を取り上げている。調査票では、①を「Aに近い」、④を「Bに近い」として、①～④の4件法で各学科長に考え方を尋ねている。



図表 8-1 カリキュラムの今後に対する考え方 (教養教育と専門教育)



図表 8-2 カリキュラムの今後に対する考え方 (カリキュラム編成と実施組織)

まず、単純に A に近いほうの回答 (①+②) と B に近いほうの回答 (③+④) で比較してみた場合、回答に偏りが大きく出た設問が少ないことがわかる。回答が偏った設問としては、(4) 履修単位数、(8) 教養教育と専門教育、(5) 実施体制の 3 つが該当し、A か B のいずれかに 7~8 割の回答が集まっている。それ以外の 7 つの設問では、半々もしくは 6 対 4 程度で回答が二分している。

設問の分類ごとに傾向を示せば、まず、図表 8-1 の教養教育と専門教育に関しては、学科長に尋ねていることもあって、専門教育を重視する方向にあることが明らかである。(4) 履修単位数については、「A 専門教育の履修単位数を増加すべき」という回答 (①+②) が計 70.0% であり、(8) 教養教育と専門教育については、「B 教養教育として専門教育とかわりの深い内容が重要」という回答 (③+④) が計 70.6% を占める。これに対して、教養教育の内容や専門教育の内容・水準などの設問では回答が拮抗している。

図表 8-2 のカリキュラム編成に関する 3 つの設問はいずれも、A が学生のニーズや嗜好に焦点を当て、B が学問や学科の要請に焦点を当てる考え方とみることができる。これらは目立ってどちらかに回答が偏るわけではなく、おおよそ二分している。

残りのカリキュラムの実施組織に関する設問では、(5) 実施体制に関して、「B 教養教育は全学的に実施すべき」という回答 (③+④) が実に計 81.0% を占める。しかも、この設問の場合、より B に近い④の回答が 39.2% と、他の設問に比べて抜きん出て高く、B が積極的に支持されている点が注目される。ところが、教養教育の全学的実施がこれほど高い支持を集めているにもかかわらず、実際の (1) 担当教員については、「B どの教員も教養教育と専門教育を担当すべき」という回答 (③+④) が計 57.2% と後退している。この (1) は①~④の回答比率が最もばらついており、大綱化を経た今日もなお、教養教育の実際の担当をめぐる意見が分かれ、議論が絶えないことがうかがえる。

### 3. 学科属性別の傾向

次に、学科の属性別にカリキュラムの今後に対する考え方がどのように異なるかを検討したい。本節以降では、①~④までの 4 件法で尋ねているものを、A に近い考え方 (①+②) と B に近い考え方 (③+④) の 2 件法に置き換えて、比率を算出している。これらの比率に基づき、設置形態 (国立、公立、私立)、専門分野 (人文、社会、教育、理学、工学、保健、家政)、学科長の自己評価による所属学生の学力水準 (低め、平均、高め) によって、どのような違いがあるか、特徴的な点を明らかにする。なお、10 の設問のうち、(4) 履修単位数、(8) 教養教育と専門教育の 2 つは、上記のどの属性でも統計的に有意な差がみられなかった、すなわち、属性にかかわらず同様の傾向がみられたことを付言しておく。

#### 設置形態による相違

図表 8-3、図表 8-4 は設置形態別の相違を示している。

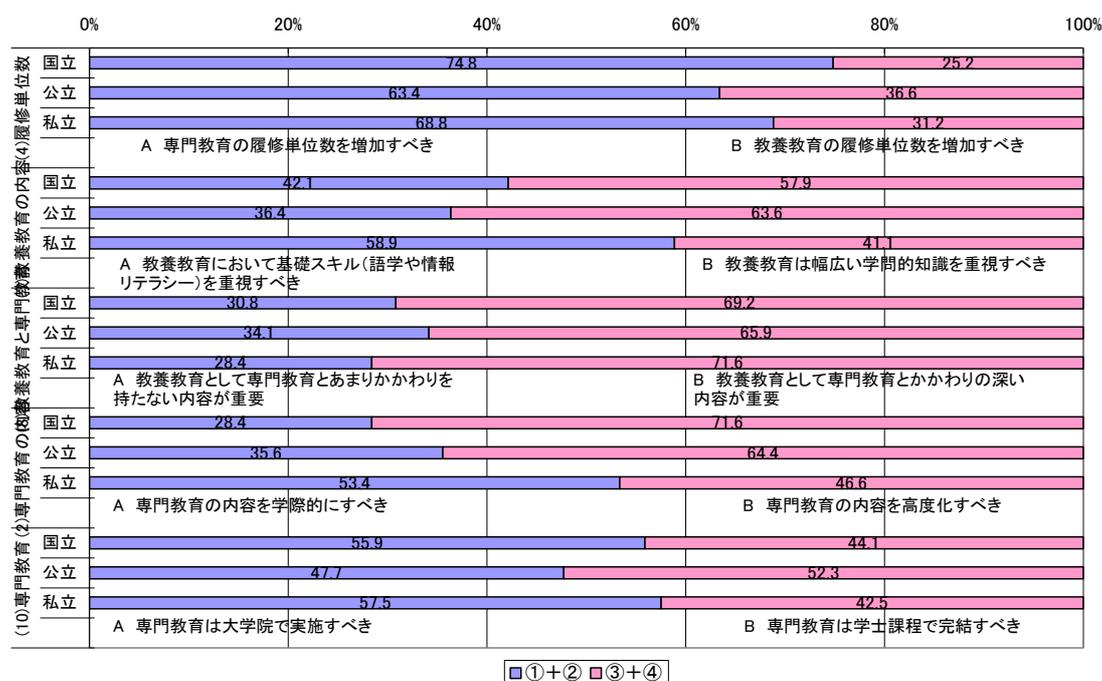
教養教育と専門教育に関する設問やカリキュラム編成に関する設問においては、私立大学に際立った傾向がみられる点に注目したい。教養教育と専門教育に関する設問では、(7) 教養教育の内容について、「B 幅広い学問的知識」よりも「A 教養教育において基礎スキル (語学や情報リテラシー) を重視すべき」という考え方が多く、私立大学は 58.9% に上る。

また、(2) 専門教育の内容について、「B 高度化」よりも「A 専門教育の内容を学際的にすべき」という回答が私立大学では 53.4% になっている。いずれも、国公立大学に比べ顕著に高い値であり、これらは  $\chi^2$  乗検定の結果、0.1% 水準で統計的に有意差がみられた。

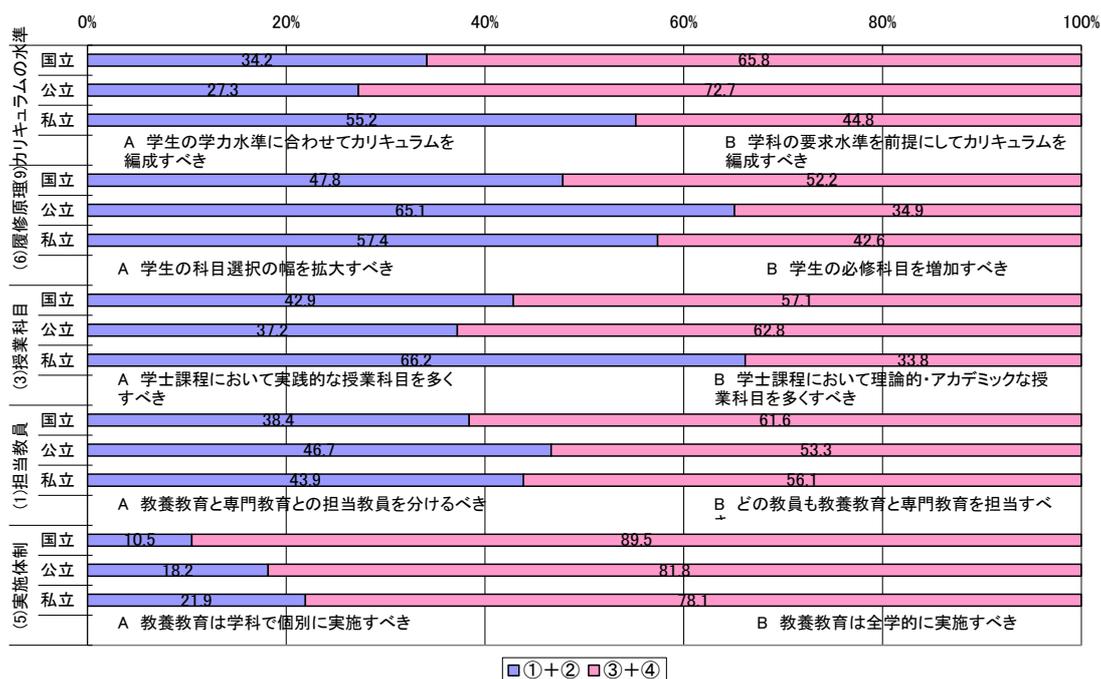
カリキュラム編成に関する設問においては、私立大学が学生のニーズや嗜好に合わせる考え方、すなわち A に近いという回答を選ぶ傾向が明らかである。(9) カリキュラムの水準では、「B 学科の要求水準」よりも「A 学生の学力水準に合わせてカリキュラム編成をすべき」を私立大学の 55.2% が、(3) 授業科目については、「B 理論的・アカデミックな授業科目」よりも「A 学士課程において実践的な授業科目を多くすべき」を私立大学の 66.2% が選択している。(6) 履修原理については、「B 必修科目」よりも「A 学生の科目選択の幅を拡大すべき」という回答が、公立大学で最も多くなっているものの、私立大学も半数を超えている。 $\chi^2$  乗検定の結果、設問 (9) と (3) は 0.1% 水準で、設問 (6) は 5% 水準で統計的に有意差がみられた。

ここまで取り上げてきた設問をみるかぎり、私立大学において過半数を占める回答が国公立の過半数を占める回答と逆転する現象がみられ、両者は対照的ともいえる。私立大学では、カリキュラム編成から教育内容・水準まで学生のニーズや学習状況に柔軟に対応する姿勢が国公立に比べて顕著なことが明らかである。これに対して、国公立大学は学科の要求水準や学問の必要性を重んじる様子がみてとれる。

他方、図表 8-4 の通り、カリキュラムの実施組織に関しては、(5) 実施体制をみると、「A 学科で個別に実施」するよりも「B 教養教育は全学的に実施すべき」を選ぶ回答が国立大学において 89.5% と最も多い。より B に近い④の回答も、国立 (50.6%)、公立 (36.4%)、私立 (35.4%) と、国立は特に高い値となっている。大綱化によって、国立大学のほとんどすべてが教養部を廃止し、全学的な実施体制に移行したが、その改革の方向性を支持する結果となっている。



図表 8-3 設置形態別にみる教養教育と専門教育の考え方



図表 8-4 設置形態別にみるカリキュラム編成と実施組織の考え方

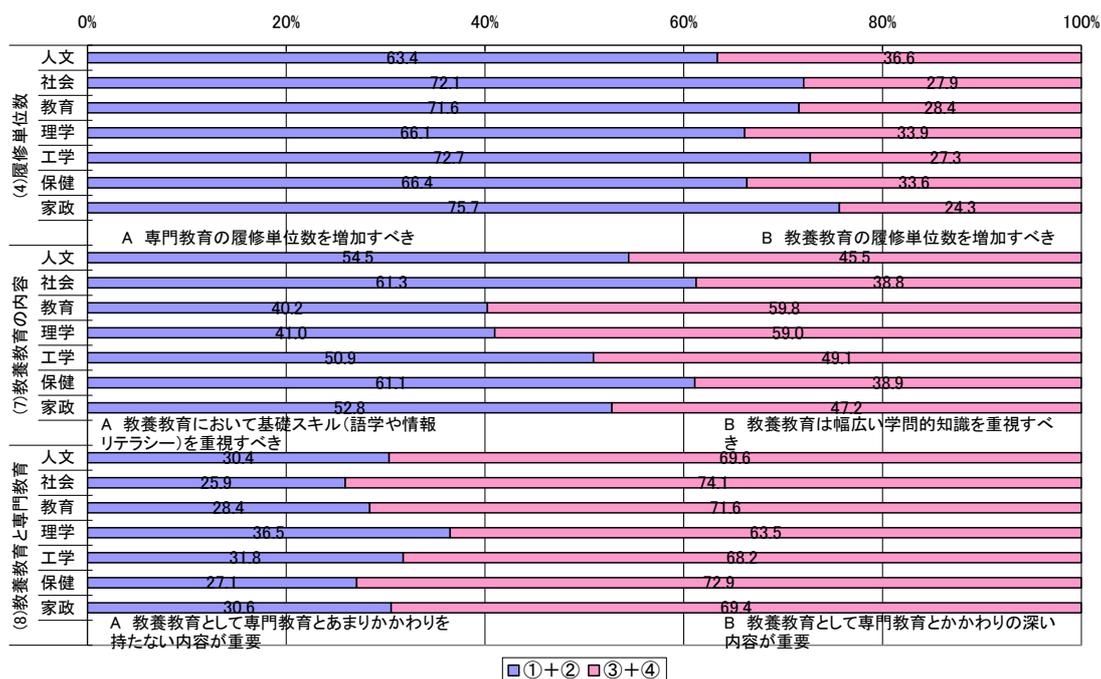
### 専門分野による相違

図表 8-5～図表 8-8 は専門分野別の相違を示している。ここでは、 $\chi^2$  二乗検定の結果、統計的に有意差が示された設問の結果について述べたい。

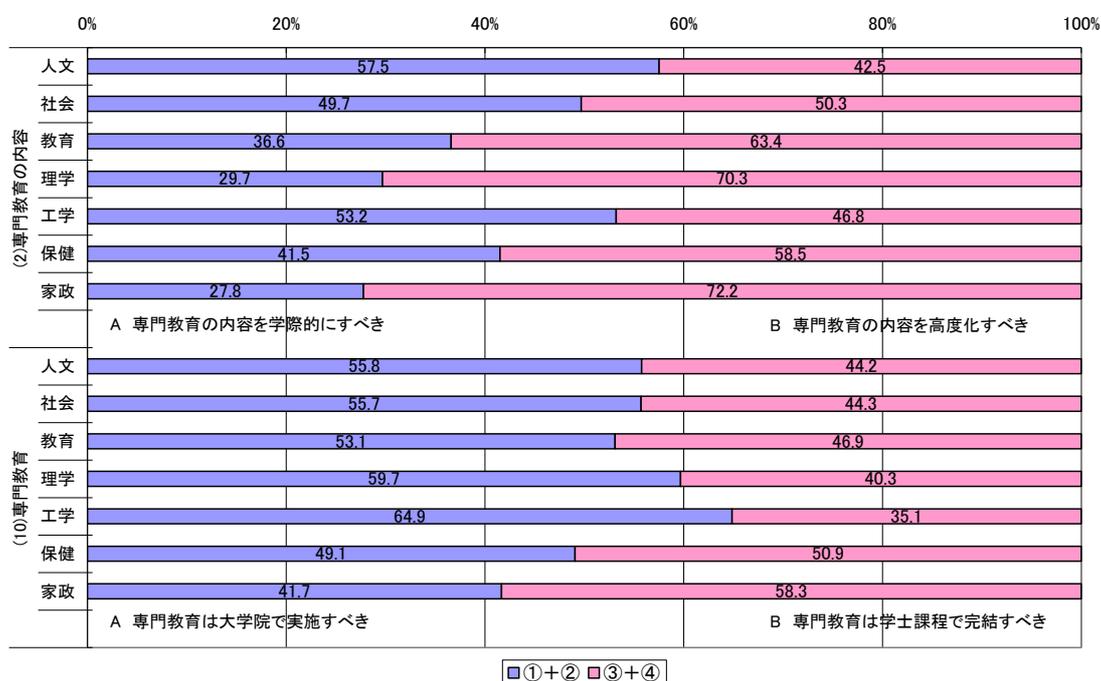
教養教育と専門教育に関する設問（図表 8-5、図表 8-6）では、(7) 教養教育の内容に関して、総じて「A 教養教育において基礎スキル（語学や情報リテラシー）を重視すべき」が過半数に達しているのに対して、教育と理学で「B 教養教育は幅広い学問的知識を重視すべき」が多い結果になっている（5%水準で有意）。また、(2) 専門教育の内容に関して、人文や工学では、「A 専門教育の内容を学際的にすべき」という回答が比較的多い傾向にある一方、家政や理学、さらには教育などで「B 専門教育の内容を高度化すべき」という回答が多く、分野によって傾向が異なっている（0.1%水準で有意）。

カリキュラム編成に関する設問（図表 8-7）は、(6) 履修原理に関して、「B 学生の必修科目を増加すべき」という回答の多い工学と「A 学生の科目選択の幅を拡大すべき」という回答の多い家政との対比ができよう（1%水準で有意）。(3) 授業科目については、理学が「B 理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき」という回答が顕著に多いのに対して、家政や社会で「A 実践的な授業科目を多くすべき」という回答が多い（1%水準で有意）。

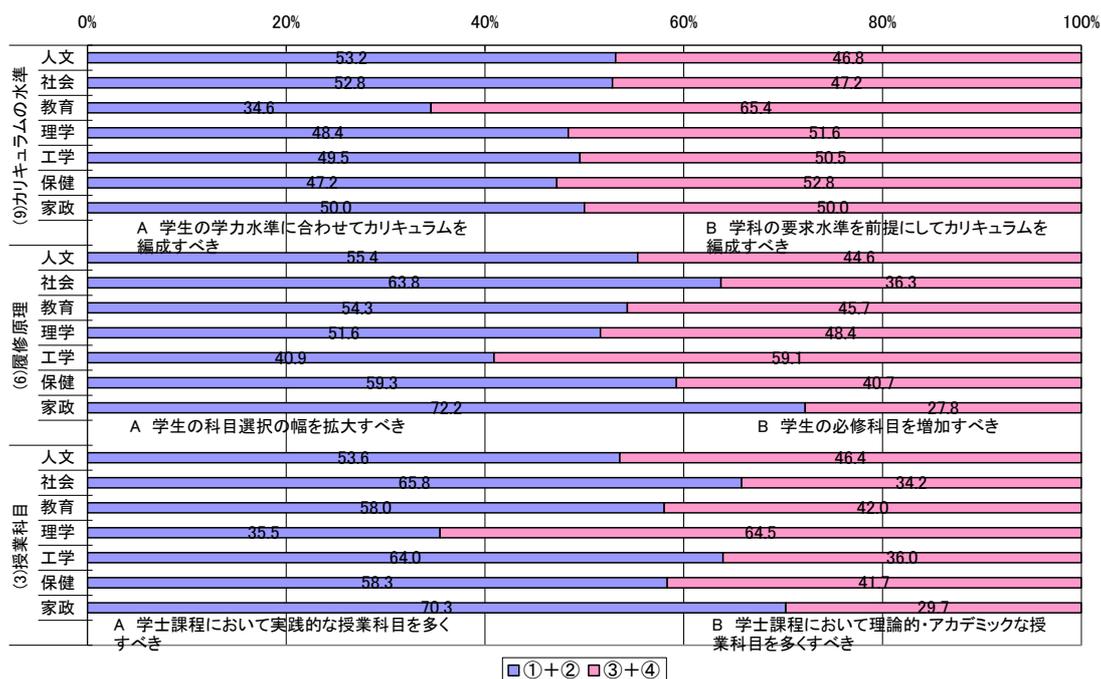
こうした結果からは、専門分野によってカリキュラムに対する考え方は様々であるものの、とくに理学において学問的知識や理論的科目を重視し高度化すべきという考え方が強い傾向がみられる。教育もまたこうした理学に近い側面がある。さらに、工学では学生の必修科目を増加させるとともに、専門教育の内容を学際的にすべきと考える傾向にある。家政は科目選択の幅を拡大し、実践的授業科目を多くすべきと考える一方で、専門教育の高度化を図ることも目指しており、そこには多様なニーズを満たしたい様子がうかがえる。



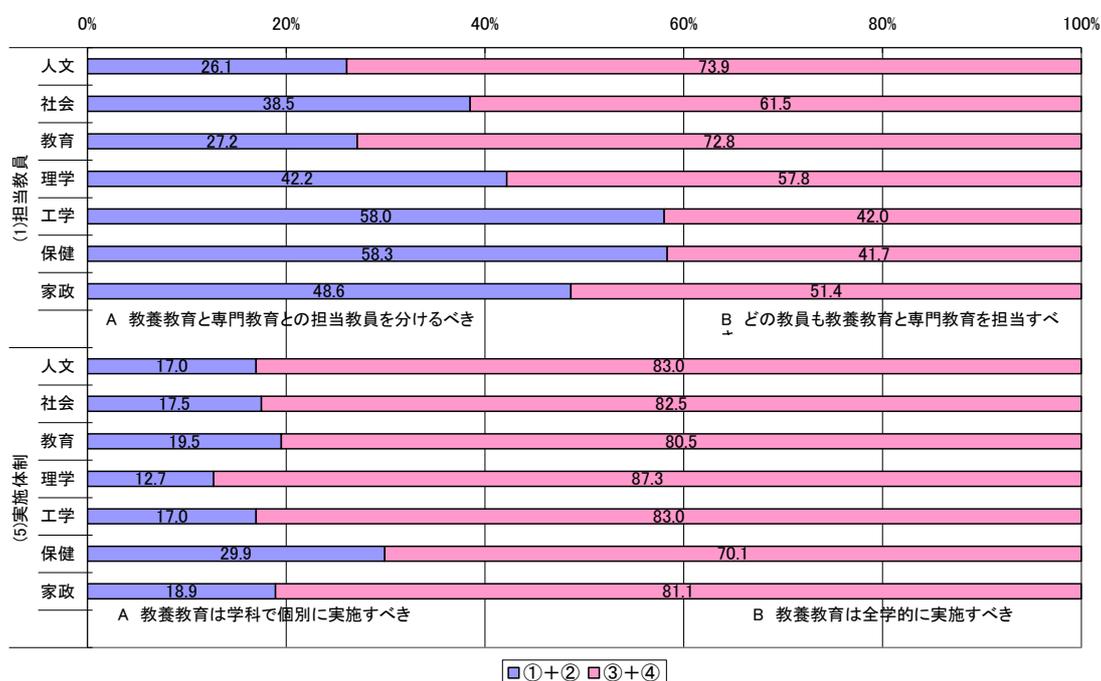
図表 8-5 専門分野別にみる教養教育と専門教育の考え方・1



図表 8-6 専門分野別にみる教養教育と専門教育の考え方・2



図表 8-7 専門分野別にみるカリキュラム編成の考え方



図表 8-8 専門分野別にみるカリキュラムの実施組織の考え方

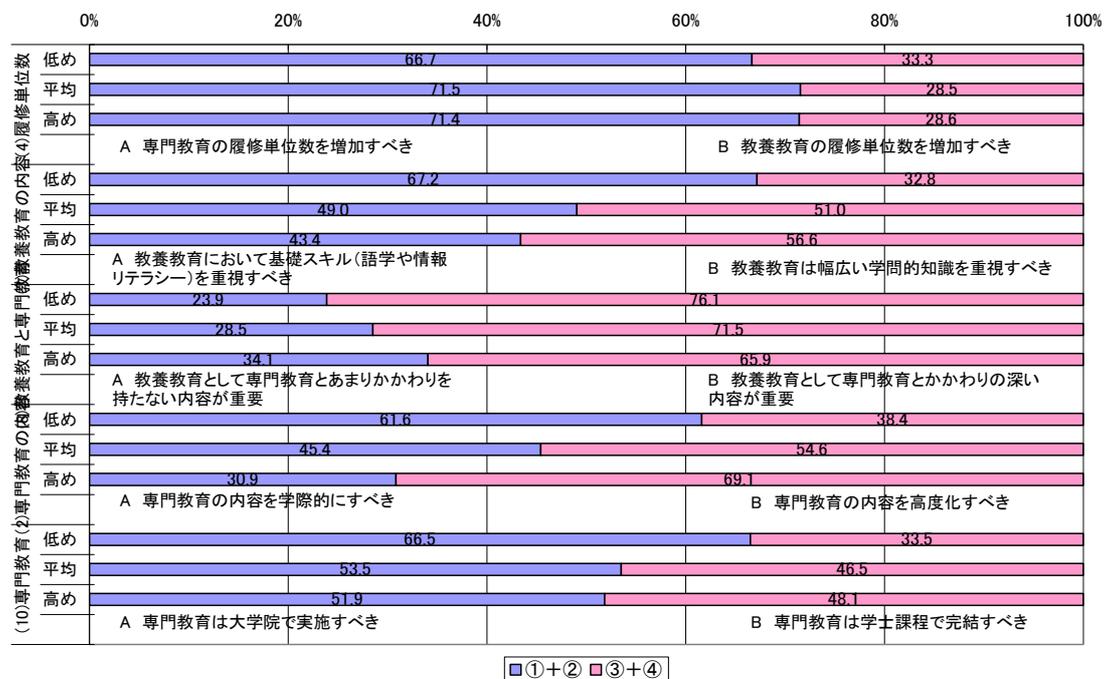
カリキュラムの実施組織に関する設問（図表 8-8）については、(1) 担当教員に関して、人文、教育で「B どの教員も教養教育と専門教育を担当すべき」という回答が多く、保健、

工学で「A 教養教育と専門教育との担当教員を分けるべき」という回答が多く、専門分野によって温度差があることがみてとれる（0.1%水準で有意）。元の4件法でみた場合には、よりBに近い④の回答が軒並み20%前後であるところ、教育（38.3%）と人文（37.4%）でかなり高い値になっている。先行研究からは、教育や人文系の学部に教養教育の担当者が多く所属し、医療系の学部内には教養教育担当者が少ないことが明らかにされている（吉田 2005、p.59）。それゆえ、こうした所属教員数の多寡が、教養教育の担当負担の平等化に対する考え方の違いにつながっているといえるかもしれない。

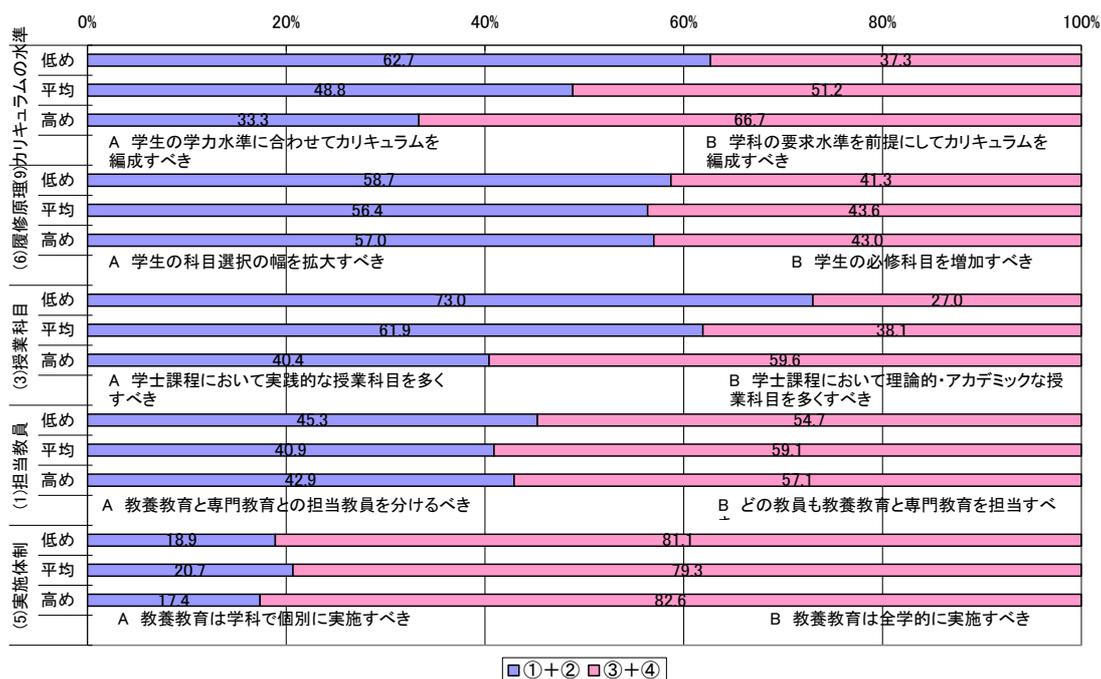
#### 学力水準による相違

最後に、回答者である学科長が認識している学力水準別に検討する（図表 8-9、図表 8-10）。ここでも、 $\chi^2$ 乗検定の結果、統計的に有意差が示された設問を取り上げたい。

差異がみられるのは、教養教育と専門教育に関する設問およびカリキュラム編成に関する設問に限られていた。これらは主に、教育水準や学問志向性に関わる設問である。分析の結果、学力水準の上昇に伴って教育水準や学問志向性が高まっていく傾向が明瞭であり、学力水準との相関が容易にみてとれる。具体的にいえば、学力水準が高ければ高いほど、(7) 教養教育の内容は「B 幅広い学問的知識を重視すべき」という考えが増大し（0.1%水準で有意）、(2) 専門教育の内容は「B 高度化すべき」という回答が顕著に増えていき（0.1%水準で有意）、(10) 専門教育を「B 学士課程で完結すべき」（1%水準で有意）という考えが増大するのである。同様に、学力水準が高いほど、(9) カリキュラムの水準も、「B 学科の要求水準を前提にしてカリキュラムを編成すべき」であり（0.1%水準で有意）、(3) 授業科目も、「B 学士課程において理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき」という考え方が増えることになる（0.1%水準で有意）。



図表 8-9 学力水準別にみる教養教育と専門教育の考え方



図表 8-10 学力水準別にみるカリキュラム編成と実施組織の考え方

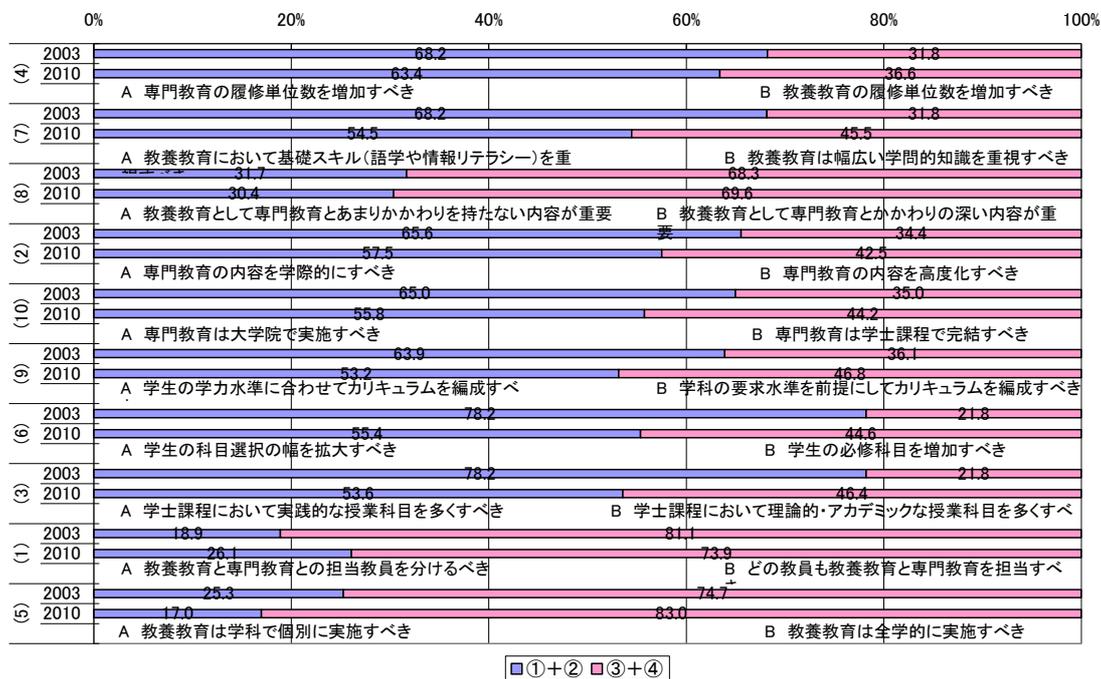
#### 4. 経年的変化

冒頭でも述べたように、本章で分析した設問は 2003 年に行った学部長対象の調査と基本的に同じ設問を用いている。本調査は学科長を対象にしているため、厳密な比較とまではいかないが、2003 年から 2010 年にかけて、管理職者のカリキュラムに対する考え方がおおよそどのように変化したかを捉えることはできるものとする。ただし、2003 年調査は全国の 4 年制大学すべてを対象としたのに対して、今回は専門分野を限定してそれぞれから必要に応じてサンプリング等を行って抽出している。したがって、母集団が異なるため、全体的な比較には慎重になる必要がある。そこで本節では、専門分野別に経年的変化を検討したい。以下の図表 8-11～図表 8-14 では、国家試験に関連する分野のみに限定した保健とサンプル数の少ない家政を除き、2003 年の専門分野系統に合わせ、人文、社会、教育、理工（2010 年は理学と工学を合算）の 4 分野に分けて結果を示す。本文では、2003 年と 2010 年を比較して、20 ポイント以上、あるいは 10 ポイント以上増大した設問を中心に挙げる。なお、選択肢のうち「学科」という言葉が出てくるところは、2003 年調査では「学部」としていたものである。

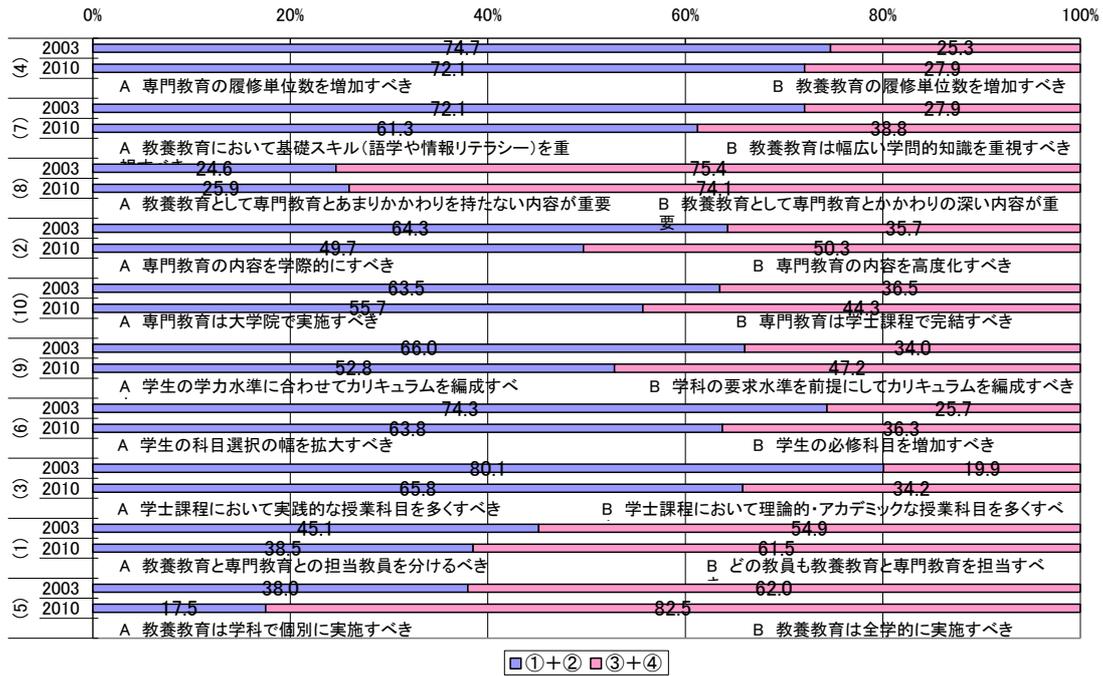
まず、どの分野にも比較的共通した傾向から指摘しよう。2003 年から 2010 年にかけて、4 分野すべてで増大しているのは (3) と (7) である。(3) 授業科目では、「B 学士課程において理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき」と回答したところは、社会で 10 ポイント以上、その他の 3 分野で 20 ポイント以上も増大しており、その増大ぶりは顕著といえる。(7) 教養教育の内容も、「B 教養教育は幅広い学問的知識を重視すべき」が、教育で 20 ポイント以上、それ以外の 3 分野で 10 ポイント以上増大している。また、4 分野中 3 分

野で 10 ポイント以上上回った項目としては、(2)、(9)、(6) が挙げられる。(6) 履修原理は、「B 学生の必修科目を増加すべき」という回答が、人文と理工で 20 ポイント以上、社会で 10 ポイント以上増大した。(2) 専門教育の内容は、「B 専門教育の内容を高度化すべき」という回答が教育で 20 ポイント以上、社会と理工で 10 ポイント以上増大し、(9) カリキュラムの水準は、「B 学科の要求水準を前提にしてカリキュラムを編成すべき」という回答が教育を除く 3 分野で 10 ポイント以上増大した。さらに、(5) 実施体制において、「B 教養教育は全学的に実施すべき」との回答が社会と理工で 20 ポイント以上増大している。これら以外の (8) 教養教育と専門教育、(10) 専門教育ではどの分野も目立った変化はなく、(4) 履修単位数は教育で、(1) 担当教員は理工でやや変化がみられるにすぎない。

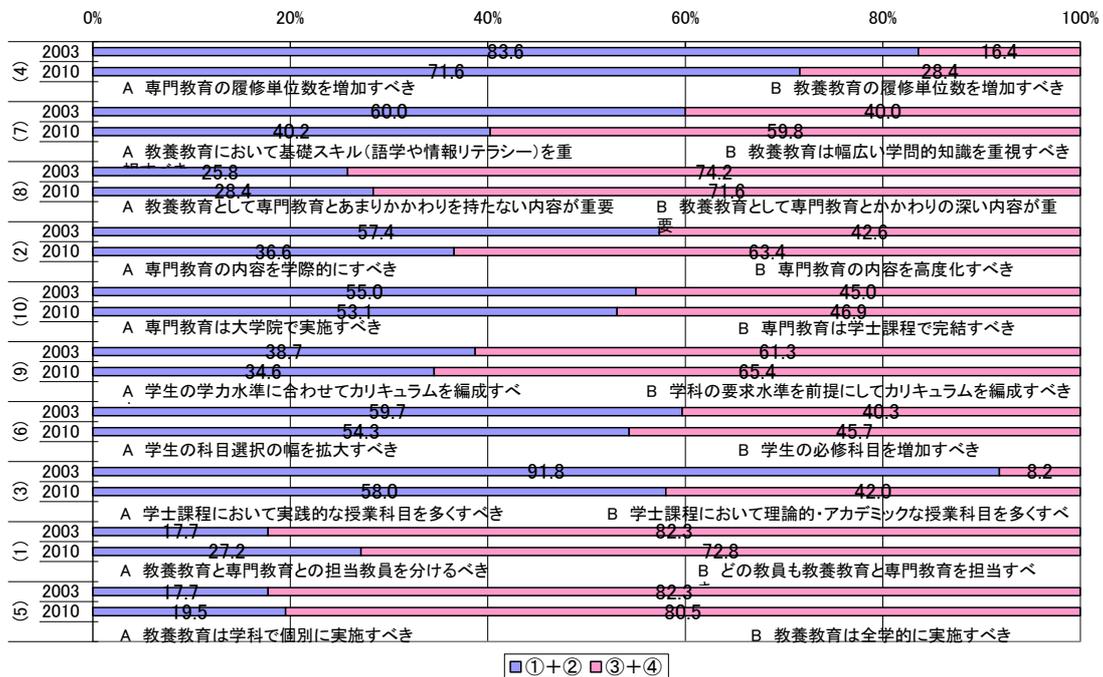
他方、専門分野別にみると、教育では、(7) 教養教育の内容について「B 幅広い学問的知識を重視すべき」という回答が、(2) 専門教育の内容について「B 高度化すべき」という回答が、(3) 授業科目では「B 学士課程において理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき」という回答が 20 ポイント以上、それも他の分野に比べて際立って増大している点が特徴的である。また、人文と理工では、(6) 履修原理について、「B 学生の必修科目を増加すべき」という回答が、(3) 授業科目について、「B 学士課程において理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき」という回答がいずれも 20 ポイント以上増大している。理工と社会は回答比率に変化のある設問の数が多く、また、(5) 実施体制においては、「B 教養教育は全学的に実施すべき」との回答がともに 20 ポイント以上増大している。



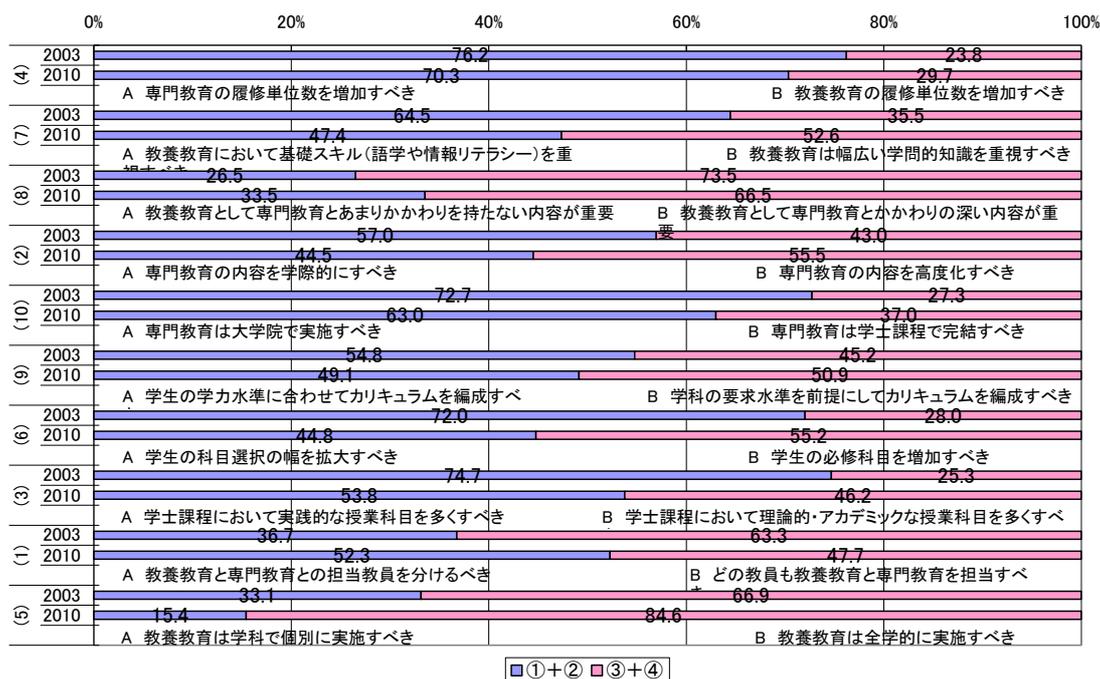
図表 8-11 カリキュラムの考え方の経年比較 (人文)



図表 8-12 カリキュラムの考え方の経年比較 (社会)



図表 8-13 カリキュラムの考え方の経年比較 (教育)



図表 8-14 カリキュラムの考え方の経年比較（理工）

### 5. 本章の分析結果のまとめと今後の課題

2003年の学部長調査結果からは、大綱化以降のカリキュラム改革のなかで、学生の科目選択幅の拡大、実学的な授業科目の増大、教養教育におけるスキルの重視といった変化が特徴的な傾向としてみられた。さらに、将来のカリキュラムに対する方針もこうした改革の方向性と基本的に同様の傾向を示していた（吉田 2005、pp.61-69）。

ところが現在では、こうした大綱化以降のカリキュラム改革の流れとは反する動きが起こりかねないといっても過言ではない。前節の結果をみると、2003年から2010年までの7年間のうちに、理論的・アカデミックな授業科目の増大、教養教育では基礎スキルよりも幅広い学問的知識を重視する方向性が支持されるようになり、知識志向やアカデミック志向が高まってきていることがうかがえる。また、専門教育の高度化、必修科目の増加、学科の要求水準の重視といった考え方も広がり、今後、専門教育を中心に学士課程教育全体の質向上を目指してカリキュラムを厳格化していく流れが強まってくる可能性があるとも考えられる。こうした動きはまた、ある意味、学士課程教育の質保証の重要性に対する意識が学科レベルにまで浸透してきている表れと捉えてもよいだろう。

しかしながら、全体の集計結果をみた場合、これらの設問においてはAの考え方とBの考え方の間で5:5ないし6:4程度で回答が二分している。このことは、本章2節で述べた通りである。しかも、3節で明らかになったように、専門分野別の傾向は様々であるものの、総じて、国公立大学では学問や学科の要請をカリキュラム編成や教育内容・水準に反映させようと考えているのに対して、私立大学では学習者のニーズや学習状況を優先しながらカリキュラムを編成しようとする傾向がみられる。また、所属学生の学力水準を高い

と認識しているところほど、教育水準や学問志向性も高まっていくのである。

したがって、大学の設置形態や学生の学力水準によって、カリキュラムの今後に対する志向性は分極化し、実際のカリキュラム改革の内容もそうした志向性に沿って多様化していく可能性が少なくないといえる。このような状況を各大学の個性や特色が発揮され、大学の多様化・多機能化が進む望ましい兆候の一つと受けとめ、そのまま見守っていくべきか。あるいは、学問的見地あるいは社会的要請などから、大学の垣根を超えて学士課程教育としての一定の質保証を求めるべく、なんらかの政策的対応を図る必要があるとみるべきか。今後、さらに検討していかねばならない課題となろう。

参考文献：

吉田文（研究代表者）『大学の教養教育への圧力と教員編成に関する研究—大綱化から 10 年を対象にして—』（平成 14 年度～平成 16 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書)、2005 年

## 第2回 学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査

2008年の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」を受けて、現在我が国の大学関係者にとって、学士課程教育の在り方が課題となっています。このような中、私も日本私立大学協会付置私学高等教育研究所では、文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室のご理解ご支援を頂き、国公私立大学の学士課程教育の構築に向けた取組について、教育の実施単位としての学科レベルに注目して昨年度より調査を実施しています。日頃、学科長の皆様が、どのように学士課程教育の構築について考え、実際に学生の学士課程の卒業をどのような仕組で認定しているのか等、教育改革の状況に関する教育現場の実態を把握しようとするものです。

今年度の本アンケートでは、人文科学、社会科学、教育学、家政学、保健学の学部・学科をおく大学の学科長の中から、サンプリングによって選ばせて頂いた先生方に、現在ご所属の学科の状況についてお伺い致します。ご回答は、**2010年9月24日(金)までに**、同封の返信用封筒にてご返送ください。ご回答は、すべて統計的に処理し、個別の大学・学部・学科名を公表することはございません。公務ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、なにとぞ調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますことを謹んでお願い申し上げます。

2010年9月  
日本私立大学協会付置私学高等教育研究所  
プロジェクト代表 濱名篤（関西国際大学 学長）

なお、アンケート調査についてご不明な点は、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】 〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江 1-3-23 関西国際大学 吉田  
TEL : 06-6496-4183 E-Mail : itaku-jimu@kuins.ac.jp

\*本調査では課程、コースを含む学科等の組織を、「学科」と総称しています。

\*専攻やコースによって回答が異なる場合は、もっとも定員の多い専攻等についてお答え下さい。

\*特に指示がない場合は、各問について当てはまるものをひとつ選び、番号に○を付けて下さい。

### I-A. 貴学科の現状について伺います。\*5年程度前との比較でお答えください。

(1) 学科の意思決定に対する全学・学部の影響力	弱まっている①・・・②・・・③・・・④・・・⑤強まっている	⑥ 分からない
(2) 学科の意思決定における学科長の役割	小さくなっている①・・・②・・・③・・・④・・・⑤大きくなっている	⑥ 分からない
(3) 受験者数	減少している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤増加している	⑥ 分からない
(4) 学生の中退率	悪化している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤改善している	⑥ 分からない
(5) 教育に対する学生の満足度	低下している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤高まっている	⑥ 分からない
(6) 学生の就職先での評判	低下している①・・・②・・・③・・・④・・・⑤高まっている	⑥ 分からない

### I-B. 貴大学の学生支援体制（全学レベル）について伺います。

(1) 学習支援体制	充実していない①・・・②・・・③・・・④・・・⑤充実している	⑥ 分からない
(2) 就職支援体制	充実していない①・・・②・・・③・・・④・・・⑤充実している	⑥ 分からない
(3) メンタルケア	充実していない①・・・②・・・③・・・④・・・⑤充実している	⑥ 分からない
(4) 学生による学生支援（ピア・サポート等）	充実していない①・・・②・・・③・・・④・・・⑤充実している	⑥ 分からない

Ⅱ-A. 貴学部・貴学科における教育・学習目標（ディプロマ・ポリシー）の設定について伺います。

(1) 学部としての教育・学習目標が明文化されている	①はい	②いいえ [Ⅱ-(4)にお進み下さい]
(2) 学部の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい ①提供者（教員）の立場から定義（例：専門の学問を教授する） ②学習者（学生）の立場から定義（例：専門の学問を身に付ける） ③学習者（学生）の立場から、行動目標を定義（例：～学の基礎理論を説明することが出来る）		
(3) 学部の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えて下さい ①学部で独自に検討・決定 ②学部で検討した後、全学的な審議を経て決定 ③全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定		
(4) 学科としての教育・学習目標が明文化されている	①はい	②いいえ [Ⅲ-Aにお進み下さい]
(5) 学科の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えて下さい ①提供者（教員）の立場から定義（例：専門の学問を教授する） ②学習者（学生）の立場から定義（例：専門の学問を身に付ける） ③学習者（学生）の立場から、行動目標を定義（例：～学の基礎理論を説明することが出来る）		
(6) 学科の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えて下さい ①学科で独自に検討・決定 ②学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定 ③学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定		

Ⅱ-B. 貴学科の明文化された教育・学習目標の内容について伺います（当てはまるもの全てに✓を付けて下さい）。

	当てはまる
(1) 学科の専門分野に特有の知識の修得	<input type="checkbox"/>
(2) 学科の専門分野に特有の考え方・ものの見方の修得	<input type="checkbox"/>
(3) 学科の専門分野に特有の技能・技術の修得	<input type="checkbox"/>
(4) 専門的職業人としての倫理観の獲得	<input type="checkbox"/>
(5) 専門的職業人になるための資格や免許等の取得	<input type="checkbox"/>
(6) 多文化・異文化に関する理解	<input type="checkbox"/>
(7) 人類の文化、社会と自然に関する理解	<input type="checkbox"/>
(8) 対人的能力（コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ等）の向上	<input type="checkbox"/>
(9) 認知的能力（課題解決能力、論理的思考力、クリティカル・シンキング等）の向上	<input type="checkbox"/>
(10) 自己学習力、自己管理能力等の向上	<input type="checkbox"/>
(11) 人格的な成長（市民としての社会的責任、倫理観、宗教的世界観等の獲得）	<input type="checkbox"/>

Ⅲ-A. 貴学科における教育プログラムの設計について伺います。

	いいえ	検討中	はい
(1) シラバスに、期待される学習成果が明示されている	①	②	③
(2) シラバスに当該授業科目と、学部ないし学科の目標との関係が明示されている	①	②	③
(3) シラバスの内容について、授業担当者以外が検討し、修正を求めることがある	①	②	③
(4) 全学ないし学部の目標と、学科の目標との関係を図や表にした資料がある	①	②	③
(5) 学科の目標と、各授業科目との関係を図や表にした資料（カリキュラム・マップ等）がある	①	②	③
(6) カリキュラムの編成について、上位組織（学部ならば全学、学科等ならば学部）	①	②	③

による確認・承認手続きがある			
(7) 半期あたり 15 週の授業期間（定期試験を除く）を確保している	①	②	③
(8) 一週間に複数回開講される授業がある（外国語科目を除く）	①	②	③
(9) 年換算で 40 単位以下の履修登録単位数制限がある	①	②	③
(10) 特定のテーマ・内容について、異なる科目の担当教員が、相互に連携・調整しながら教育を行うという仕組みがある	①	②	③

### Ⅲ-B. 貴学科の学生が履修可能な授業科目について伺います。

	ない	選択科目 がある	必修科目 がある
(1) 日本語表現について学ぶことを目的とした科目	①	②	③
(2) レポートの書き方について学ぶことを目的とした科目	①	②	③
(3) プレゼンテーションの方法について学ぶことを目的とした科目	①	②	③
(4) 学生に自身のキャリアを考えさせることを目的とした科目	①	②	③
(5) データや資料の収集・分析方法について学ぶことを目的とした科目	①	②	③
(6) 学外での体験型学習（インターンシップ等）を取り入れた科目	①	②	③
(7) 産業界や地域社会と共同で開発・実施する科目	①	②	③
(8) 外国語だけで実施される専門科目	①	②	③
(9) 地域社会でフィールドワーク（実地調査等）をする科目	①	②	③
(10) 外国でフィールドワークをする科目	①	②	③

### Ⅲ-C. 卒業要件単位について伺います。

	a. 必修	b. 選択必修	c. 自由選択	e. 卒業要件
(1) 専門科目	( ) 単位	( ) 単位以上	( ) 単位以上	( ) 単位以上
(2) 教養（共通）科目	( ) 単位	( ) 単位以上	( ) 単位以上	
(3) その他（専門・教養いずれでも可）			( ) 単位以上	

### Ⅳ-A. 貴学科における教育プログラムの実施（各授業での教育方法等）について伺います。

	ほとんど ない	特定授業で ある	半分位の 授業である	大部分の 授業である	全授業で ある
(1) 質疑や発表等による、学生の能動的な授業参加	①	②	③	④	⑤
(2) グループで作業やディスカッションをする機会	①	②	③	④	⑤
(3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会	①	②	③	④	⑤
(4) 体験型学習をする機会（教育実習や臨床実習等、資格・免許取得に必要な実習を除く）	①	②	③	④	⑤
(5) 試験や小テストの返却・解説	①	②	③	④	⑤
(6) レポートの返却・講評	①	②	③	④	⑤
(7) 毎回の授業でのコメント・カードのやり取り	①	②	③	④	⑤
(8) 授業時間外学習を促進するための宿題等の指示	①	②	③	④	⑤
(9) 成績評価の観点・水準表（ルーブリック）の利用	①	②	③	④	⑤
(10) 複数教員での同時担当（チームティーチング）	①	②	③	④	⑤
(11) ラーニング・マネジメント・システム（Blackboard や Moodle 等）の利用	①	②	③	④	⑤
(12) 受講者以外に対する授業公開	①	②	③	④	⑤

IV-B. 貴学科と高等学校の教育課程との接続について伺います。

	いいえ	検討中	はい
(1) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定のなし）	①	②	③
(2) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定のあり）	①	②	③
(3) 既修組・未修組に分けた授業を実施している	①	②	③
(4) 学力別クラス分けを実施している（初年次の英語教育等を含む）	①	②	③
(5) 初年次教育を必修科目として設置している	①	②	③
(6) AO入試に学力検査を採用している	①	②	③
(7) 推薦入試に学力検査を採用している	①	②	③
(8) AO入試で評定平均値や科目成績の基準を満たすことを求めている	①	②	③
(9) 推薦入試で評定平均値や科目成績の基準を満たすことを求めている	①	②	③
(10) 入学前教育を行っている	①	②	③

V-A. 貴学科における学習成果の把握・評価について伺います。

	いいえ	検討中	はい
(1) 成績分布に関する申し合わせがある	①	②	③
(2) 複数の評価方法を組み合わせた多面的な成績評価をしている	①	②	③
(3) 成績の評価基準に関する申し合わせがある	①	②	③
(4) 学生による授業評価において、学習成果の獲得状況を確認している	①	②	③
(5) 担当者が異なる同一科目では共通の試験問題を利用している	①	②	③
(6) 試験問題の妥当性を教員相互でチェックしている	①	②	③
(7) 学習成果の記録（学習ポートフォリオ）を学生に作成させている	①	②	③
(8) 進級において一定基準以上のGPAを要求している	①	②	③
(9) 卒業において一定基準以上のGPAを要求している	①	②	③
(10) 在学生調査や卒業生調査において、学習成果の獲得状況を確認している	①	②	③
(11) 学外で開発されている標準化されたテストを利用している	①	②	③
(12) 上記(1)~(11)以外に、学生の到達度を確認するための特別な取組を行っている	①	②	③

(13)へ

(13) その取組の具体的な内容を教えてください

V-B. 卒業研究（卒業論文・卒業制作等を含む）について伺います。

(1) 卒業研究科目の設置状況	①必修	②選択（選択率 %）	③設置なし〔V-Cへ〕
(2) 単位数	_____ 単位		
(3) 口頭試問	①なし	②あり	
(4) 明文化された評価基準	①なし	②教員間で共有	③学生にも公表
(5) 指導体制	①単独	②複数	
(6) 審査体制	①単独	②複数	
(7) 審査会	①行っていない	②行っている	
(8) 成果の公開（報告会や展示会等）	①行っていない	②学内限定で行っている	③学内に限らず行っている
(9) 卒業研究科目を選択しない学生に対する代替指導（(1)で「②選択」と答えた方のみお答え下さい）	①特になし ②あり（具体例：_____）		

V-C. 教育成果に対する貴学科の捉え方について伺います。

	まったく重視していない	あまり重視していない	ある程度重視している	おおいに重視している
(1) 就職実績（就職率、就職先等）	①	②	③	④
(2) 大学院進学実績（進学率、進学先等）	①	②	③	④
(3) 進路未定・不明の者の比率の低さ	①	②	③	④
(4) 4年間での卒業率の高さ	①	②	③	④
(5) 中退率の低さ	①	②	③	④
(6) 学生の成績（GPA等）	①	②	③	④
(7) 学生の学習成果（学習ポートフォリオ）	①	②	③	④
(8) 国家試験合格率	①	②	③	④
(9) 授業評価アンケートの結果	①	②	③	④
(10) 在学生調査や卒業生調査の結果	①	②	③	④
(11) 卒業生に対する雇用主の評価	①	②	③	④
(12) 卒業生に対する社会からの評判 （大学ランキング等）	①	②	③	④

VI. 貴学科の取組状況に対するお考えを伺います。

	難航して・・・上手く いる	必要感を 感じない
(1) 学科としての教育・学習目標の具体化	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(2) 目標に対応した教育プログラムの設計	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(3) 目標に対応した教育プログラムの実施	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(4) 学習成果の把握・評価	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(5) PDCAサイクルの運用	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(6) 全学的に管理されている各種データ（学籍情報や学生調査の結果等）に基づいた学科の方針決定・運営	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(7) 改革に対する所属教員の動機付け	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(8) 教員の職能開発（FD）	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(9) 職員の職能開発（SD）	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(10) 改革のための資金調達（学内・学外問わず）	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(11) 教育・学習目標の設定における学外識者等の参画	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(12) 教育プログラムの実施における学外識者等の参画 （例：オムニバス授業の担当等）	①・・・②・・・③・・・④	⑤
(13) 学習成果の評価・把握における学外識者等の参画 （例：研究報告会への参加等）	①・・・②・・・③・・・④	⑤

(14) 必要性を感じているものの導入が難航している点の具体例について、差し支えのない範囲で教えて下さい

Ⅶ-A. 近年の改革動向に対するお考えを伺います。

	反対・・・	どちらとも 言えない	・・・賛成
(1) 中央教育審議会答申による改革方針の提示	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(2) 教員と学生の所属組織の分離	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(3) 入学後に専攻分野を決める方式 (late specialization)	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(4) 教員業績評価における教育業績の重視	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(5) 専門分野別コア・カリキュラムの開発	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(6) 専門分野別に汎用的能力を測る客観テストの開発	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(7) 専門分野を超えた共通の様式で汎用的能力を測る客観テストの開発	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(8) 専門分野別の認証評価制度	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(9) 機関別の認証評価制度	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(10) 3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）の設定	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(11) 日本学術会議が検討している専門分野別参照基準の設定	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(12) 設置審査の厳格化	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(13) 社会的・職業的自立に向けた指導等（キャリアガイダンス）の義務化	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(14) 教育に関する情報公開の義務化	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		
(15) 授業 15 週＋試験 1 週という学年暦の設定	①・・・②・・・③・・・④・・・⑤		

Ⅶ-B. 「学士課程教育」という用語のイメージについて伺います（当てはまるもの全てに✓を付けて下さい）。

	当てはまる
(1) 専門教育よりも教養教育（あるいは共通教育）を中心とする	<input type="checkbox"/>
(2) 正課教育だけでなく課外活動も含む	<input type="checkbox"/>
(3) 知識の獲得よりも能力の伸長を重視する	<input type="checkbox"/>
(4) 教養教育と専門教育が有機的に連携している	<input type="checkbox"/>
(5) 教養教育と専門教育の区別をしない4年間の一貫教育である	<input type="checkbox"/>
(6) 専門分野が同じであれば、大学を問わず全学生に共通して提供すべき教育内容が存在する	<input type="checkbox"/>
(7) 大学であれば、専門分野を問わず全学生に共通して提供すべき教育内容が存在する	<input type="checkbox"/>
(8) 専門分野ごとに、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある	<input type="checkbox"/>
(9) 専門分野を問わず、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある	<input type="checkbox"/>

Ⅷ. 今後の貴学科のカリキュラムの在り方に対するご意見を伺います。

A	Aに近い	Bに近い	B
(1) 教養教育と専門教育との担当教員を分けるべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		どの教員も教養教育と専門教育を担当すべき
(2) 専門教育の内容を学際的にすべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		専門教育の内容を高度化すべき
(3) 学士課程において実践的な授業科目を多くすべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		学士課程において理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき
(4) 専門教育の履修単位数を増加すべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		教養教育の履修単位数を増加すべき
(5) 教養教育は学科で個別に実施すべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		教養教育は全学的に実施すべき
(6) 学生の科目選択の幅を拡大すべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		学生の必修科目を増加すべき
(7) 教養教育において基礎スキル（語学や情報リテラシー）を重視すべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・		教養教育は幅広い学問的知識を重視すべき

(8) 教養教育として専門教育とあまりかわりを持たない内容が重要	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・	教養教育として専門教育とかかわりの深い内容が重要
(9) 学生の学力水準に合わせてカリキュラムを編成すべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・	学科の要求水準を前提にしてカリキュラムを編成すべき
(10) 専門教育は大学院で実施すべき	・・・①・・・②・・・③・・・④・・・	専門教育は学士課程で完結すべき

### IX. 貴学科の概要について伺います。

(1) 大学・学部・学科の名称	_____ 大学 _____ 学部 _____ 学科
(2) 貴学の設置形態	①国立 ②公立 ③私立
(3) 貴学の学部等（学生の所属組織）の数	_____ 学部
(4) 貴学部の学科数	_____ 学科
(5) 貴学科の設置年	_____ 年
(6) 貴学科の設置経緯	①大学・学部新設時に設置 ②学科増で新設 ③届出改組
(7) 貴学科が所在する都道府県	_____
(8) 貴学科の立地条件	①三大都市圏 ②都市圏 ③それ以外の地域
(9) 貴学科への通学の便	①わるい ②普通 ③よい
(10) 貴学部の平成 22 年度における第 1 学年の入学者数	①～100 人 ②101～200 人 ③201～300 人 ④301～400 人 ⑤401～500 人 ⑥501～1000 人 ⑦1001 人～
(11) 貴学科の平成 22 年度における第 1 学年の入学者数	①～10 人 ②11～20 人 ③21～30 人 ④31～40 人 ⑤41～50 人 ⑥51～100 人 ⑦101～200 人 ⑧201 人～
(12) 貴学科の専門領域に最も近いもの	①人文科学系 ②社会科学系 ③教育学系（体育を含む） ④理学系 ⑤工学系 ⑥農学系 ⑦医歯薬学系 ⑧保健・福祉系 ⑨芸術系 ⑩家政系 ⑪その他（_____）
(13) 貴学科の卒業生の進路	①特定の専門職に就く者ばかりではない ②基本的には特定の専門職に就くことが想定されている
(14) 貴学科の卒業生の大半が受験資格を得ると想定されている国家資格	①特になし ②ある（主なもの：_____）
(15) 認証評価の受審状況	①これまでに 2 回以上受審 ②本年（2010 年度）2 回目を受審中 ③これまでに 1 回受審 ④本年 1 回目を受審中 ⑤（新設等の関係で）未受審
(16) 平成 22 年度の就業力育成支援 GP の申請・採択状況（貴学科が関わっていれば申請の単位は問いません。以下 2 問も同様）	①申請していない ②申請はしたが採択されなかった ③採択された
(17) 平成 21 年度の学生支援 GP の申請・採択状況	①申請していない ②申請はしたが採択はされなかった ③採択された
(18) それ以外の各種 GP（特色 GP、現代 GP、教育 GP）の申請・採択状況	①申請したことがない ②申請はしているが採択はない ③1 件採択された ④2 件以上採択された
(19) 貴学科の学生の学力は平均して、全国レベルで見てどのあたりに位置するとお考えですか	低い _____ 平均 _____ 高い _____ ① . . . . . ② . . . . . ③ . . . . . ④ . . . . . ⑤

**X. 学科長ご自身について伺います。**

(1) 最終取得学位 ①博士 ②修士 ③学士 ④それ以外
(2) 最終取得学位を得た大学 ①現在勤務している大学 ②国内の大学（①を除く） ③海外の大学
(3) 学科長に就任されてからの年数 _____年目
(4) 大学教員としての勤務年数 _____年目
(5) 現在の勤務校における教務関連委員の経験 ①ない ②ある
(6) 現在の勤務校における FD 関連委員の経験 ①ない ②ある
(7) 大学教育に関する研究会やフォーラムへの参加経験 ①ない ②ある ③定期的に参加している
(8) 各種 GP の審査にかかわった経験 ①ない ②ある ③ほぼ毎年係わっている
(9) 学士課程教育の改革への関心 ①まったくない ②ない ③ある ④とてもある
(10) 近年の学士課程教育の改革について、お考えがありましたらお聞かせ下さい。

アンケートは以上です。ご協力まことにありがとうございました。

\*集計結果は年内に、私学高等教育研究所のウェブ・サイト (<http://www.shidaikyo.or.jp/riihe/result/project4.html>) に掲載される予定です。また、昨年度調査の報告書も同サイトでご覧いただけます。

付録B

有効回答分布一覧表

I-A. 貴学科の現状について伺います。\*5年程度前との比較でお答えください。

	総計	設置形態			専門分野								学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 学科の意思決定に対する全学・学部の影響力	(N) 647	154	42	442	102	143	74	58	107	91	34	172	243	175	
① 弱まっている	1.4	0.6	2.4	1.6	2.9	1.4	1.4	1.7	0.9	1.1	0.0	1.2	2.5	0.6	
②	8.7	9.7	9.5	7.9	4.9	7.0	10.8	10.3	8.4	13.2	14.7	10.5	7.4	8.0	
③	44.5	38.3	47.6	46.2	51.0	46.2	40.5	44.8	43.9	41.8	41.2	42.4	45.7	48.0	
④	28.3	31.2	23.8	28.1	25.5	30.1	31.1	25.9	24.3	23.1	32.4	27.9	27.2	29.1	
⑤ 強まっている	17.2	20.1	16.7	16.3	15.7	15.4	16.2	17.2	22.4	20.9	11.8	18.0	17.3	14.3	
計	100.1	99.9	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	99.9	99.9	100.1	100.1	100.0	100.1	100.0	
(2) 学科の意思決定における学科長の役割	(N) 657	155	44	446	101	140	75	60	107	100	33 **	176	238	183	
① 小さくなっている	3.8	3.9	9.1	3.1	4.0	2.9	1.3	5.0	3.7	2.0	6.1	4.0	2.1	4.9	
②	11.9	12.9	6.8	11.7	9.9	12.1	18.7	10.0	8.4	16.0	9.1	13.1	10.1	12.6	
③	53.2	52.3	54.5	53.6	58.4	61.4	36.0	68.3	60.7	36.0	42.4	51.7	55.0	53.6	
④	23.1	21.3	27.3	23.5	21.8	17.9	30.7	11.7	20.6	30.0	39.4	22.2	2.4	22.4	
⑤ 大きくなっている	8.0	9.7	2.3	8.1	5.9	5.7	13.3	5.0	6.5	16.0	3.0	9.1	8.4	6.6	
計	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1	78.0	100.1	
(3) 受験者数	(N) 701	162	45	485 ***	112	157	80	64	111	103	35 ***	194	256	191 ***	
① 減少している	11.8	4.3	2.2	15.5	15.2	10.2	10.2	7.8	9.0	17.5	17.1	27.3	6.3	4.2	
②	29.4	25.3	17.8	31.5	35.7	24.2	24.2	21.9	38.7	36.9	22.9	36.6	28.9	22.5	
③	33.5	53.1	55.6	24.7	25.9	35.7	35.7	48.4	31.5	23.3	22.9	19.5	33.6	46.6	
④	15.0	9.3	15.6	16.9	15.2	12.7	12.7	14.1	18.0	11.7	28.6	11.3	19.5	12.6	
⑤ 増加している	10.3	8.0	8.9	11.3	8.0	17.2	17.2	7.8	2.7	10.7	8.6	5.2	11.7	14.1	
計	100.0	100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	100.1	99.9	100.0	100.0	
(4) 学生の中退率	(N) 687	157	45	477 **	112	152	78	60	110	100	37 *	193	251	185 ***	
① 悪化している	2.0	0.6	0.0	2.7	3.6	2.6	0.0	0.0	1.8	3.0	2.7	3.1	2.0	0.5	
②	15.6	10.8	11.1	17.8	21.4	13.8	6.4	15.0	20.0	16.0	13.5	23.3	15.9	7.6	
③	58.7	70.7	66.7	53.5	48.2	57.9	61.5	73.3	59.1	56.0	67.6	48.2	55.0	72.4	
④	15.4	12.7	8.9	17.0	14.3	16.4	26.9	3.3	14.5	16.0	10.8	17.1	18.3	11.9	
⑤ 改善している	8.3	5.1	13.3	9.0	12.5	9.2	5.1	8.3	4.5	9.0	5.4	8.3	8.8	7.6	
計	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(5) 教育に対する学生の満足度	(N) 666	151	44	462	103	150	76	59	103	101	36 *	186	247	177	
① 低下している	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.8	0.5	0.4	0.0	
②	5.0	3.3	4.5	5.6	5.8	4.0	0.0	10.2	8.7	5.0	2.8	8.1	5.3	1.7	
③	45.5	45.7	34.1	45.9	41.7	47.3	34.2	55.9	52.4	37.6	44.4	45.2	47.8	41.8	
④	39.3	41.1	38.6	39.2	41.7	40.0	52.6	27.1	34.0	43.6	41.7	38.2	36.4	44.1	
⑤ 高まっている	9.9	9.9	22.7	8.9	10.7	8.7	13.2	6.8	3.9	13.9	8.3	8.1	10.1	12.4	
計	100.0	100.0	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	
(6) 学生の就職先での評判	(N) 557	137	38	375	78	112	65	50	100	88	31 ***	149	201	162 *	
① 低下している	0.5	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	
②	4.1	3.6	5.3	4.3	2.6	1.8	0.0	12.0	8.0	3.4	3.2	6.7	3.0	2.5	
③	51.7	52.6	42.1	52.0	47.4	55.4	44.6	70.0	59.0	36.4	45.2	55.7	52.2	46.9	
④	34.8	38.0	34.2	33.9	43.6	34.8	46.2	12.0	30.0	35.2	45.2	29.5	37.8	37.7	
⑤ 高まっている	8.8	5.8	18.4	9.1	6.4	8.0	9.2	6.0	0.0	25.0	6.5	6.0	7.0	13.0	
計	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	99.9	100.0	100.1	

I-B. 貴学科の学生支援体制(全学レベル)について伺います。

	総計	設置形態			専門分野								学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 学習支援体制	(N) 718	160	45	503	115	161	83	62	111	108	97	202	262	191	
① 充実していない	1.4	0.6	0.0	1.8	0.0	1.9	2.4	0.0	0.9	1.9	5.4	2.0	1.5	0.5	
②	7.1	4.4	6.7	7.8	7.8	6.8	10.8	6.5	3.6	9.3	8.1	9.9	6.5	4.7	
③	21.6	21.3	37.8	20.7	21.7	24.2	20.5	25.8	18.9	13.9	27.0	20.3	21.0	23.0	
④	50.8	55.6	40.0	50.5	50.4	43.5	56.6	50.0	57.7	52.8	51.4	50.0	51.9	50.8	
⑤ 充実している	19.1	18.1	15.6	19.3	20.0	23.6	9.6	17.7	18.9	22.0	8.1	17.8	19.1	20.9	
計	100.0	100.0	100.1	100.1	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	99.9	
(2) 就職支援体制	(N) 716	160	46	500 ***	114	161	82	64	112	106	36	201	261	190	
① 充実していない	0.6	0.0	4.3	0.4	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.5	0.8	0.0	
②	6.7	10.6	6.5	5.6	7.0	6.8	7.3	9.4	5.4	5.7	11.1	7.5	5.0	8.9	
③	15.2	23.1	21.7	12.4	14.0	16.1	18.3	31.3	11.6	8.5	16.7	11.9	13.4	21.1	
④	51.7	49.4	50.0	52.6	50.0	48.4	57.3	43.8	58.9	52.8	50.0	54.2	51.3	48.9	
⑤ 充実している	25.8	16.9	17.4	29.0	28.9	28.6	15.9	15.6	24.1	32.1	22.2	25.9	29.5	21.1	
計	100.0	100.0	99.9	100.0	99.9	99.9	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(3) メンタルケア	(N) 715	162	46	497	112	160	83	65	110	108	36	199	261	192	
① 充実していない	2.0	0.6	2.2	2.4	2.7	1.9	1.2	0.0	2.7	2.8	0.0	3.0	1.1	1.6	
②	6.3	4.3	8.7	6.6	8.9	6.9	8.4	4.6	2.7	5.6	13.9	8.5	6.1	4.2	

③	27.0	30.2	23.9	26.6	22.3	30.6	36.1	32.3	21.8	24.1	25.0	27.1	25.3	28.6
④	48.0	47.5	52.2	47.9	49.1	43.1	43.4	40.0	56.4	51.9	47.2	43.2	50.2	49.5
⑤ 充実している	16.8	17.3	13.0	16.5	17.0	17.5	10.8	23.1	16.4	15.7	13.9	18.1	17.2	16.1
計	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	99.9	99.9	100.0

(4) 学生による学生支援（ピア・サポート等）

(N)	664	151	43	460	106	150	80	54	103	98	35 *	186	242	178 **
① 充実していない	11.0	7.9	7.0	12.0	9.4	10.7	15.0	3.7	10.7	12.2	20.0	17.2	9.5	5.6
②	20.6	19.2	18.6	21.7	22.6	21.3	20.0	25.9	22.3	12.2	28.6	25.8	20.7	16.3
③	32.2	35.1	46.5	30.4	27.4	36.0	32.5	27.8	21.4	44.9	25.7	25.3	30.6	39.9
④	28.8	30.5	23.3	28.7	32.1	21.3	27.5	37.0	38.8	25.5	20.0	25.3	30.6	30.9
⑤ 充実している	7.4	7.3	4.7	7.2	8.5	10.7	5.0	5.6	6.8	5.1	5.7	6.5	8.7	7.3
計	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.1	100.1	100.0

II-A. 貴学部・貴学科における教育・学習目標（ディプロマ・ポリシー）の設定について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(1) 学部としての教育・学習目標が明文化されている。	(N) 652	163	46	500	113	162	83	62	113	109	37	201	263	192
① はい	90.7	87.1	95.7	91.2	94.7	92.0	88.0	88.7	92.0	88.1	86.5	89.6	91.6	90.6
② いいえ	9.3	12.9	4.3	8.8	5.3	8.0	12.0	11.3	8.0	11.9	13.5	10.4	8.4	9.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) 学部の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えてください。	(N) 602	133	41	419	102	134	66	52	97	89	31	164	226	163
① 提供者（教員）の立場から定義（例：専門の学問を教授する）	38.2	37.6	36.6	38.7	39.2	38.1	48.5	30.8	35.1	34.8	54.8	41.5	38.1	33.7
② 学習者（学生）の立場から定義（例：専門の学問を身に付ける）	45.8	43.6	48.8	46.1	47.1	47.8	42.4	55.8	46.4	41.6	35.5	42.7	46.5	49.1
③ 学習者（学生）の立場から、行動目標を定義 （例：～学の基礎理論を説明することが出来）	15.9	18.8	14.6	15.3	13.7	14.2	9.1	13.5	18.6	23.6	9.7	15.9	15.5	17.2
計	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0
(3) 学部の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えてください。	(N) 619	133	44	432 *	104	141	68	52	99	92	31	168	232	166
① 学部で独自に検討・決定	39.3	51.1	40.9	35.4	37.5	37.6	39.7	53.8	41.4	32.6	41.9	32.7	39.7	45.2
② 学部で検討した後、学部的な審議を経て決定	31.8	22.6	38.6	34.7	40.4	33.3	33.8	19.2	24.2	32.6	32.3	30.4	34.1	30.7
③ 全学共通の指針が存在し、それに沿って学部で検討・決定	28.9	26.3	20.5	29.9	22.1	29.1	26.5	26.9	34.3	34.8	25.8	36.9	26.3	24.1
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(4) 学科としての教育・学習目標が明文化されている。	(N) 714	161	46	497	112	160	82	64	112	109	37 ***	201	261	191 *
① はい	89.8	86.3	89.1	90.9	90.2	81.3	82.9	87.5	97.3	96.3	94.6	90.5	92.3	83.8
② いいえ	10.2	13.7	10.9	9.1	9.8	18.8	17.1	12.5	2.7	3.7	5.4	9.5	7.7	16.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(5) 学科の教育・学習目標の記述様式として、最も近いものを教えてください。	(N) 602	134	39	422	97	121	65	52	104	98	35 *	167	232	154
① 提供者（教員）の立場から定義（例：専門の学問を教授する）	35.2	32.8	30.8	36.7	33.0	35.5	47.7	34.6	26.0	34.7	51.4	38.3	36.6	27.3
② 学習者（学生）の立場から定義（例：専門の学問を身に付ける）	46.7	47.8	51.3	45.5	51.5	50.4	40.0	55.8	48.1	41.8	34.3	42.5	44.4	55.8
③ 学習者（学生）の立場から、行動目標を定義 （例：～学の基礎理論を説明することが出来）	18.1	19.4	17.9	17.8	15.5	14.0	12.3	9.6	26.0	23.5	14.3	19.2	19.0	16.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 学科の教育・学習目標の設定手続きとして、最も近いものを教えてください。	(N) 614	136	40	429 **	98	124	66	53	105	99	35 ***	170	234	156
① 学科で独自に検討・決定	32.7	47.1	27.5	28.7	33.7	18.5	30.3	37.7	54.3	27.3	37.1	28.2	34.2	40.4
② 学科で検討した後、学部全体の審議を経て決定	42.0	33.1	50.0	44.8	43.9	46.8	45.5	37.7	21.0	50.5	48.6	41.2	41.0	42.3
③ 学部共通の指針が存在し、それに沿って学科で検討・決定	25.2	19.9	22.5	26.6	22.4	34.7	24.2	24.5	24.8	22.2	14.3	30.6	24.8	17.3
計	99.9	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

II-B. 貴学科の明文化された教育・学習目標の内容について伺います（当てはまるもの全てに✓を付けて下さい）。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(1) 学科の専門分野に特有の知識の修得	85.1	84.0	89.1	85.2	86.5	74.7	80.7	84.4	91.1	91.7	94.6 ***	84.5	86.2	83.2
(2) 学科の専門分野に特有の考え方・ものの見方の修得	80.1	80.2	80.4	79.8	82.0	78.5	69.9	84.4	85.7	80.7	73.0	80.0	82.0	78.9
(3) 学科の専門分野に特有の技能・技術の修得	72.8	71.0	67.4	73.7	70.3	51.9	74.7	64.1	86.6	87.2	91.9 ***	68.0	77.8	71.6
(4) 専門的職業人としての倫理観の獲得	46.3	54.9	47.8	43.7 *	27.0	32.3	41.0	32.8	74.1	76.1	35.1 ***	44.5	46.7	50.0
(5) 専門的職業人になるための資格や免許等の取得	46.8	30.2	37.0	52.6 ***	54.1	28.5	56.6	25.0	35.7	71.6	78.4 ***	56.0	46.4	37.4 **
(6) 多文化・異文化に関する理解	41.2	37.7	45.7	41.9	78.4	42.4	34.9	23.4	35.7	30.3	29.7 ***	39.0	47.1	36.8
(7) 人類の文化、社会と自然に関する理解	38.2	47.5	34.8	35.2 *	50.4	33.5	24.1	45.3	52.7	24.8	27.0 ***	32.0	39.5	44.2 *
(8) 対人的能力（コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ等）の向上	64.3	59.3	63.0	66.2	71.2	53.2	57.8	37.5	74.1	81.7	59.5 ***	67.0	67.8	57.4 *
(9) 認知的能力（課題解決能力、論理的思考力、クリティカル・シンキング等）の向上	56.2	61.7	60.9	53.8	55.9	57.0	43.4	48.4	75.0	57.8	37.8 ***	52.5	57.1	58.4
(10) 自己学習力、自己管理能力等の向上	42.0	42.6	47.8	41.5	44.1	31.0	37.3	28.1	55.4	56.0	32.4 ***	38.0	42.1	46.3
(11) 人格的な成長（市民としての社会的責任、倫理観、宗教的世界観等の獲得）	47.9	38.3	41.3	51.8 **	60.4	46.2	49.4	25.0	46.4	54.1	43.2 **	48.5	51.0	45.8
yes%														

III-A. 貴学科における教育プログラムの設計について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(1) シラバスに、期待される学習成果が明示されている	(N) 715	163	45	11.5 *	113	162	81	65	112	109	35 **	198	263	191
① いいえ	10.2	6.7	11.1	11.1	14.2	11.7	13.6	18.5	2.7	4.6	5.7	10.6	9.1	10.5
② 検討中	9.0	3.7	6.7	77.5	12.4	13.0	11.1	3.1	2.7	9.2	11.4	11.6	8.4	5.8
③ はい	80.8	89.6	82.2		73.5	75.3	75.3	78.5	94.6	86.2	82.9	77.8	82.5	83.8
計	100.0	100.0	100.0	88.6	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1

(2) シラバスに当該授業科目と、学部ないし学科の目標との関係が明示されている

	(N)	716	162	45	499 **	113	162	82	64	113	108	36 ***	199	263	191 *
① いいえ		42.5	34.6	44.4	44.9	46.0	46.9	54.9	48.4	20.4	39.8	44.4	43.2	41.4	41.9
② 検討中		19.8	17.3	4.7	21.6	25.7	24.7	18.3	9.4	15.9	21.3	19.4	25.1	19.8	12.6
③ はい		37.7	48.1	48.9	33.5	28.3	28.4	26.8	42.2	63.7	38.9	36.1	31.7	38.8	45.5
計		100.0	100.0	98.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) シラバスの内容について、授業担当者以外が検討し、修正を求めることがある

	(N)	718	163	46	499	112	161	83	65	113	108	37 *	200	263	192
① いいえ		52.6	55.8	60.9	50.5	44.6	57.8	66.3	55.4	39.8	57.4	54.1	51.0	51.0	55.7
② 検討中		9.1	6.7	4.3	10.4	10.7	11.2	4.8	7.7	8.8	9.3	10.8	11.0	7.6	8.3
③ はい		38.3	37.4	34.8	39.1	44.6	31.1	28.9	36.9	51.3	33.3	35.1	38.0	41.4	35.9
計		100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9

(4) 全学ないし学部の目標と、学科の目標との関係を図や表にした資料がある

	(N)	707	159	45	494	109	158	81	65	112	109	35	197	259	189
① いいえ		57.0	59.1	44.4	57.7	67.0	57.0	54.3	58.5	53.6	51.4	62.9	54.8	58.3	58.2
② 検討中		17.0	17.0	13.3	17.5	16.5	17.7	21.0	15.4	16.1	19.3	17.1	19.8	18.1	13.2
③ はい		26.0	23.9	42.2	24.7	16.5	25.3	24.7	26.2	30.4	29.4	20.0	25.4	23.6	28.6
計		100.0	100.0	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(5) 学科の目標と、各授業科目との関係を図や表にした資料(カリキュラム・マップ等)がある

	(N)	716	163	45	498	113	160	83	65	113	109	35 ***	199	262	192
① いいえ		37.6	33.7	37.8	38.8	45.1	45.0	37.3	33.8	19.5	41.3	40.0	38.2	36.6	39.6
② 検討中		18.3	20.2	15.6	18.1	19.5	15.6	26.5	13.8	11.5	26.6	17.1	18.6	21.0	13.0
③ はい		44.1	46.0	46.7	43.2	35.4	39.4	36.1	52.3	69.0	32.1	42.9	43.2	42.4	47.4
計		100.0	99.9	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(6) カリキュラムの編成について、上位組織(学部ならば全学、学科等ならば学部)による確認・承認手続きがある

	(N)	720	162	46	502 **	113	161	83	65	113	109	37	201	264	192
① いいえ		29.6	42.0	32.6	25.1	27.4	26.1	27.7	41.5	38.9	24.8	32.4	28.4	31.8	30.7
② 検討中		4.6	3.7	8.7	4.6	5.3	5.6	1.2	3.1	3.5	6.4	5.4	6.0	2.3	5.7
③ はい		65.8	54.3	58.7	70.3	67.3	68.3	71.1	55.4	57.5	68.8	62.2	65.7	65.9	63.5
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	99.9

(7) 半期あたり15週の授業期間(定期試験を除く)を確保している

	(N)	720	162	46	502 **	113	162	83	64	113	109	37 *	201	263	193
① いいえ		8.5	3.7	13.0	9.8	13.3	7.4	8.4	10.9	7.1	7.3	5.4	9.5	7.2	8.3
② 検討中		14.4	9.3	8.7	16.1	17.7	16.7	12.0	15.6	17.7	6.4	0.0	10.0	18.3	13.0
③ はい		77.1	87.0	78.3	74.1	69.0	75.9	79.5	73.4	75.2	86.2	94.6	80.6	74.5	78.8
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1

(8) 一週間に複数回開講される授業がある(外国語科目を除く)

	(N)	717	163	45	498	112	162	82	65	112	108	37 ***	200	262	192
① いいえ		57.7	60.7	67.4	55.6	66.1	42.0	78.0	60.0	54.5	58.3	56.8	56.0	55.3	63.5
② 検討中		3.6	0.6	6.5	4.4	6.3	5.6	0.0	1.5	3.6	3.7	0.0	5.0	2.3	4.2
③ はい		38.6	38.7	26.1	40.0	27.7	52.5	22.0	38.5	42.0	38.0	43.2	39.0	42.4	32.3
計		99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(9) 年換算で40単位以下の履修登録単位数制限がある

	(N)	706	155	46	495	110	160	81	63	110	107	37	201	258	186
① いいえ		68.8	68.4	67.4	69.1	71.8	65.0	63.0	61.9	70.0	71.0	91.9	69.2	69.8	67.7
② 検討中		6.5	2.6	8.7	7.7	5.5	7.5	7.4	7.9	7.3	7.5	0.0	7.0	7.4	5.9
③ はい		24.6	29.0	23.9	23.2	22.7	27.5	29.6	30.2	22.7	21.5	8.1	23.9	22.9	26.3
計		99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	99.9

(10) 特定のテーマ・内容について、異なる科目の担当教員が、相互に連携・調整しながら教育を行うという仕組みがある

	(N)	717	162	46	499 **	111	162	82	65	113	109	37	200	262	193
① いいえ		19.5	15.4	17.4	21.2	21.6	17.9	9.8	33.8	21.2	18.3	16.2	25.0	19.5	14.5
② 検討中		9.2	3.1	15.2	10.8	8.1	8.6	7.3	6.2	13.3	11.0	5.4	9.0	10.3	8.8
③ はい		71.3	81.5	67.4	67.9	70.3	73.5	82.9	60.0	65.5	70.6	78.4	66.0	70.2	76.7
計		100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

### Ⅲ-B. 貴学科の学生が履修可能な授業科目について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力			
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 日本語表現について学ぶことを目的とした科目	(N)	704	158	45	493 ***	113	156	80	63	111	106	37 ***	197	259	188 ***
① ない		29.0	51.3	55.6	19.7	13.3	29.5	28.8	47.6	34.2	29.2	27.0	17.8	27.0	43.6
② 選択科目がある		45.9	38.0	31.1	50.1	44.2	46.8	43.8	41.3	48.6	47.2	51.4	50.8	47.1	39.9
③ 必修科目がある		25.1	10.8	13.3	30.2	42.5	23.7	27.5	11.1	17.1	23.6	21.6	31.5	25.9	16.5
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0
(2) レポートの書き方について学ぶことを目的とした科目	(N)	710	160	45	495	114	161	79	63	108	108	37	202	259	188
① ない		20.7	35.0	28.9	24.6	21.9	24.2	38.0	36.5	23.1	24.1	40.5	21.8	28.6	34.0
② 選択科目がある		33.5	20.0	17.8	27.5	21.9	26.7	20.3	31.7	28.7	25.0	21.6	29.2	23.6	22.9
③ 必修科目がある		45.8	45.0	53.3	47.9	56.1	49.1	41.8	31.7	48.1	50.9	37.8	49.0	47.9	43.1
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(3) プレゼンテーションの方法について学ぶことを目的とした科目	(N)	710	162	45	495	114	160	81	63	108	109	37	201	261	189
① ない		20.7	22.2	28.9	19.6	21.1	20.6	30.9	23.8	16.7	18.3	18.9	18.4	21.1	24.9
② 選択科目がある		33.5	28.4	22.2	36.4	39.5	35.0	23.5	44.4	34.3	24.8	35.1	32.8	34.9	30.7
③ 必修科目がある		45.8	49.4	48.9	44.0	39.5	44.4	45.7	31.7	49.1	56.9	45.9	48.8	44.1	44.4
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(4) 学生に自身のキャリアを考えさせることを目的とした科目															

	(N)	712	161	45	498 *	113	160	82	63	111	109	36 ***	200	263	187 ***	
① ない		20.9	27.3	33.3	18.1	16.8	12.5	18.3	36.5	26.1	28.4	11.1	18.5	16.0	33.2	
② 選択科目がある		49.3	46.6	40.0	51.2	51.3	58.1	40.2	47.6	54.1	40.4	41.7	49.5	55.1	41.2	
③ 必修科目がある		29.8	26.1	26.7	30.7	31.9	29.4	41.5	15.9	19.8	31.2	47.2	32.0	28.9	25.7	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	
(5) データや資料の収集・分析方法について学ぶことを目的とした科目																
	(N)	702	160	45	489	110	159	80	62	108	108	37 ***	199	255	188	
① ない		12.5	14.4	11.1	12.1	15.5	7.5	6.3	21.0	25.0	6.5	8.1	8.5	15.7	11.7	
② 選択科目がある		45.3	36.3	44.4	48.7	45.5	57.2	56.3	45.2	33.3	36.1	35.1	52.3	43.5	42.0	
③ 必修科目がある		42.2	49.4	44.4	39.3	39.1	35.2	37.5	33.9	41.7	57.4	56.8	39.2	40.8	46.3	
計		100.0	100.1	99.9	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(6) 学外での体験型学習（インターンシップ等）を取り入れた科目																
	(N)	712	161	45	498	114	161	81	63	111	108	36 ***	200	262	189 **	
① ない		15.7	16.8	24.4	14.9	15.8	11.2	11.1	39.7	15.3	14.8	16.7	11.5	13.7	23.3	
② 選択科目がある		62.9	60.9	55.6	64.3	70.2	77.6	64.2	54.0	71.2	30.6	47.2	68.0	64.9	51.9	
③ 必修科目がある		21.3	22.4	20.0	20.9	14.0	11.2	24.7	6.3	13.5	54.6	36.1	20.5	21.4	24.9	
計		99.9	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	
(7) 産業界や地域社会と共同で開発・実施する科目																
	(N)	708	160	44	496	114	160	81	64	107	108	36 ***	201	259	187	
① ない		59.2	60.6	61.4	59.3	62.3	41.3	59.3	73.4	70.1	65.7	66.7	61.2	59.1	62.0	
② 選択科目がある		35.6	33.1	34.1	35.7	30.7	54.4	34.6	26.6	27.1	26.9	16.7	33.8	33.6	35.3	
③ 必修科目がある		5.2	6.3	4.5	5.0	7.0	4.4	6.2	0.0	2.8	7.4	16.7	5.0	7.3	2.7	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(8) 外国語だけで実施される専門科目																
	(N)	712	161	46	497 *	112	162	80	64	112	108	36 ***	200	261	190 ***	
① ない		72.8	63.4	80.4	75.7	53.6	67.9	70.0	78.1	77.7	88.0	86.1	84.0	70.1	64.7	
② 選択科目がある		19.8	28.0	17.4	16.7	30.4	24.1	25.0	14.1	17.0	8.3	8.3	10.0	21.5	26.3	
③ 必修科目がある		7.4	8.7	2.2	7.6	16.1	8.0	5.0	7.8	5.4	3.7	5.6	6.0	8.4	8.9	
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	
(9) 地域社会でフィールドワーク（実地調査等）をする科目																
	(N)	709	160	46	495	112	161	83	63	108	108	36 ***	201	257	189	
① ない		45.6	41.3	39.1	47.9	32.1	41.0	33.7	66.7	74.1	36.1	50.0	52.2	42.8	43.9	
② 選択科目がある		43.4	44.4	41.3	42.8	53.6	52.8	54.2	25.4	24.1	38.0	38.9	39.3	43.6	44.4	
③ 必修科目がある		11.0	14.4	19.6	9.3	14.3	6.2	12.0	7.9	1.9	25.9	11.1	8.5	13.6	11.6	
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	
(10) 外国でフィールドワークをする科目																
	(N)	708	161	46	493	113	162	81	64	107	107	36 ***	200	257	190	
① ない		75.1	80.7	80.4	73.0	60.2	74.1	67.9	95.3	91.6	71.0	77.8	80.0	72.4	77.4	
② 選択科目がある		23.0	17.4	19.6	24.9	35.4	24.1	32.1	4.7	8.4	24.3	22.2	18.5	26.5	20.0	
③ 必修科目がある		1.8	1.9	0.0	2.0	4.4	1.9	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0	1.5	1.2	2.6	
計		99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	

### Ⅲ-C. 卒業要件単位について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力			
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 専門科目															
	(N)														
a. 必修		37.8	44.3	42.8	35.6 **	26.4	21.3	36.8	38.1	42.6	65.2	46.3 ***	33.5	36.8	44.3 **
b. 選択必修		31.2	29.8	31.4	31.6	35.4	34.9	33.0	31.0	27.4	22.4	30.6 *	33.5	30.6	29.5
c. 自由選択		33.1	27.5	28.9	35.4 *	30.3	41.2	33.9	29.9	29.8	25.7	32.9 **	34.2	35.1	28.7
計 ave.															
(2) 教養（共通）科目															
	(N)														
a. 必修		14.4	19.3	15.6	13.0 ***	14.4	12.7	16.4	15.7	16.4	14.6	12.4	13.1	13.8	17.7 **
b. 選択必修		16.3	18.8	18.0	15.3 *	18.1	16.3	13.9	16.4	16.0	17.2	16.3	16.4	15.4	18.2
c. 自由選択		16.2	15.8	17.0	16.4	15.8	17.9	15.8	17.6	15.0	15.2	17.3	16.1	17.0	14.5
計 ave.															
(3) その他（専門・教養いずれでも可）															
	(N)	268													
c. 自由選択		17.8	8.5	15.8	19.9 **	22.3	24.2	15.2	8.3	11.2	16.7	22.1 **	17.3	17.3	17.3
計 ave.															
(4) 合計															
	(N)	671													
a. 卒業要件		126.2	127.5	128.1	125.7 ***	125.5	125.9	126.9	126.1	127.0	126.5	125.6 *	125.2	126.0	128.0 ***
計 ave.															

### Ⅳ-A. 真学科における教育プログラムの実施（各授業での教育方法）について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力			
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 質疑や発表などによる、学生の能動的な授業参加															
	(N)	713	163	45	496	112	162	82	65	110	109	37 ***	200	261	191
① ほとんどない		2.1	2.5	6.7	1.6	0.0	0.6	1.2	4.6	7.3	0.9	2.7	1.0	1.9	3.1
② 特定授業である		65.4	63.2	57.8	67.1	53.6	79.6	41.5	80.0	71.8	60.6	64.9	72.0	63.2	63.4
③ 半分位の授業である		20.5	21.5	17.8	19.8	26.8	13.0	40.2	12.3	13.6	20.2	18.9	17.5	21.8	20.9
④ 大部分の授業である		11.4	11.7	15.6	11.1	19.6	6.8	17.1	3.1	5.5	16.5	13.5	9.0	13.0	10.5
⑤ 全授業である		0.7	1.2	2.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	0.5	0.0	2.1
計		100.1	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0

## (2) グループで作業やディスカッションをする機会

	(N)	716	163	44	500	112	162	83	65	113	108	37 ***	201	263	191
① ほとんどない		2.1	1.2	2.3	2.4	0.9	1.9	1.2	3.1	4.4	0.9	5.4	3.0	2.3	1.0
② 特定授業である		75.1	77.9	70.5	74.8	71.4	84.0	51.8	90.8	89.4	62.0	67.6	79.6	74.1	74.9
③ 半分位の授業である		17.0	14.7	18.2	17.4	18.8	11.1	38.6	6.2	4.4	26.9	16.2	13.9	17.1	18.3
④ 大部分の授業である		5.3	5.5	6.8	5.2	8.9	3.1	8.4	0.0	0.9	9.3	10.8	3.0	6.5	4.7
⑤ 全授業である		0.4	0.1	2.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.9	0.0	0.5	0.0	1.0
計		99.9	99.4	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9

## (3) 学生自身が課題を設定し、調査・研究する機会

	(N)	710	162	45	494	111	160	83	65	112	108	35 ***	197	261	191
① ほとんどない		7.0	10.5	4.4	6.3	3.6	3.8	0.0	24.6	13.4	2.8	5.7	6.6	5.4	8.9
② 特定授業である		81.3	78.4	84.4	82.2	82.9	84.4	78.3	75.4	83.9	80.6	80.0	87.3	81.6	77.5
③ 半分位の授業である		9.4	9.3	6.7	9.3	9.9	10.6	18.1	0.0	2.7	11.1	14.3	5.1	11.1	11.0
④ 大部分の授業である		2.0	1.9	4.4	1.8	2.7	1.3	3.6	0.0	0.0	4.6	0.0	0.5	1.5	2.6
⑤ 全授業である		0.3	0.0	0.0	0.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.5	0.4	0.0
計		100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## (4) 体験型学習をする機会（教育実習や臨床実習等、資格・免許取得に必要な実習を除く）

	(N)	712	162	45	496	111	160	82	65	113	109	36 ***	200	259	192
① ほとんどない		18.8	22.8	28.9	16.7	15.3	13.8	3.7	44.6	26.5	16.5	25.0	16.5	18.1	24.0
② 特定授業である		74.6	71.6	64.4	76.2	78.4	82.5	87.8	55.4	69.9	67.9	66.7	78.5	74.9	68.8
③ 半分位の授業である		4.1	4.3	4.4	4.0	3.6	1.9	4.9	0.0	3.5	10.1	2.8	3.5	4.2	4.7
④ 大部分の授業である		2.2	1.2	2.2	2.6	2.7	1.9	3.7	0.0	0.0	3.7	5.6	1.0	2.7	2.6
⑤ 全授業である		0.3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.5	0.0	0.0
計		100.0	99.9	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1

## (5) 試験や小テストの返却・解説

	(N)	712	160	45	498	112	160	81	64	112	109	97 ***	200	260	191
① ほとんどない		2.9	2.5	2.2	3.2	2.7	3.1	2.5	1.6	1.8	5.5	0.0	4.0	3.8	1.6
② 特定授業である		46.6	46.3	51.1	46.2	45.5	63.8	64.2	43.8	23.2	42.2	40.5	44.5	43.5	52.4
③ 半分位の授業である		25.6	26.3	17.8	25.9	26.8	20.6	23.5	28.1	30.4	21.1	27.0	23.5	27.7	24.6
④ 大部分の授業である		22.1	23.1	26.7	21.7	24.1	10.6	9.9	26.6	37.5	25.7	32.4	24.0	23.1	19.4
⑤ 全授業である		2.8	1.9	2.2	3.0	0.9	1.9	0.0	0.0	7.1	5.5	0.0	4.0	1.9	2.1
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.1

## (6) レポートの返却・講評

	(N)	712	159	45	499	111	162	81	63	112	109	37 ***	200	259	192
① ほとんどない		2.5	2.5	2.2	2.6	1.8	3.7	2.5	0.0	0.9	3.7	2.7	3.0	3.9	1.0
② 特定授業である		48.7	44.0	53.3	49.7	54.1	63.6	58.0	49.2	33.9	36.7	40.5	49.5	45.9	52.6
③ 半分位の授業である		25.7	26.4	20.0	26.1	25.2	19.1	29.6	20.6	30.4	30.3	16.2	26.5	26.6	24.0
④ 大部分の授業である		20.1	25.2	17.8	18.6	17.1	11.7	9.9	30.2	28.6	22.9	37.8	18.0	20.8	20.3
⑤ 全授業である		2.9	1.9	6.7	3.0	1.8	1.9	0.0	0.0	6.3	6.4	2.7	3.0	2.7	2.1
計		99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0

## (7) 毎回の授業でのコメント・カードのやり取り

	(N)	711	160	45	497	112	161	81	65	111	109	36 ***	201	260	189
① ほとんどない		15.8	20.0	20.0	14.1	8.0	12.4	2.5	32.3	27.9	15.6	25.0	13.9	19.2	13.2
② 特定授業である		59.6	61.9	55.6	59.2	60.7	62.7	75.3	50.8	49.5	56.0	61.1	60.7	55.8	65.1
③ 半分位の授業である		17.3	13.8	15.6	18.5	21.4	18.0	14.8	10.8	16.2	21.1	11.1	16.4	18.1	16.4
④ 大部分の授業である		6.8	4.4	6.7	7.6	9.8	6.2	7.4	6.2	5.4	5.5	2.8	8.0	6.2	5.3
⑤ 全授業である		0.6	0.0	2.2	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.9	1.8	0.0	1.0	0.8	0.0
計		100.1	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0

## (8) 授業時間外学習を促進するための宿題等の指示

	(N)	707	158	45	495	110	161	81	63	111	107	37 **	198	260	188
① ほとんどない		4.4	3.2	2.2	4.6	2.7	6.2	4.9	6.3	2.7	4.7	0.0	6.1	3.8	3.2
② 特定授業である		57.9	57.6	51.1	58.8	59.1	65.2	63.0	58.7	44.1	59.8	54.1	56.6	58.8	59.0
③ 半分位の授業である		24.0	22.2	33.3	23.6	22.7	18.0	27.2	25.4	24.3	27.1	27.0	24.7	20.4	26.1
④ 大部分の授業である		12.0	16.5	8.9	11.1	15.5	8.1	4.9	9.5	24.3	7.5	16.2	11.6	15.0	10.6
⑤ 全授業である		1.7	0.6	4.4	1.8	0.0	2.5	0.0	0.0	4.5	0.9	2.7	1.0	1.9	1.1
計		100.0	100.1	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0

## (9) 成績評価の観点・水準表（ルーブリック）の利用

	(N)	694	158	45	482	110	157	79	63	111	104	35 *	196	254	188
① ほとんどない		47.8	42.4	42.2	50.4	53.6	54.8	38.0	57.1	45.9	37.5	57.1	51.0	48.4	46.8
② 特定授業である		32.3	36.7	37.8	30.1	31.8	28.0	46.8	20.6	29.7	39.4	25.7	28.1	34.6	33.0
③ 半分位の授業である		6.6	3.8	6.7	7.5	7.3	3.8	2.5	7.9	7.2	10.6	8.6	6.6	6.7	5.9
④ 大部分の授業である		7.5	8.2	6.7	7.3	5.5	6.4	7.6	4.8	10.8	5.8	8.6	8.7	6.7	6.9
⑤ 全授業である		5.8	8.9	6.7	4.8	1.8	7.0	5.1	9.5	6.3	6.7	0.0	5.6	3.5	7.4
計		100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0

## (10) 複数教員での同時担当（チームティーチング）

	(N)	715	162	45	499	113	162	83	64	112	109	36 **	201	263	190
① ほとんどない		26.9	30.2	28.9	26.1	35.4	34.0	20.5	35.9	23.2	16.5	25.0	24.4	25.9	31.6
② 特定授業である		66.9	64.8	66.7	67.1	60.2	62.3	75.9	62.5	68.8	69.7	66.7	70.1	67.3	63.7
③ 半分位の授業である		4.8	2.5	2.2	5.6	3.5	1.9	2.4	1.6	8.0	11.0	2.8	5.0	4.6	4.2
④ 大部分の授業である		1.4	2.5	2.2	1.0	0.9	1.9	1.2	0.0	0.0	1.8	5.6	0.5	2.3	0.5
⑤ 全授業である		0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0
計		100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0

## (11) ラーニング・マネジメント・システム（BlackboardやMoodle等）の利用

	(N)	694	157	43	485	109	156	81	61	112	106	33	197	257	183
① ほとんどない		62.1	56.7	74.4	62.5	65.1	60.3	53.1	70.5	61.6	60.4	69.7	69.5	59.5	60.7
② 特定授業である		29.1	31.8	23.3	29.1	23.9	30.8	38.3	24.6	31.3	29.2	21.2	23.9	31.1	31.7
③ 半分位の授業である		3.2	5.7	0.0	2.7	3.7	1.9	2.5	1.6	4.5	5.7	0.0	1.5	3.9	2.7

④ 大部分の授業である	4.0	3.2	2.3	4.3	2.8	5.1	4.9	1.6	2.7	3.8	9.1	4.6	3.5	2.7	
⑤ 全授業である	1.6	2.5	0.0	1.4	4.6	1.9	1.2	1.6	0.0	0.9	0.0	0.5	1.9	2.2	
計	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	
(12) 受講者以外に対する授業公開	(N)	710	161	45	496	112	161	83	63	112	107	37	199	263	187 **
① ほとんどない	31.5	31.7	15.6	33.3	32.1	24.2	27.7	46.0	39.3	29.9	37.8	25.1	33.5	36.9	
② 特定授業である	49.9	55.3	62.2	46.6	46.4	56.5	57.8	42.9	42.9	50.5	48.6	48.7	47.1	53.5	
③ 半分位の授業である	4.2	3.7	6.7	4.2	4.5	6.8	4.8	0.0	4.5	1.9	5.4	5.0	5.3	2.1	
④ 大部分の授業である	8.5	5.6	8.9	9.5	8.9	7.5	3.6	9.5	6.3	12.1	8.1	13.1	7.6	5.3	
⑤ 全授業である	5.9	3.7	6.7	6.5	8.0	5.0	6.0	1.6	7.1	5.6	0.0	8.0	6.5	2.1	
計	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	99.9	

#### IV-B. 貴学科と高等学校の教育課程との接続について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力			
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定のなし）	(N)	709	163	46	491 *	112	162	83	62	111	106	35 ***	197	259	194 ***
① いいえ	64.3	71.2	73.9	61.1	76.8	71.0	69.9	58.1	47.7	59.4	62.9	57.9	60.6	76.3	
② 検討中	11.1	5.5	4.3	13.4	16.1	9.3	14.5	4.8	6.3	13.2	11.4	17.3	11.6	5.2	
③ はい	24.5	23.3	21.7	25.5	7.1	19.8	15.7	37.1	45.9	27.4	25.7	24.9	27.8	18.6	
計	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1	
(2) 高校の教科内容についての補習授業を実施している（単位認定のあり）	(N)	716	164	46	497 *	113	160	83	65	113	107	37 ***	198	264	195 ***
① いいえ	72.2	80.5	76.1	69.2	79.6	76.9	83.1	67.7	57.5	73.8	62.2	59.1	74.2	81.0	
② 検討中	10.5	4.3	8.7	12.5	13.3	11.3	10.8	7.7	7.1	12.1	13.5	16.2	9.5	6.7	
③ はい	17.3	15.2	15.2	18.3	7.1	11.9	6.0	24.6	35.4	14.0	24.3	24.7	16.3	12.3	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(3) 既修組・未修組に分けた授業を実施している	(N)	715	164	44	498	114	161	81	65	111	108	37 **	199	265	190 **
① いいえ	76.5	84.1	81.8	73.9	78.1	75.2	87.7	69.2	64.0	83.3	75.7	71.9	70.9	85.8	
② 検討中	8.0	4.3	4.5	9.2	10.5	6.2	7.4	9.2	8.1	7.4	13.5	11.1	9.4	4.2	
③ はい	15.5	11.6	13.6	16.9	11.4	18.6	4.9	21.5	27.9	9.3	10.8	17.1	19.6	10.0	
計	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.0	
(4) 学力別クラス分けを実施している（初年次の英語教育等を含む）	(N)	720	164	45	502 ***	114	162	82	65	112	109	37 **	200	266	193 ***
① いいえ	39.0	57.9	71.1	29.7	30.7	28.4	51.2	38.5	39.3	54.1	43.2	27.0	33.8	57.0	
② 検討中	5.7	3.7	2.2	6.4	6.1	5.6	4.9	7.7	3.6	5.5	8.1	5.5	4.9	7.3	
③ はい	55.3	38.4	26.7	63.9	63.2	66.0	43.9	53.8	57.1	40.4	48.6	67.5	61.3	35.8	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	
(5) 初年次教育を必修科目として設置している	(N)	712	164	45	494 **	113	162	83	62	110	107	36	197	262	193 *
① いいえ	24.9	32.3	33.3	21.7	20.4	24.1	32.5	32.3	22.7	29.0	19.4	18.8	24.4	33.2	
② 検討中	9.0	2.4	11.1	11.1	5.3	7.4	6.0	4.8	10.9	15.9	8.3	11.2	7.6	7.8	
③ はい	66.2	65.2	55.6	67.2	74.3	68.5	61.4	62.9	66.4	55.1	72.2	70.1	67.9	59.1	
計	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.1	
(6) AO入試に学力検査を採用している	(N)	629	112	37	461 **	104	142	69	54	97	97	30	195	229	151
① いいえ	68.5	73.0	91.9	65.1	60.6	70.4	76.8	61.1	64.9	70.1	70.0	67.7	63.8	75.5	
② 検討中	7.8	4.9	5.4	8.9	10.6	5.6	4.3	5.6	14.4	9.3	0.0	9.2	7.0	6.0	
③ はい	23.7	22.1	2.7	26.0	28.8	23.9	18.8	33.3	20.6	20.6	30.0	23.1	29.3	18.5	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	
(7) 推薦入試に学力検査を採用している	(N)	694	144	44	497	114	153	78	60	109	107	36	201	261	176 *
① いいえ	49.1	50.0	47.7	48.7	41.2	45.8	55.1	61.7	46.8	51.4	47.2	52.2	42.1	56.3	
② 検討中	5.6	2.8	4.5	6.6	7.9	4.6	2.6	3.3	8.3	9.3	0.0	6.5	5.0	4.5	
③ はい	45.2	47.2	47.7	44.7	50.9	49.7	42.3	35.0	45.0	39.3	52.8	41.3	52.9	39.2	
計	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(8) AO入試で評定平均値や科目成績の基準を満たすことを求めている	(N)	624	120	35	461 ***	103	137	70	54	98	97	30	194	229	147 ***
① いいえ	59.1	75.8	85.7	52.7	50.5	56.2	65.7	61.1	59.2	55.7	66.7	51.5	55.9	74.8	
② 検討中	7.4	4.2	2.9	8.7	10.7	7.3	4.3	1.9	13.3	6.2	3.3	10.3	6.6	4.8	
③ はい	33.5	20.0	11.4	38.6	38.8	36.5	30.0	37.0	27.6	38.1	30.0	38.1	37.6	20.4	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	100.0	
(9) 推薦入試で評定平均値や科目成績の基準を満たすことを求めている	(N)	692	143	43	497 ***	113	153	78	59	109	107	35 ***	200	259	174 ***
① いいえ	23.4	44.8	32.6	16.3	20.4	17.6	28.2	42.4	31.2	15.0	14.3	15.5	20.1	36.8	
② 検討中	3.6	2.1	2.3	4.2	7.1	2.6	5.1	1.7	5.5	0.9	0.0	2.5	4.6	3.4	
③ はい	73.0	53.1	65.1	79.5	72.6	79.7	66.7	55.9	63.3	84.1	85.7	82.0	75.3	59.8	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(10) 入学前教育を行っている	(N)	714	160	44	501 ***	114	161	80	63	114	108	35	201	264	188 ***
① いいえ	29.1	65.6	52.3	15.6	24.6	28.6	41.3	39.7	24.6	25.9	28.6	13.4	24.6	55.3	
② 検討中	5.2	3.1	2.3	6.2	3.5	5.6	6.3	4.8	3.5	8.3	5.7	5.0	6.1	4.8	
③ はい	65.7	31.3	45.5	78.2	71.9	65.8	52.5	55.6	71.9	65.7	65.7	81.6	69.3	39.9	
計	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

#### V-A. 貴学科における学習成果の把握・評価について伺います（一部でも当てはまる場合は「はい」とお答え下さい）。

	総計	設置形態			専門分野								学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 成績分布に関する申し合わせがある	(N) 718	162	46	501	114	160	83	64	112	109	37	200	266	191	
① いいえ	72.3	76.5	78.3	70.1	71.1	67.5	75.9	76.6	75.0	70.6	75.7	75.0	71.8	69.1	
② 検討中	9.9	6.2	8.7	11.4	12.3	11.3	7.2	7.8	8.0	10.1	10.8	10.5	11.3	8.4	
③ はい	17.8	17.3	13.0	18.6	16.7	21.3	16.9	15.6	17.0	19.3	13.5	14.5	16.9	22.5	
計	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(2) 複数の評価方法を組み合わせた多面的な成績評価をしている	(N) 715	163	46	497 *	114	160	81	65	112	108	36	199	265	190	
① いいえ	36.5	45.4	32.6	33.6	29.8	35.6	37.0	36.9	43.8	36.1	38.9	31.2	40.4	37.4	
② 検討中	10.3	6.1	15.2	11.5	8.8	12.5	3.7	10.8	9.8	14.8	8.3	13.1	9.1	8.9	
③ はい	53.1	48.5	52.2	54.9	61.4	51.9	59.3	52.3	46.4	49.1	52.8	55.8	50.6	53.7	
計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	
(3) 成績の採点基準に関する申し合わせがある	(N) 716	163	45	499	112	161	82	65	112	109	37 *	199	265	191	
① いいえ	48.9	45.4	66.7	48.7	47.3	57.1	52.4	63.1	47.3	33.9	40.5	48.7	49.8	47.6	
② 検討中	11.6	10.4	8.9	12.0	14.3	12.4	8.5	6.2	9.8	16.5	13.5	11.1	12.1	11.0	
③ はい	39.5	44.2	24.4	39.3	38.4	30.4	39.0	30.8	42.9	49.5	45.9	40.2	38.1	41.4	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(4) 学生による授業評価において、学習成果の獲得状況を確認している	(N) 714	163	45	497 **	114	161	82	65	111	107	36 *	197	264	192	
① いいえ	22.5	17.2	17.8	25.2	22.8	29.8	29.3	20.0	17.1	14.0	19.4	24.4	23.9	18.8	
② 検討中	9.2	4.3	6.7	11.3	7.0	8.1	14.6	7.7	7.2	11.2	16.7	11.7	9.8	5.2	
③ はい	68.2	78.5	75.6	63.6	70.2	62.1	56.1	72.3	75.7	74.8	63.9	64.0	66.3	76.0	
計	99.9	100.0	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	
(5) 担当者が異なる同一科目では共通の試験問題を利用している	(N) 679	156	42	472 *	111	157	77	61	104	102	30 **	190	253	178	
① いいえ	61.7	69.2	66.7	58.5	62.2	66.2	74.0	68.9	46.2	59.8	53.3	56.8	66.0	61.8	
② 検討中	8.2	5.1	14.3	8.9	9.0	5.7	13.0	3.3	6.7	11.8	13.3	8.4	7.5	9.6	
③ はい	30.0	25.6	19.0	32.6	28.8	28.0	13.0	27.9	47.1	28.4	33.3	34.7	26.5	28.7	
計	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.1	
(6) 試験問題の妥当性を教員相互でチェックしている	(N) 714	163	44	498	113	160	83	65	112	107	36 ***	201	263	190	
① いいえ	83.2	90.2	84.1	80.9	80.5	90.0	92.8	80.0	75.0	76.6	88.9	84.1	82.9	84.7	
② 検討中	9.1	6.1	11.4	9.8	8.0	6.3	4.8	9.2	10.7	17.8	0.0	8.0	11.0	7.4	
③ はい	7.7	3.7	4.5	9.2	11.5	3.8	2.4	10.8	14.3	5.6	11.1	8.0	6.1	7.4	
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	99.5	
(7) 学習成果の記録（学習ポートフォリオ）を学生に作成させている	(N) 716	163	45	499	113	162	82	64	113	108	36 ***	200	263	192	
① いいえ	64.7	63.2	71.1	64.5	71.7	76.5	43.9	81.3	58.4	57.4	61.1	62.0	62.0	71.4	
② 検討中	16.2	11.0	13.3	17.8	15.0	11.1	26.8	9.4	8.0	24.1	19.4	19.5	18.3	9.9	
③ はい	19.1	25.8	15.6	17.6	13.3	12.3	29.3	9.4	33.6	18.5	19.4	18.5	19.8	18.8	
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	
(8) 進級において一定基準以上のGPAを要求している	(N) 709	156	45	499 *	113	158	82	62	113	106	37 ***	201	262	186	
① いいえ	77.3	85.3	84.4	74.3	73.5	86.1	78.0	88.7	73.5	66.0	70.3	73.6	77.1	81.7	
② 検討中	11.7	6.4	4.4	13.8	12.4	9.5	18.3	3.2	10.6	12.3	16.2	12.9	13.0	7.5	
③ はい	11.0	8.3	11.1	11.8	14.2	4.4	3.7	8.1	15.9	21.7	13.5	13.4	9.9	10.8	
計	100.0	100.0	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	
(9) 卒業において一定基準以上のGPAを要求している	(N) 709	158	45	497	113	158	82	63	112	106	37 **	201	260	187 *	
① いいえ	76.2	80.4	82.2	74.4	74.3	82.3	76.8	88.9	73.2	62.3	73.0	72.1	78.1	80.2	
② 検討中	12.8	8.2	4.4	14.9	15.9	10.8	17.1	4.8	12.5	13.2	16.2	14.4	14.2	7.5	
③ はい	11.0	11.4	13.3	10.7	9.7	7.0	6.1	6.3	14.3	24.5	10.8	13.4	7.7	12.3	
計	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	
(10) 在学生調査や卒業生調査において、学習成果の獲得状況を確認している	(N) 709	159	45	496 **	113	158	81	62	113	108	37	199	263	186	
① いいえ	52.5	49.7	28.9	55.6	53.1	58.9	55.6	56.5	49.6	44.4	48.6	56.8	53.2	47.8	
② 検討中	13.3	9.4	22.2	13.7	15.0	10.8	17.3	6.5	8.0	19.4	18.9	13.1	13.7	11.3	
③ はい	34.3	40.9	48.9	30.6	31.9	30.4	27.2	37.1	42.5	36.1	32.4	30.2	33.1	40.9	
計	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	
(11) 学外で開発されている標準化されたテストを利用している	(N) 714	162	45	498 **	113	160	82	63	113	108	37	200	262	192	
① いいえ	76.5	85.8	84.4	72.5	68.1	76.3	80.5	85.7	85.0	71.3	67.6	72.0	75.6	82.3	
② 検討中	7.1	1.2	8.9	9.0	10.6	6.3	6.1	3.2	5.3	11.1	5.4	7.5	8.0	4.7	
③ はい	16.4	13.0	6.7	18.5	21.2	17.5	13.4	11.1	9.7	17.6	27.0	20.5	16.4	13.0	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(12) 上記(1)-(11)以外に、学生の到達度を確認するための特別な取組を行っている	(N) 556	129	32	388	79	129	69	53	85	78	31	169	199	140	
① いいえ	88.7	90.7	96.9	87.1	93.7	89.1	85.5	86.8	89.4	88.5	83.9	89.9	86.9	87.9	
② 検討中	2.3	1.6	3.1	2.6	2.5	2.3	2.9	1.9	2.4	1.3	3.2	1.8	4.0	0.7	
③ はい	9.0	7.8	0.0	10.3	3.8	8.5	11.6	11.3	8.2	10.3	12.9	8.3	9.0	11.4	
計	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	
(13) その取組の具体的な内容を教えてください。〔自由記述〕	(N) 733														
① 記述なし	90.9														

② 記述あり	9.1
計	100.0

V-B. 卒業研究(卒業論文・卒業制作等を含む)について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(1) 卒業研究科目の設置状況	(N) 713	162	45	497 ***	113	158	83	63	114	109	36	200	160	193 **
① 必修	77.8	92.0	91.1	72.2	82.3	53.8	83.1	87.3	99.1	78.0	72.2	72.5	77.3	85.0
② 選択	18.7	4.9	8.9	23.7	16.8	32.3	16.9	12.7	0.9	20.2	27.8	23.0	20.8	10.4
③ 設置なし	3.5	3.1	0.0	4.0	0.9	13.9	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	4.5	1.9	4.7
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1
(2) 単位数	(N) 665	150	43	464	110	130	77	60	111	104	36	188	247	174
[平均単位数]	5.7	6.9	5.5	5.4 ***	6.2	5.1	5.5	7.9	6.4	4.2	5.2 ***	5.5	5.9	5.9
計	ave.													
(3) 口頭試問	(N) 673	151	45	468 **	111	132	78	62	110	106	36 ***	187	252	178 *
① なし	45.5	35.1	42.2	49.4	29.7	65.2	43.6	37.1	16.4	68.9	66.7	52.4	45.6	37.6
② あり	54.5	64.9	57.8	50.6	70.3	34.8	56.4	62.9	83.6	31.1	33.3	47.6	54.4	62.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 明文化された評価基準	(N) 674	155	45	465	109	130	79	63	114	106	36	188	251	180
① なし	50.7	46.5	48.9	52.3	45.9	66.2	58.2	60.3	29.8	46.2	55.6	52.1	48.6	51.1
② 教員間で共有	38.3	41.3	37.8	37.2	48.6	27.7	38.0	28.6	39.5	48.1	27.8	36.7	38.2	40.6
③ 学生にも公表	11.0	12.3	13.3	10.5	5.5	6.2	3.8	11.1	30.7	5.7	16.7	11.2	13.1	8.3
計	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0
(5) 指導体制	(N) 675	155	43	468 ***	111	133	80	63	112	105	34 ***	187	255	176 ***
① 単独	78.1	62.6	65.1	84.6	81.1	94.0	75.0	69.8	65.2	79.0	73.5	88.8	76.5	66.5
② 複数	21.9	37.4	34.9	15.4	18.9	6.0	25.0	30.2	34.8	21.0	26.5	11.2	23.5	33.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 審査体制	(N) 678	156	45	468 ***	111	134	79	62	114	106	35 ***	187	255	180
① 単独	41.7	25.6	31.1	48.5	36.9	67.9	31.6	40.3	14.9	49.1	51.4	49.2	40.8	38.3
② 複数	58.3	74.4	68.9	51.5	63.1	32.1	68.4	59.7	85.1	50.9	48.6	50.8	59.2	61.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(7) 審査会	(N) 677	153	45	470 ***	111	136	75	61	114	107	35 ***	190	251	181
① 行っていない	48.0	29.4	42.2	54.9	50.5	75.7	52.0	34.4	5.3	57.0	57.1	53.7	49.4	41.4
② 行っている	52.0	70.6	57.8	45.1	49.5	24.3	48.0	65.6	94.7	43.0	42.9	46.3	50.6	58.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(8) 成果の公開(報告会や展示会等)	(N) 680	155	45	471 **	112	135	76	63	114	107	36 ***	188	253	183
① 行っていない	20.7	20.6	4.4	22.5	33.0	37.8	11.8	20.6	9.6	10.3	11.1	18.1	21.3	21.3
② 学内限定で行っている	57.6	51.6	57.8	59.4	58.0	45.2	72.4	52.4	58.8	69.2	50.0	60.1	56.9	56.3
③ 学内に限らず行っている	21.6	27.7	37.8	18.0	8.9	17.0	15.8	27.0	31.6	20.6	38.9	21.8	21.7	22.4
計	99.9	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0
(9) 卒業研究科目を選択しなかった学生に対する措置 ((1)で「②選択」と答えた方のみお答え下さい)	(N) 93	6	4	81	14	32	11	6	1	15	7	32	37	15
① なし	69.9	66.7	25.0	74.1	64.3	78.1	63.6	50.0	100.0	66.7	85.7	81.3	70.3	53.3
② あり	30.1	33.3	75.0	25.9	35.7	21.9	36.4	50.0	0.0	33.3	14.3	18.8	29.7	46.7
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0

V-C. 教育成果に対する貴学科の捉え方について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(1) 就職実績(就職率、就職先等)	(N) 715	164	46	497	114	161	81	64	114	106	37 ***	201	262	194 ***
① まったく重視していない	1.5	3.0	2.2	1.0	0.0	0.0	1.2	6.3	1.8	2.8	2.7	0.5	0.8	4.1
② あまり重視していない	9.5	10.4	8.7	9.5	14.9	9.9	6.2	14.1	7.0	5.7	10.8	10.4	5.7	12.9
③ ある程度重視している	42.4	48.8	47.8	39.8	50.0	44.7	32.1	53.1	48.2	25.5	32.4	34.3	43.9	49.5
④ おおいに重視している	46.6	37.8	41.3	49.7	35.1	45.3	60.5	26.6	43.0	66.0	54.1	54.7	49.6	33.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0
(2) 大学院進学実績(進学率、進学先等)	(N) 715	164	46	497 ***	114	161	81	64	114	106	37 ***	201	263	194 ***
① まったく重視していない	6.2	2.4	4.3	7.4	3.5	8.1	11.1	1.6	3.5	8.5	5.4	9.5	5.3	4.6
② あまり重視していない	31.7	17.1	28.3	37.0	31.6	42.2	33.3	12.5	12.3	40.6	45.9	44.3	28.1	22.2
③ ある程度重視している	46.6	53.0	52.2	44.1	55.3	43.5	40.7	46.9	58.8	38.7	35.1	38.3	51.0	50.5
④ おおいに重視している	15.5	27.4	15.2	11.5	9.6	6.2	14.8	39.1	25.4	12.3	13.5	8.0	15.6	22.7
計	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0
(3) 進路未定・不明の者の比率の低さ	(N) 712	165	46	493 *	113	161	82	63	112	107	36	199	262	193 **
① まったく重視していない	2.4	3.0	4.3	2.0	0.0	2.5	1.2	3.2	2.7	3.7	8.3	0.5	2.7	4.1
② あまり重視していない	13.6	15.8	8.7	13.6	12.4	13.7	14.6	12.7	10.7	15.0	25.0	14.6	11.8	15.5
③ ある程度重視している	50.8	54.5	67.4	47.7	57.5	52.8	51.2	55.6	54.5	35.5	33.3	41.7	53.8	54.9
④ おおいに重視している	33.1	26.7	19.6	36.7	30.1	31.1	32.9	28.6	32.1	45.8	33.3	43.2	31.7	25.4

	計	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9
(4) 4年間での卒業率の高さ	(N)	715	165	46	496 **	114	161	82	64	113	107	36 *	201	263	193 *
① まったく重視していない		2.4	2.4	4.3	2.0	0.9	1.9	2.4	3.1	0.0	4.7	8.3	0.5	1.9	5.2
② あまり重視していない		15.9	23.6	17.4	13.5	13.2	16.1	15.9	15.6	22.1	12.1	16.7	13.4	15.2	19.2
③ ある程度重視している		52.6	55.2	60.9	51.2	51.8	56.5	54.9	56.3	56.6	43.0	41.7	53.7	53.2	52.3
④ おおいに重視している		29.1	18.8	17.4	33.3	34.2	25.5	26.8	25.0	21.2	40.2	33.3	32.3	29.7	23.3
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0
(5) 中退率の低さ	(N)	716	165	46	497 ***	114	160	83	64	113	107	37 ***	200	264	193 ***
① まったく重視していない		3.1	2.4	6.5	2.8	0.0	3.1	2.4	3.1	0.9	4.7	13.5	1.0	2.7	5.2
② あまり重視していない		16.1	20.6	21.7	14.3	10.5	15.6	13.3	20.3	23.9	15.9	2.7	10.5	15.9	20.7
③ ある程度重視している		48.7	57.6	54.3	45.7	46.5	51.9	54.2	56.3	49.6	37.4	48.6	46.5	50.4	51.3
④ おおいに重視している		32.1	19.4	17.4	37.2	43.0	29.4	30.1	20.3	25.7	42.1	35.1	42.0	31.1	22.8
計		100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(6) 学生の成績 (GPA等)	(N)	711	163	45	495	114	160	82	63	112	106	37 **	200	261	191
① まったく重視していない		3.9	3.7	8.9	3.6	0.0	3.1	3.7	7.9	3.6	5.7	5.4	3.5	4.2	3.7
② あまり重視していない		23.1	25.2	24.4	22.4	19.3	29.4	19.5	34.9	24.1	11.3	18.9	24.5	20.3	23.0
③ ある程度重視している		56.4	60.1	51.1	55.6	62.3	51.3	65.9	47.6	59.8	57.5	51.4	54.5	59.4	59.7
④ おおいに重視している		16.6	11.0	15.6	18.4	18.4	16.3	11.0	9.5	12.5	25.5	24.3	17.5	16.1	13.6
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(7) 学生の学習成果 (学習ポートフォリオ)	(N)	691	159	44	481	110	158	79	57	113	106	33 **	200	252	184
① まったく重視していない		12.2	13.8	11.4	11.6	10.9	10.8	7.6	22.8	14.2	12.3	9.1	10.0	10.7	14.7
② あまり重視していない		36.5	37.1	38.6	36.2	39.1	39.9	32.9	50.9	38.9	27.4	27.3	40.0	34.9	34.8
③ ある程度重視している		41.2	44.7	45.5	39.5	39.1	41.1	51.9	22.8	40.7	41.5	42.4	38.5	43.7	43.5
④ おおいに重視している		10.1	4.4	4.5	12.7	10.9	8.2	7.6	3.5	6.2	18.9	21.2	11.5	10.7	7.1
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1
(8) 国家試験合格率	(N)	673	155	41	469 **	108	155	69	59	109	105	33 ***	191	242	185
① まったく重視していない		25.4	34.8	22.0	22.2	36.1	21.3	26.1	45.8	36.7	0.0	9.1	23.6	23.1	29.2
② あまり重視していない		29.1	34.8	24.4	28.1	36.1	38.7	27.5	35.6	37.6	2.9	12.1	30.4	29.3	30.3
③ ある程度重視している		22.1	17.4	24.4	23.2	23.1	25.8	26.1	11.9	21.1	16.2	30.3	22.5	24.8	17.8
④ おおいに重視している		23.3	12.9	29.3	26.4	4.6	14.2	20.3	6.8	4.6	81.0	48.5	23.6	22.7	22.7
計		99.9	99.9	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.0
(9) 授業評価アンケートの結果	(N)	716	165	44	499	114	161	83	64	113	107	37 *	201	263	193
① まったく重視していない		1.4	1.8	2.3	1.2	0.9	1.2	1.2	1.6	1.8	0.9	2.7	0.0	1.5	1.6
② あまり重視していない		12.2	15.8	11.4	11.2	8.8	9.9	12.0	25.0	15.0	10.3	2.7	9.5	12.2	14.0
③ ある程度重視している		64.8	64.2	70.5	64.7	63.2	72.0	60.2	62.5	67.3	57.0	67.6	65.7	61.2	68.9
④ おおいに重視している		21.6	18.2	15.9	22.8	27.2	16.8	26.5	10.9	15.9	31.8	27.0	24.9	25.1	15.5
計		100.0	100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0
(10) 在学生調査や卒業生調査の結果	(N)	704	162	45	489	111	160	80	60	113	106	37 **	199	260	190
① まったく重視していない		4.7	3.1	6.7	5.1	6.3	3.8	2.5	10.0	3.5	5.7	5.4	6.5	2.7	4.2
② あまり重視していない		22.2	21.6	22.2	22.5	16.2	26.3	21.3	30.0	29.2	15.1	13.5	23.1	20.4	24.2
③ ある程度重視している		56.4	60.5	55.6	54.6	57.7	55.6	58.8	53.3	58.4	50.0	54.1	54.8	58.5	55.8
④ おおいに重視している		16.8	14.8	15.6	17.8	19.8	14.4	17.5	6.7	8.8	29.2	27.0	15.6	18.5	15.8
計		100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(11) 卒業生に対する雇用主の評価	(N)	700	163	45	484	112	160	80	59	112	105	36 ***	198	257	189
① まったく重視していない		5.7	3.7	4.4	6.6	11.6	3.8	2.5	8.5	6.3	2.9	5.6	8.1	4.3	5.3
② あまり重視していない		25.9	26.4	33.3	24.6	23.2	32.5	18.8	35.6	30.4	11.4	27.8	26.8	23.0	27.0
③ ある程度重視している		52.7	57.1	53.3	51.2	51.8	55.6	53.8	47.5	54.5	51.4	50.0	51.5	54.9	54.0
④ おおいに重視している		15.7	12.9	8.9	17.6	13.4	8.1	25.0	8.5	8.9	34.3	16.7	13.6	17.9	13.8
計		100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1
(12) 卒業生に対する社会からの評判 (大学ランキング等)	(N)	709	165	45	491	114	160	80	61	113	107	37 ***	200	259	192
① まったく重視していない		3.8	5.5	2.2	3.5	3.5	2.5	2.5	8.2	6.2	2.8	2.7	4.0	2.7	4.7
② あまり重視していない		20.3	25.5	22.2	18.3	20.2	20.0	22.5	31.1	16.8	10.3	32.4	19.0	21.6	18.8
③ ある程度重視している		56.8	56.4	62.2	56.4	57.0	64.4	51.3	52.5	61.9	47.7	51.4	62.0	53.3	58.3
④ おおいに重視している		19.0	12.7	13.3	21.8	19.3	13.1	23.8	8.2	15.0	39.3	13.5	15.0	22.4	18.2
計		99.9	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

VI. 貴学科の取り組み状況に対するお考えを伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力			
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 学科としての教育・学習目標の具体化	(N)	705	161	45	492	112	160	81	58	113	109	36 *	197	261	189 ***
① 難航している		1.1	0.6	0.0	1.4	0.0	1.9	0.0	1.7	1.8	0.9	2.8	2.0	0.8	0.0
②		11.8	6.2	13.3	13.6	8.9	14.4	12.3	12.1	11.5	10.1	13.9	19.8	9.2	5.3
③		50.1	49.1	51.1	50.2	50.0	63.8	43.2	44.8	39.8	51.4	41.7	50.3	46.7	54.5
④ 上手くいっている		37.0	44.1	35.6	34.8	41.1	20.0	44.4	41.4	46.9	37.6	41.7	27.9	43.3	40.2
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) 目標に対応した教育プログラムの設計	(N)	705	161	45	492	113	159	82	60	113	107	36	199	261	189 **

① 難航している	1.8	1.9	0.0	2.0	0.0	2.5	2.4	1.7	2.7	1.9	2.8	3.0	1.1	0.5
②	13.9	11.8	11.1	15.0	9.7	18.9	15.9	20.0	9.7	10.3	16.7	21.1	11.5	7.9
③	52.5	49.7	57.8	52.8	54.9	56.0	47.6	45.0	46.9	58.9	47.2	47.7	55.2	54.0
④ 上手くいっている	31.8	36.6	31.1	30.1	35.4	22.6	34.1	33.3	40.7	29.0	33.3	28.1	32.2	37.6
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0
(3) 目標に対応した教育プログラムの実施														
(N)	704	161	45	491	113	159	82	60	113	106	36	199	260	189 **
① 難航している	1.7	1.9	0.0	1.8	0.0	3.1	2.4	1.7	0.9	1.9	2.8	2.0	1.2	1.1
②	16.6	13.0	11.1	18.5	13.3	22.6	18.3	16.7	14.2	13.2	19.4	23.1	16.2	8.5
③	53.4	57.8	60.0	51.1	51.3	54.7	48.8	53.3	49.6	58.5	44.4	46.2	54.2	59.8
④ 上手くいっている	28.3	27.3	28.9	28.5	35.4	19.5	30.5	28.3	35.4	26.4	33.3	28.6	28.5	30.7
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	100.1
(4) 学習成果の把握・評価														
(N)	703	161	44	490	112	159	81	60	112	107	37	197	259	190 ***
① 難航している	2.0	1.2	2.3	2.2	0.0	3.1	2.5	1.7	1.8	1.9	2.7	2.5	1.2	1.6
②	25.3	19.9	13.6	28.6	19.6	34.6	28.4	30.0	19.6	21.5	21.6	34.5	25.1	13.7
③	52.9	59.0	63.6	49.8	57.1	48.4	48.1	45.0	54.5	57.0	64.9	45.2	52.1	64.7
④ 上手くいっている	19.8	19.9	20.5	19.4	23.2	13.8	21.0	23.3	24.1	19.6	10.8	17.8	21.6	20.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(5) PDCAサイクルの運用														
(N)	586	127	40	413	88	140	70	34	104	91	29 *	176	222	140
① 難航している	5.3	6.3	5.0	5.1	1.1	5.0	4.3	11.8	5.8	6.6	13.8	6.3	3.6	5.7
②	35.2	29.9	27.5	37.8	36.4	44.3	41.4	32.4	24.0	30.8	27.6	40.3	32.9	28.6
③	47.3	47.2	52.5	46.5	53.4	41.4	47.1	44.1	50.0	47.3	48.3	40.3	51.8	50.0
④ 上手くいっている	12.3	16.5	15.0	10.7	9.1	9.3	7.1	11.8	20.2	15.4	10.3	13.1	11.7	15.7
計	100.1	99.9	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 全学的に管理されている各種データ（学籍情報や学生調査の結果等）に基づいた学科の方針決定・運営														
(N)	637	138	41	452	105	145	71	48	105	99	34	187	233	165 **
① 難航している	5.0	5.8	5.8	4.9	0.0	5.5	2.8	10.4	6.7	7.1	5.9	7.0	4.3	2.4
②	29.7	30.4	30.4	29.6	28.6	31.0	33.8	37.5	26.7	23.2	35.3	38.0	27.0	25.5
③	51.2	52.2	52.2	50.9	49.5	53.1	53.5	43.8	49.5	54.5	47.1	37.4	57.1	57.6
④ 上手くいっている	14.1	11.6	11.6	14.6	21.9	10.3	9.9	8.3	17.1	15.2	11.8	17.6	11.6	14.5
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(7) 改革に対する所属教員の動機付け														
(N)	696	158	45	485	111	156	81	59	112	106	36	197	257	185
① 難航している	3.9	5.1	2.2	3.7	0.9	5.8	2.5	6.8	5.4	3.8	2.8	4.6	4.3	1.6
②	25.1	21.5	20.0	26.6	25.2	26.9	28.4	23.7	21.4	25.5	25.0	28.9	25.7	18.9
③	51.0	57.0	53.3	48.9	49.5	48.7	53.1	54.2	52.7	48.1	52.8	48.2	49.0	57.3
④ 上手くいっている	20.0	16.5	24.4	20.8	24.3	18.6	16.0	15.3	20.5	22.6	19.4	18.3	21.0	22.2
計	100.0	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(8) 教員の職能開発（FD）														
(N)	701	158	45	490	111	158	81	60	112	107	37	198	261	185
① 難航している	2.6	2.5	0.0	2.9	1.8	1.9	1.2	5.0	2.7	3.7	2.7	4.0	1.9	0.5
②	21.1	17.7	15.6	23.1	24.3	21.5	27.2	31.7	18.8	11.2	18.9	25.3	21.5	17.8
③	58.3	57.0	64.4	58.4	53.2	60.8	56.8	50.0	59.8	58.9	70.3	54.5	60.2	61.1
④ 上手くいっている	18.0	22.8	20.0	15.7	20.7	15.8	14.8	13.3	18.8	26.2	8.1	16.2	16.5	20.5
計	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9
(9) 職員の職能開発（SD）														
(N)	655	144	41	462	102	149	79	51	106	100	33	186	243	169 *
① 難航している	5.3	4.2	4.9	5.8	6.9	4.0	3.8	5.9	7.5	4.0	9.1	8.6	4.9	3.0
②	29.8	27.8	26.8	30.7	23.5	31.5	32.9	41.2	27.4	26.0	30.3	35.5	29.2	25.4
③	54.7	55.6	58.5	54.3	57.8	57.0	54.4	43.1	51.9	58.0	51.5	45.7	57.2	59.2
④ 上手くいっている	10.2	12.5	9.8	9.1	11.8	7.4	8.9	9.8	13.2	12.0	9.1	10.2	8.6	12.4
計	100.0	100.1	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0
(10) 改革のための資金調達（学内・学外問わず）														
(N)	656	153	42	453	101	151	76	53	106	99	35	187	241	172 ***
① 難航している	21.0	21.6	16.7	21.4	23.8	15.2	19.7	22.6	17.9	27.3	22.9	28.3	19.5	14.5
②	39.6	34.0	42.9	41.3	42.6	39.7	40.8	34.0	40.6	30.3	54.3	39.0	45.2	30.8
③	31.6	37.3	33.3	29.8	24.8	36.4	34.2	35.8	32.1	36.4	20.0	25.1	29.0	43.6
④ 上手くいっている	7.8	7.2	7.1	7.5	8.9	8.6	5.3	7.5	9.4	6.1	2.9	7.5	6.2	11.0
計	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	99.9
(11) 教育・学習目標の設定における学外識者の参画														
(N)	533	109	35	382 **	80	117	62	39	94	82	29	164	201	129 ***
① 難航している	17.6	11.9	11.4	20.2	20.0	15.4	16.1	30.8	10.6	17.1	27.6	26.8	16.4	10.1
②	43.5	40.4	31.4	45.3	50.0	45.3	38.7	33.3	44.7	39.0	37.9	45.1	44.8	37.2
③	30.2	33.0	54.3	27.5	22.5	32.5	33.9	25.6	31.9	36.6	27.6	20.1	29.9	44.2
④ 上手くいっている	8.6	14.7	2.9	7.1	7.5	6.8	11.3	10.3	12.8	7.3	6.9	7.9	9.0	8.5
計	99.9	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	100.0
(12) 教育プログラムの実施における学外識者等の参画（例：オムニバス授業の担当等）														
(N)	619	135	40	436 ***	96	138	73	46	103	95	33	180	229	161 ***
① 難航している	9.2	5.2	2.5	11.2	11.5	4.3	9.6	13.0	7.8	12.6	15.2	15.6	10.0	2.5
②	27.6	16.3	20.0	31.9	34.4	31.2	23.3	17.4	26.2	27.4	24.2	28.3	33.2	19.3
③	42.8	46.7	67.5	39.4	35.4	42.8	50.7	45.7	41.7	42.1	45.5	37.2	41.0	50.3
④ 上手くいっている	20.4	31.9	10.0	17.4	18.8	21.7	16.4	23.9	24.3	17.9	15.2	18.9	15.7	28.0
計	100.0	100.1	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1
(13) 学習成果の評価・把握における学外識者等の参画（例：研究報告会への参加等）														
(N)	546	117	33	389 ***	80	120	69	36	94	88	28	163	206	134 ***

① 難航している	15.2	8.5	9.1	18.0	18.8	12.5	13.0	27.8	8.5	17.0	21.4	23.3	15.0	8.2
②	40.8	29.9	39.4	44.7	45.0	45.0	33.3	22.2	42.6	36.4	35.7	45.4	40.3	34.3
③	34.2	44.4	48.5	29.6	26.3	34.2	46.4	41.7	36.2	37.5	28.6	22.1	37.4	43.3
④ 上手くいっている	9.7	17.1	3.0	7.7	10.0	8.3	7.2	8.3	12.8	9.1	14.3	9.2	7.3	14.2
計	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(14) 必要性を感じているものの導入が難航している点の具体例について、差し支えない範囲で教えて下さい。〔自由記述〕

(N)	733
① 記述なし	95.0
② 記述あり	5.0
計	100.0

VII-A. 近年の改革動向に対するお考えを伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(1) 中央教育審議会答申による改革方針の提示	(N) 698	159	45	488	111	161	79	60	111	106	35 ***	193	263	184
① 反対	5.9	7.5	11.1	4.9	7.2	6.8	3.8	20.0	3.6	1.9	0.0	5.2	5.7	7.6
②	8.7	10.1	13.3	8.0	9.0	13.7	7.6	8.3	6.3	3.8	11.4	8.3	7.6	10.3
③ どちらとも言えない	61.5	61.6	57.8	61.9	64.9	60.2	40.5	56.7	71.2	65.1	62.9	60.1	63.1	62.5
④	19.3	17.0	13.3	20.3	16.2	16.1	38.0	13.3	14.4	22.6	20.0	21.2	19.0	15.8
⑤ 賛成	4.6	3.8	4.4	4.9	2.7	3.1	10.1	1.7	4.5	6.6	5.7	5.2	4.6	3.8
計	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(2) 教員と学生の所属組織の分離	(N) 694	164	45	479	108	160	80	63	111	103	34 **	193	254	188
① 反対	12.8	15.9	13.3	11.9	13.9	15.0	11.3	27.0	5.4	8.7	11.8	13.0	13.8	11.2
②	19.6	18.9	24.4	19.2	23.1	11.3	11.3	25.4	29.7	17.5	26.5	19.7	18.1	23.4
③ どちらとも言えない	60.1	52.4	53.3	63.5	55.6	68.8	66.3	44.4	55.9	65.0	58.8	60.6	59.4	58.5
④	5.6	9.1	6.7	4.2	6.5	4.4	7.5	1.6	6.3	7.8	0.0	5.2	6.3	5.9
⑤ 賛成	1.9	3.7	2.2	1.3	0.9	0.6	3.8	1.6	2.7	1.0	2.9	1.6	2.4	1.1
計	100.0	100.0	99.9	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1
(3) 入学後に専攻分野を決める方式 (late specialization)	(N) 706	165	45	490	111	160	80	64	113	108	35 *	196	261	190
① 反対	9.3	7.9	6.7	10.0	9.9	6.9	3.8	12.5	7.1	14.8	11.4	5.1	11.5	8.4
②	12.0	11.5	20.0	11.6	10.8	8.8	5.0	15.6	15.9	12.0	25.7	11.7	11.5	13.7
③ どちらとも言えない	42.6	46.7	40.0	41.8	41.4	44.4	45.0	37.5	47.8	43.5	37.1	39.8	43.3	43.7
④	23.8	21.8	20.0	24.3	18.9	30.0	35.0	23.4	17.7	20.4	20.0	28.1	21.5	23.2
⑤ 賛成	12.2	12.1	13.3	12.2	18.9	10.0	11.3	10.9	11.5	9.3	5.7	15.3	12.3	11.1
計	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1
(4) 教員業績評価における教育業績の重視	(N) 712	165	46	495	112	162	81	64	112	108	37	195	266	191
① 反対	2.8	4.2	4.3	2.2	2.7	2.5	1.2	6.3	4.5	1.9	2.7	2.1	3.4	2.6
②	8.1	9.1	8.7	7.9	5.4	8.6	6.2	10.9	10.7	5.6	10.8	8.2	7.1	10.5
③ どちらとも言えない	31.6	30.3	28.3	32.7	34.8	35.2	25.9	35.9	35.7	26.9	27.0	22.6	35.7	32.5
④	41.7	39.4	37.0	42.2	46.4	44.4	46.9	28.1	34.8	41.7	43.2	50.3	38.0	41.4
⑤ 賛成	15.7	17.0	21.7	14.9	10.7	9.3	19.8	18.8	14.3	24.1	16.2	16.9	15.8	13.1
計	99.9	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.1
(5) 専門分野別コア・カリキュラムの開発	(N) 709	165	45	492	112	161	81	63	112	109	36 ***	197	264	190
① 反対	1.3	3.0	2.2	0.6	0.0	1.9	0.0	6.3	0.9	0.0	0.0	0.5	2.3	1.1
②	4.2	2.4	4.4	4.9	4.5	6.2	1.2	4.8	5.4	1.8	2.8	4.1	2.7	6.3
③ どちらとも言えない	32.6	29.7	40.0	33.3	41.1	33.5	25.9	34.9	37.5	33.0	5.6	31.5	33.3	32.1
④	45.8	45.5	42.2	46.0	42.0	46.6	51.9	33.3	44.6	42.2	72.2	48.2	47.7	42.1
⑤ 賛成	16.1	19.4	11.1	15.2	12.5	11.8	21.0	20.6	11.6	22.9	19.4	15.7	14.0	18.4
計	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 専門分野別に汎用的能力を測る客観テストの開発	(N) 709	165	45	493 ***	111	162	81	63	113	108	36 **	197	263	190 **
① 反対	4.9	8.5	8.9	3.4	5.4	8.0	6.2	12.7	0.9	0.9	0.0	2.0	4.9	7.4
②	11.8	19.4	20.0	8.7	11.7	11.1	14.8	11.1	16.8	4.6	11.1	6.6	12.9	16.8
③ どちらとも言えない	49.2	45.5	42.2	51.1	50.5	50.0	49.4	54.0	52.2	50.9	36.1	49.7	50.2	48.4
④	28.2	20.6	17.8	31.4	25.2	27.2	23.5	17.5	27.4	33.3	47.2	36.5	26.2	21.1
⑤ 賛成	5.8	6.1	11.1	5.3	7.2	3.7	6.2	4.8	2.7	10.2	5.6	5.1	5.7	6.3
計	99.9	100.1	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	100.0
(7) 専門分野を超えた共通の様式で汎用的能力を測る客観テストの開発	(N) 707	164	45	492 *	112	162	81	63	113	107	34 **	196	263	189
① 反対	6.5	11.0	8.9	4.9	7.1	7.4	8.6	19.0	3.5	0.9	2.9	3.6	6.5	9.5
②	12.6	16.5	17.8	11.0	16.1	12.3	13.6	11.1	15.9	6.5	8.8	10.7	11.8	16.9
③ どちらとも言えない	54.9	53.0	44.4	56.3	48.2	54.9	51.9	55.6	59.3	58.9	55.9	55.1	56.7	52.4
④	20.8	17.1	20.0	22.0	19.6	23.5	21.0	14.3	17.7	24.3	20.6	25.0	19.8	16.9
⑤ 賛成	5.2	2.4	8.9	5.9	8.9	1.9	4.9	0.0	3.5	9.3	11.8	5.6	5.3	4.2
計	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9
(8) 専門分野別の認証評価制度	(N) 710	165	45	494	112	162	81	63	112	108	37 ***	196	265	190
① 反対	6.9	9.7	4.4	6.3	3.6	9.9	7.4	17.5	3.6	0.9	8.1	4.1	8.3	7.9
②	12.8	14.5	15.6	12.1	15.2	8.6	11.1	15.9	17.0	7.4	13.5	10.2	13.2	15.8
③ どちらとも言えない	50.8	50.9	44.4	51.6	53.6	55.6	51.9	50.8	49.1	48.1	48.6	55.6	47.5	48.9
④	23.8	20.0	24.4	24.5	25.9	22.8	25.9	9.5	24.1	32.4	18.9	24.5	25.3	21.6
⑤ 賛成	5.6	4.8	11.1	5.5	1.8	3.1	3.7	6.3	6.3	11.1	10.8	5.6	5.7	5.8

	計	99.9	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(9) 機関別の認証評価制度	(N)	708	165	45	492	112	162	82	63	112	107	35 ***	194	265	190	
① 反対		5.5	9.1	4.4	4.5	3.6	7.4	3.7	20.6	5.4	0.0	0.0	2.6	5.7	8.4	
②		13.3	12.1	8.9	14.2	16.1	8.6	14.6	17.5	11.6	8.4	22.9	12.9	15.5	12.1	
③ どちらとも言えない		53.5	55.2	48.9	53.7	55.4	57.4	50.0	54.0	56.3	50.5	45.7	52.6	52.5	53.2	
④		22.3	19.4	28.9	22.2	19.6	23.5	29.3	6.3	19.6	29.9	22.9	25.8	21.1	22.6	
⑤ 賛成		5.4	4.2	8.9	5.5	5.4	3.1	2.4	1.6	7.1	11.2	8.6	6.2	5.3	3.7	
計		100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	
(10) 3つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）の設定	(N)	707	162	45	494	112	161	81	61	113	107	37 **	197	264	188	
① 反対		2.4	2.5	2.2	2.4	1.8	3.7	0.0	6.6	0.9	0.9	5.4	2.5	2.3	2.1	
②		5.7	6.2	6.7	5.5	8.0	6.2	4.9	9.8	6.2	0.9	0.0	5.1	6.8	4.3	
③ どちらとも言えない		32.5	35.8	37.8	31.2	27.7	28.6	37.0	42.6	46.0	27.1	32.4	24.9	33.3	39.4	
④		40.6	41.4	33.3	40.5	38.4	44.1	40.7	34.4	31.0	45.8	43.2	43.7	40.5	36.2	
⑤ 賛成		18.8	14.2	20.0	20.4	24.1	17.4	17.3	6.6	15.9	25.2	18.9	23.9	17.0	18.1	
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	99.9	100.1	
(11) 日本学術会議が検討している専門分野別参照基準の設定	(N)	703	163	45	488	112	162	81	61	111	104	36 **	193	263	188	
① 反対		4.3	6.1	8.9	3.1	1.8	6.8	3.7	11.5	0.9	0.0	8.3	2.1	4.2	6.4	
②		9.2	9.2	11.1	9.0	9.8	10.5	9.9	18.0	8.1	3.8	11.1	8.8	11.0	7.4	
③ どちらとも言えない		60.9	57.7	55.6	62.9	65.2	60.5	61.7	49.2	69.4	58.7	58.3	60.1	63.1	62.8	
④		22.2	24.5	20.0	21.3	21.4	19.1	16.0	21.3	19.8	32.7	16.7	23.8	19.4	20.7	
⑤ 賛成		3.4	2.5	4.4	3.7	1.8	3.1	8.6	0.0	1.8	4.8	5.6	5.2	2.3	2.7	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(12) 設置審査の厳格化	(N)	711	164	46	494	112	160	82	62	113	108	37 **	197	266	188	
① 反対		4.9	6.1	6.5	4.5	1.8	3.8	3.7	14.5	3.5	7.4	5.4	4.6	4.5	6.4	
②		9.8	7.9	15.2	10.1	19.6	6.3	8.5	14.5	7.1	6.5	18.9	11.2	8.6	10.1	
③ どちらとも言えない		48.9	51.2	39.1	49.6	43.8	53.1	42.7	43.5	57.5	44.4	51.4	44.2	55.3	47.9	
④		26.4	25.0	23.9	26.5	26.8	26.3	34.1	14.5	24.8	30.6	18.9	28.9	24.1	25.5	
⑤ 賛成		9.8	9.8	15.2	9.3	8.0	10.6	11.0	12.9	7.1	11.1	5.4	11.2	7.5	10.1	
計		99.8	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	
(13) 社会的・職業的自立に向けた指導等（キャリアガイダンス）の義務化	(N)	709	165	45	493	112	162	80	63	113	108	36 *	197	263	189 *	
① 反対		4.4	5.5	4.4	4.1	5.4	3.7	3.8	14.3	2.7	1.9	2.8	2.0	3.0	7.4	
②		10.4	10.9	11.1	10.1	17.0	11.1	8.8	14.3	8.8	4.6	11.1	9.6	10.3	10.1	
③ どちらとも言えない		39.6	46.1	42.2	37.1	35.7	41.4	35.0	44.4	44.2	39.8	47.2	35.5	38.0	46.6	
④		35.5	29.1	31.1	38.3	33.9	32.1	41.3	19.0	35.4	43.5	30.6	41.6	38.8	26.5	
⑤ 賛成		10.0	8.5	11.1	10.3	8.0	11.7	11.3	7.9	8.8	10.2	8.3	11.2	9.9	9.5	
計		99.9	100.1	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.1	
(14) 教育に関する情報公開の義務化	(N)	709	164	45	494	112	159	82	64	112	108	37	195	266	188 *	
① 反対		2.0	2.4	0.0	2.0	2.7	2.5	1.2	3.1	1.8	0.9	0.0	0.5	3.4	1.6	
②		5.4	6.1	13.3	4.3	8.9	5.0	3.7	7.8	4.5	3.7	2.7	4.6	4.5	7.4	
③ どちらとも言えない		41.7	44.5	40.0	41.1	39.3	44.0	42.7	45.3	42.9	40.7	48.6	33.8	45.9	43.1	
④		40.1	36.0	26.7	42.5	36.6	40.3	46.3	34.4	41.1	38.9	37.8	47.2	37.2	36.2	
⑤ 賛成		10.9	11.0	20.0	10.1	12.5	8.2	6.1	9.4	9.8	15.7	10.8	13.8	9.0	11.7	
計		100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	
(15) 授業15週＋試験1週という学年暦の設定	(N)	715	165	46	497	112	162	82	64	114	107	37	197	266	193	
① 反対		25.9	23.6	30.4	26.2	33.0	26.5	20.7	37.5	19.3	20.6	24.3	24.4	27.4	24.4	
②		22.0	22.4	23.9	21.3	20.5	19.1	22.0	21.9	26.3	19.6	29.7	22.3	24.8	19.2	
③ どちらとも言えない		31.7	32.7	28.3	32.2	28.6	37.0	39.0	23.4	28.1	34.6	27.0	29.9	29.7	35.8	
④		14.3	16.4	10.9	13.7	12.5	12.3	15.9	14.1	19.3	13.1	13.5	13.7	13.9	14.5	
⑤ 賛成		6.2	4.8	6.5	6.6	5.4	4.9	2.4	3.1	7.0	12.1	5.4	9.6	4.1	6.2	
計		100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	100.1	

VII-B. 「学士課程教育」という余語のイメージについて伺います(当てはまるもの全てに✓を付けて下さい)。

	総計	設置形態			専門分野							学力				
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め		
(N)																
(1) 専門教育よりも教養教育（あるいは共通教育）を中心とする	26.5	18.8	34.8	28.6 *	29.8	27.2	21.7	34.9	26.5	22.9	27.0		32.0	25.6	22.3	
(2) 正課教育だけでなく課外活動も含む	29.0	23.6	10.9	32.2 **	31.6	29.0	32.5	17.5	25.7	37.6	32.4		36.0	28.9	22.8 *	
(3) 知識の獲得よりも能力の伸長を重視する	39.1	32.1	26.1	42.6 *	38.6	39.5	37.3	36.5	45.1	38.5	29.7		44.0	39.5	31.6 *	
(4) 教養教育と専門教育が有機的に連携している	72.6	74.5	71.7	71.8	74.6	72.8	73.5	63.5	71.7	78.9	64.9		78.0	71.8	69.4	
(5) 教養教育と専門教育の区別をしない4年間の一貫教育である	33.7	34.5	43.5	32.0	37.7	30.9	39.8	19.0	34.5	34.9	29.7		32.5	31.6	37.8	
(6) 専門分野が同じであれば、大学を問わず全学生に共通して提供すべき教育内容が	46.1	46.7	43.5	45.8	44.7	46.3	48.2	47.6	41.6	48.6	48.6		50.5	45.1	45.1	
(7) 大学であれば、専門分野を問わず全学生に共通して提供すべき教育内容が存在す	47.5	45.5	54.3	47.2	51.8	47.5	37.3	50.8	45.1	47.7	51.4		50.5	44.7	47.2	
(8) 専門分野ごとに、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある	60.0	66.1	50.0	59.2	61.4	52.5	66.3	65.1	58.4	61.5	64.9		58.0	61.3	63.2	
(9) 専門分野を問わず、全卒業生に共通して要求される最低水準の学習成果がある	45.0	37.6	41.3	47.6	51.8	45.1	32.5	44.4	44.2	44.0	62.2		51.0	44.4	39.4	
yes%																

VIII. 今後の貴学科のカリキュラムのあり方に対するご意見を伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力		
		国立	公立	私立	人文	社会	理学	工学	保健	教育	家政	低め	平均	高め

(1) 担当教員

	(N)	715	164	45	499	115	161	81	64	112	108	37 ***	201	264	191
① 教養教育と専門教育との担当教員を分けるべき		19.7	13.4	28.9	20.6	9.6	15.5	8.6	20.3	28.6	31.5	27.0	20.4	20.8	15.7
②		23.1	25.0	17.8	23.2	16.5	23.0	18.5	21.9	29.5	26.9	21.6	24.9	20.1	27.2
③		34.3	34.1	26.7	34.9	36.5	44.7	34.6	32.8	25.0	29.6	24.3	33.3	33.3	34.0
④ どの教員も教養教育と専門教育を担当すべき		22.9	27.4	26.7	21.2	37.4	16.8	38.3	25.0	17.0	12.0	27.0	21.4	25.8	23.0
計		100.0	99.9	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9
(2) 専門教育の内容	(N)	705	162	45	491 ***	113	159	82	64	109	106	36 *	198	262	188 ***
① 専門教育の内容を学際的にすべき		8.4	4.3	8.9	9.8	13.3	6.3	8.5	4.7	10.1	7.5	2.8	10.6	9.2	4.3
②		37.7	24.1	26.7	43.6	44.2	43.4	28.0	25.0	43.1	34.0	25.0	51.0	36.3	26.6
③		41.0	52.5	42.2	36.9	32.7	40.9	48.8	53.1	37.6	42.5	47.2	27.8	43.1	50.5
④ 専門教育の内容を高度化すべき		12.9	19.1	22.2	9.8	9.7	9.4	14.6	17.2	9.2	16.0	25.0	10.6	11.5	18.6
計		100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(3) 授業科目	(N)	704	161	43	494 ***	112	158	81	62	111	108	37 ***	200	260	188 ***
① 学士課程において実践的な授業科目を多くすべき		12.9	9.9	11.6	14.2	10.7	10.1	13.6	6.5	13.5	17.6	24.3	15.5	14.2	9.6
②		46.2	32.9	25.6	52.0	42.9	55.7	44.4	29.0	50.5	40.7	45.9	57.5	47.7	30.9
③		33.8	42.9	51.2	29.4	40.2	30.4	30.9	45.2	28.8	38.9	18.9	24.5	30.4	48.9
④ 学士課程において理論的・アカデミックな授業科目を多くすべき		7.1	14.3	11.6	4.5	6.3	3.8	11.1	19.4	7.2	2.8	10.8	2.5	7.7	10.6
計		100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(4) 履修単位数	(N)	697	159	41	491	112	154	81	62	110	107	37	198	260	182
① 専門教育の履修単位数を増加すべき		7.9	10.1	7.3	7.3	5.4	7.1	7.4	3.2	9.1	10.3	13.5	6.1	9.6	6.6
②		62.1	64.8	56.1	61.5	58.0	64.9	64.2	62.9	63.6	56.1	62.2	60.6	61.9	64.8
③		26.8	23.3	26.8	28.1	29.5	26.0	28.4	25.8	26.4	31.8	21.6	29.8	27.5	27.5
④ 教養教育の履修単位数を増加すべき		3.2	1.9	9.8	3.1	7.1	1.9	0.0	8.1	0.9	1.9	2.7	3.5	1.1	1.1
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(5) 実施体制	(N)	710	162	44	497 **	112	160	82	63	112	107	37	201	261	190
① 教養教育は学科で個別に実施すべき		5.5	3.7	11.4	5.4	5.4	6.9	4.9	1.6	2.7	9.3	8.1	5.0	6.1	5.3
②		13.5	6.8	6.8	16.5	11.6	10.6	14.6	11.1	14.3	20.6	10.8	13.9	14.6	12.1
③		41.8	38.9	45.5	42.7	46.4	46.9	37.8	38.1	37.5	39.3	35.1	41.8	39.8	44.2
④ 教養教育は全学的に実施すべき		39.2	50.6	36.4	35.4	36.6	35.6	42.7	49.2	45.5	30.8	45.9	39.3	39.5	38.4
計		100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 履修原理	(N)	706	161	43	495 *	112	160	81	62	110	108	36	201	259	186
① 学生の科目選択の幅を拡大すべき		10.6	6.2	20.9	11.1	8.9	12.5	9.9	4.8	7.3	13.9	16.7	10.9	10.8	10.8
②		45.5	41.6	44.2	46.3	46.4	51.3	44.4	46.8	33.6	45.4	55.6	47.8	45.6	46.2
③		36.8	43.5	23.3	36.4	37.5	28.8	40.7	38.7	52.7	33.3	22.2	32.8	37.1	37.6
④ 学生の必修科目を増加すべき		7.1	8.7	11.6	6.3	7.1	7.5	4.9	9.7	6.4	7.4	5.6	8.5	6.6	5.4
計		100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0
(7) 教養教育の内容	(N)	705	159	44	496 **	112	160	82	61	110	108	36	201	261	189 ***
① 教養教育において基礎スキル（語学や情報リテラシー）を重視すべき		12.5	10.1	13.6	13.3	16.1	11.3	7.3	9.8	14.5	14.8	8.3	15.9	14.9	6.9
②		41.1	32.1	22.7	45.6	38.4	50.0	32.9	31.1	36.4	46.3	44.4	51.2	34.1	36.5
③		34.6	41.5	45.5	31.7	33.0	31.3	42.7	44.3	38.2	28.7	33.3	24.4	36.4	42.9
④ 教養教育は幅広い学問的知識を重視すべき		11.9	16.4	18.2	9.5	12.5	7.5	17.1	14.8	10.9	10.2	13.9	8.5	14.6	13.8
計		100.1	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1
(8) 教養教育と専門教育	(N)	700	159	41	493	112	158	81	63	107	107	36	201	256	185
① 教養教育として専門教育とあまりかかわりを持たない内容が重要		4.6	3.8	9.8	4.1	6.3	1.3	1.2	7.9	6.5	3.7	5.6	6.5	2.7	5.4
②		24.9	27.0	24.4	24.3	24.1	24.7	27.2	28.6	25.2	23.4	25.0	17.4	25.8	28.6
③		56.7	57.2	51.2	57.0	57.1	60.1	58.0	58.7	57.9	50.5	50.0	61.2	57.0	54.6
④ 教養教育として専門教育とかかわりの深い内容が重要		13.9	11.9	14.6	14.6	12.5	13.9	13.6	4.8	10.3	22.4	19.4	14.9	14.5	11.4
計		100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(9) カリキュラムの水準	(N)	705	161	44	493 ***	111	159	81	62	111	108	36 **	201	256	189 ***
① 学生の学力水準に合わせてカリキュラムを編成すべき		9.2	5.6	9.1	10.5	15.3	11.3	2.5	8.1	5.4	10.2	5.6	13.9	9.0	4.8
②		39.3	28.6	18.2	44.6	37.8	41.5	32.1	40.3	44.1	37.0	44.4	48.8	39.8	28.6
③		41.1	53.4	54.5	36.1	39.6	37.7	59.3	48.4	37.8	38.0	25.0	30.3	40.6	54.0
④ 学科の要求水準を前提にしてカリキュラムを編成すべき		10.4	12.4	18.2	8.7	7.2	9.4	6.2	3.2	12.6	14.8	25.0	7.0	10.5	12.7
計		100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1
(10) 専門教育	(N)	704	161	44	492 *	113	158	81	62	111	106	36 **	200	256	189 *
① 専門教育は大学院で実施すべき		9.9	6.2	20.5	10.0	8.0	10.8	3.7	12.9	9.0	9.4	16.7	15.5	8.2	8.5
②		46.4	48.7	27.3	47.6	47.8	44.9	49.4	46.8	55.9	39.6	25.0	51.0	45.3	43.4
③		37.4	36.6	45.5	36.8	39.8	41.1	42.0	40.3	29.7	36.8	38.9	28.0	40.6	41.3
④ 専門教育は学士課程で完結すべき		6.3	7.5	6.8	5.7	4.4	3.2	4.9	0.0	5.4	14.2	19.4	5.5	5.9	6.9
計		100.0	99.0	100.1	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1

IX. 貴学科の概要について伺います。

(1) 大学・学部・学科の名称を教えてください。

総計	設置形態			専門分野						学力			
	国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め
(2) 貴学の設置形態													

	(N)	717	166	46	505 ***	114	162	81	64	114	109	37 ***	200	265	193 ***	
国立		23.1	100.0	0.0	0.0	7.9	16.0	39.5	50.0	38.6	12.8	5.4	5.0	20.8	45.1	
公立		6.4	0.0	100.0	0.0	4.4	4.9	2.5	6.3	5.3	11.9	8.1	0.5	4.5	15.5	
私立		70.4	0.0	0.0	100.0	87.7	79.0	58.0	43.8	56.1	75.2	86.5	94.5	74.7	39.4	
計		99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(3) 貴学の学部等（学生の所属組織）の数																
	(N)	695	157	43	492 ***	111	159	80	60	107	106	36 ***	201	257	180 ***	
1学部		15.4	14.0	20.9	15.2	11.7	15.1	21.3	3.3	12.1	22.6	19.4	22.4	11.3	13.9	
2~4学部		39.1	25.5	37.2	43.7	37.8	34.6	47.5	15.0	29.0	50.0	69.4	47.3	40.9	30.0	
5学部以上		45.5	60.5	41.9	41.1	50.5	50.3	31.3	81.7	58.9	27.4	11.1	30.3	47.9	56.1	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	
(4) 貴学部の学科数																
	(N)	707	158	46	499 ***	113	159	77	64	113	109	36 ***	201	259	189 ***	
1学科		13.9	12.7	6.5	15.0	9.7	25.2	26.0	3.1	0.9	14.7	8.3	18.4	11.2	12.7	
2学科		24.6	17.1	23.9	26.9	19.5	44.0	23.4	3.1	2.7	34.9	25.0	27.9	23.2	23.3	
3学科		18.2	8.9	15.2	21.6	34.5	13.2	16.9	10.9	8.0	19.3	36.1	17.9	24.7	9.0	
4学科		12.2	13.9	17.4	11.0	13.3	8.8	15.6	12.5	11.5	11.9	13.9	11.9	12.7	12.2	
5学科以上		31.1	47.5	37.0	25.5	23.0	8.8	18.2	70.3	77.0	19.3	16.7	23.9	28.2	42.9	
計		100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	
(5) 貴学科の設置年																
	(N)		161	45	499 ***	111	161	81	63	113	106	37 ***	201	264	186 ***	
1949年以前		9.0	15.5	4.4	7.4	9.9	6.8	11.1	25.4	8.0	2.8	13.5	2.5	5.3	22.6	
1950~1990		28.7	28.0	17.8	30.1	31.5	33.5	25.9	33.3	47.8	5.7	21.6	30.8	29.5	23.1	
1991~2000年		21.3	29.2	28.9	17.8	18.0	21.7	17.3	19.0	14.2	32.1	21.6	17.4	23.1	22.6	
2000年以降		41.0	27.3	48.9	44.7	40.5	37.9	45.7	22.2	30.1	59.4	43.2	49.3	42.0	31.7	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	
(6) 貴学科の設置経緯																
	(N)	683	154	46	478 ***	110	152	79	60	105	107	35	193	250	185	
① 大学・学部新設時に設置		46.9	31.8	63.0	50.0	50.0	50.0	40.5	43.3	41.0	51.4	57.1	51.8	44.8	46.5	
② 学科増で新設		24.0	20.1	10.9	26.8	20.9	24.3	30.4	28.3	26.7	24.3	5.7	24.4	25.2	20.0	
③ 届出改組		29.1	48.1	26.1	23.2	29.1	25.7	29.1	28.3	32.4	24.3	37.1	23.8	30.0	33.5	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(7) 貴学科が所在する都道府県																
(8) 貴学科の立地条件																
	(N)	706	160	45	495	112	160	83	61	111	108	36 ***	197	261	189 ***	
① 三大都市圏		36.1	22.5	28.9	41.4	46.4	45.6	31.3	39.3	31.5	18.5	44.4	23.9	37.5	46.6	
② 都市圏		31.4	31.3	40.0	30.9	32.1	27.5	33.7	34.4	30.6	31.5	36.1	34.0	31.0	32.3	
③ それ以外の地域		32.4	46.3	31.1	27.7	21.4	26.9	34.9	26.2	37.8	50.0	19.4	42.1	31.4	21.2	
計		99.9	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.1	
(9) 貴学科への通学の便																
	(N)	712	163	44	499	115	161	83	63	113	109	35 ***	197	264	192 ***	
① わるい		20.5	15.3	20.5	22.2	13.9	19.9	20.5	14.3	16.8	37.6	14.3	29.4	20.1	9.9	
② 普通		44.4	49.7	45.5	42.5	45.2	42.2	50.6	39.7	49.6	39.4	31.4	47.7	46.6	38.5	
③ よい		35.1	35.0	34.1	35.3	40.9	37.9	28.9	46.0	33.6	22.9	54.3	22.8	33.3	51.6	
計		100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	
(10) 貴学部の平成22年度における第1学年の入学人数を教えてください。																
	(N)	699	161	44	488 ***	114	156	77	64	110	106	37 ***	196	261	186 ***	
① ~100人		10.9	4.3	22.7	12.1	11.4	8.3	15.6	0.0	3.6	22.6	16.2	19.9	5.0	9.1	
② 101~200人		16.7	14.3	34.1	16.2	13.2	16.0	20.8	20.3	6.4	20.8	27.0	21.9	13.4	16.7	
③ 201~300人		26.3	37.9	22.7	22.5	29.8	26.3	28.6	35.9	11.8	27.4	29.7	21.4	31.8	26.3	
④ 301~400人		11.7	9.3	2.3	13.1	12.3	16.7	14.3	12.5	6.4	9.4	8.1	12.2	11.9	10.8	
⑤ 401~500人		10.9	11.2	13.6	10.7	12.3	11.5	5.2	6.3	18.2	8.5	13.5	9.2	13.4	6.5	
⑥ 501~1000人		18.3	19.9	2.3	19.3	18.4	18.6	7.8	14.1	40.0	10.4	5.4	13.3	19.9	23.1	
⑦ 1001人~		5.2	3.1	2.3	6.1	2.6	2.6	7.8	10.9	13.6	0.9	0.0	2.0	4.6	7.5	
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	
(11) 貴学科の平成22年度における1学年の入学人数																
	(N)	687	158	46	479	111	151	75	65	108	106	37 ***	190	255	188	
① ~10人		2.9	1.9	2.2	3.3	3.6	1.3	4.0	0.0	4.6	2.8	5.4	5.3	2.4	1.6	
② 11~20人		2.3	3.2	6.5	1.7	2.7	0.7	4.0	1.5	0.9	5.7	2.7	2.1	1.6	3.2	
③ 21~30人		3.6	7.6	8.7	1.9	1.8	0.0	8.0	12.3	1.9	2.8	8.1	3.2	2.7	5.3	
④ 31~40人		6.3	9.5	19.6	4.0	3.6	2.6	4.0	16.9	2.8	13.2	0.0	4.7	5.1	10.1	
⑤ 41~50人		7.7	6.3	21.7	6.7	6.3	2.6	5.3	16.9	2.8	16.0	8.1	9.5	5.9	8.0	
⑥ 51~100人		32.2	34.8	23.9	32.4	35.1	23.2	25.3	35.4	49.1	23.6	45.9	36.8	32.5	26.6	
⑦ 101~200人		32.3	27.8	8.7	35.9	38.7	39.7	24.0	15.4	34.3	31.1	24.3	28.9	34.5	34.0	
⑧ 201人~		12.7	8.9	8.7	14.2	8.1	29.8	25.3	1.5	3.7	4.7	5.4	9.5	15.3	11.2	
計		100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(12) 貴学科の専門領域に最も近いもの																
	(N)	710	163	44	497 ***	115	163	83	65	114	109	37 ***	199	263	189 ***	
① 人文科学系		16.2	5.5	11.4	20.1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.6	19.8	11.1	
② 社会科学系		23.0	16.0	18.2	25.8	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.1	19.0	21.7	
③ 教育学系（体育を含む）		11.7	19.6	4.5	9.5	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	13.3	13.2	
④ 理学系		9.2	19.6	9.1	5.6	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	5.0	8.7	14.3	
⑤ 工学系		16.1	27.0	13.6	12.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	17.1	16.7	16.4	
⑥ 農学系		0.8	1.2	2.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	
⑦ 医歯薬学系		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
⑧ 保健・福祉系		15.3	8.6	29.5	16.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	17.1	11.0	18.5	
⑨ 芸術系		0.6	0.0	2.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	

⑩ 家政系	5.2	1.2	6.8	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	5.0	7.6	3.2	
⑪ その他	2.0	1.2	2.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	1.1	0.5	
計	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.8	100.0	
(13) 貴学科の卒業生の進路	(N)	721	165	45	505 **	115	163	83	65	114	109	37 ***	202	266	194
① 特定の専門職に就く者ばかりではない	62.8	54.5	51.1	66.1	93.9	95.1	38.6	84.6	36.0	15.6	54.1	67.3	62.4	58.2	
② 基本的には特定の専門職に就くことが想定されている	37.2	45.5	48.9	33.9	6.1	4.9	61.4	15.4	64.0	84.4	45.9	32.7	37.6	41.8	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(14) 貴学科の卒業生の大半が受験資格を得ると想定されている国家資格	(N)	703	163	43	492 *	114	160	77	65	110	106	36 ***	201	261	185
① 特にない	66.6	70.6	46.5	67.1	88.6	91.9	66.2	84.6	64.5	4.7	30.6	65.2	69.0	64.9	
② ある	33.4	29.4	53.5	32.9	11.4	8.1	33.8	15.4	35.5	95.3	69.4	34.8	31.0	35.1	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(15) 認証評価の受審状況を教えてください。	(N)	655	142	45	463	103	150	79	52	100	104	34 ***	190	246	166 ***
① これまでに2回以上受審	17.9	19.7	20.0	16.8	20.4	14.0	15.2	23.1	33.0	8.7	14.7	10.5	22.4	21.1	
② 本年(2010年度)2回目を受審中	7.5	4.2	8.9	8.4	11.7	10.0	1.3	9.6	7.0	4.8	5.9	12.1	4.5	6.0	
③ これまでに1回受審	53.4	59.2	53.3	51.6	55.3	56.7	55.7	51.9	40.0	54.8	58.8	48.4	56.1	54.8	
④ 本年1回目を受審中	9.8	4.2	11.1	11.4	6.8	12.0	10.1	7.7	5.0	13.5	17.6	19.5	5.7	4.8	
⑤ (新設等の関係で)未受審	11.5	12.7	6.7	11.7	5.8	7.3	17.7	7.7	15.0	18.3	2.9	9.5	11.4	13.3	
計	100.1	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.0	
(16) 平成22年度の就業力育成支援GPの申請・採択状況(貴学科が関わっていれば申請の単位は問いません。以下2問も同様)。	(N)	627	142	41	440	102	136	71	55	99	99	33 *	183	220	176
① 申請していない	75.1	81.0	68.3	74.1	81.4	65.4	71.8	89.1	80.8	75.8	60.6	75.4	70.9	82.4	
② 申請はしたが採択されなかった	12.9	11.3	22.0	12.7	9.8	18.4	14.1	5.5	9.1	12.1	24.2	12.6	16.4	9.1	
③ 採択された	12.0	7.7	9.8	13.2	8.8	16.2	14.1	5.5	10.1	12.1	15.2	12.0	12.7	8.5	
計	100.0	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(17) 平成21年度学生支援GPの申請・採択状況	(N)	665	153	41	467 **	108	151	77	57	104	101	35 *	196	243	174 **
① 申請していない	67.4	73.2	70.7	65.3	75.9	60.9	63.6	80.7	75.0	61.4	57.1	62.8	63.4	77.0	
② 申請はしたが採択はされなかった	15.2	16.3	24.4	13.9	12.0	16.6	16.9	5.3	12.5	23.8	14.3	12.8	19.8	10.9	
③ 採択された	17.4	10.5	4.9	20.8	12.0	22.5	19.5	14.0	12.5	14.9	28.6	24.5	16.9	12.1	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0	
(18) それ以外の各種GP(特色GP、現代GP、教育GP)の申請・採択状況	(N)	649	150	43	452 ***	104	151	75	52	102	99	32 ***	194	231	176 *
① 申請したことがない	43.9	31.3	37.2	48.9	62.5	42.4	32.0	48.1	50.0	35.4	46.9	45.4	43.7	45.5	
② 申請はしているが採択はない	25.0	19.3	20.9	27.0	22.1	27.8	26.7	21.2	8.8	33.3	31.3	30.9	25.1	15.3	
③ 1件採択された	18.6	29.3	27.9	14.4	10.6	15.2	20.0	19.2	25.5	19.2	15.6	14.4	18.2	23.3	
④ 2件以上採択された	12.5	20.0	14.0	9.7	4.8	14.6	21.3	11.5	15.7	12.1	6.3	9.3	13.0	15.9	
計	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(19) 貴学科の学生の学力は平均して、全国レベルで見てもどのあたりに位置するとお考えですか。	(N)	663	152	43	463 ***	110	145	72	60	109	98	36 **	202	266	195 ***
① 低い	5.9	0.7	2.3	8.0	0.9	7.6	5.6	6.7	7.3	8.2	5.6	19.3	0.0	0.0	
②	24.6	5.9	0.0	32.8	32.7	29.7	11.1	10.0	23.9	26.5	22.2	80.7	0.0	0.0	
③ 平均	40.1	36.2	27.9	42.8	47.3	34.5	48.6	38.3	40.4	29.6	55.6	0.0	100.0	0.0	
④	21.4	34.9	51.2	14.3	15.5	20.0	25.0	31.7	17.4	28.6	13.9	0.0	0.0	72.8	
⑤ 高い	8.0	22.4	18.6	2.2	3.6	8.3	9.7	13.3	11.0	7.1	2.8	0.0	0.0	27.2	
計	100.0	100.1	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

X. 学科長ご自身について伺います。

	総計	設置形態			専門分野							学力			
		国立	公立	私立	人文	社会	教育	理学	工学	保健	家政	低め	平均	高め	
(1) 最終取得学位	(N)	705	161	44	492 ***	112	156	81	64	113	106	36 ***	199	255	191 ***
① 博士	64.5	87.0	79.5	56.1	45.5	47.4	43.2	98.4	95.6	68.9	75.0	53.8	64.3	77.5	
② 修士	28.7	11.8	20.5	34.8	47.3	46.8	45.7	1.6	4.4	19.8	13.9	37.7	28.6	18.8	
③ 学士	6.5	1.2	0.0	8.7	7.1	5.8	11.1	0.0	0.0	10.4	8.3	8.5	6.7	3.1	
④ それ以外	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	2.8	0.0	0.4	0.5	
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	
(2) 最終取得学位を得た大学	(N)	699	161	43	487 **	110	155	81	64	113	105	35 ***	197	252	190 ***
① 現在勤務している大学	9.7	19.3	9.3	6.8	9.1	7.7	8.6	12.5	10.6	14.3	5.7	1.0	6.7	190.0	
② 国内の大学(①を除く)	83.7	76.4	88.4	85.4	75.5	84.5	82.7	84.4	88.5	80.0	91.4	93.9	84.9	23.2	
③ 海外の大学	6.6	4.3	2.3	7.7	15.5	7.7	8.6	3.1	0.9	5.7	2.9	5.1	8.3	71.1	
計	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	5.8	
(3) 学科長に就任されてからの年数	(N)	695	158	44	485 ***	110	154	80	64	111	106	35 ***	197	252	188 **
1年以下	45.5	61.4	47.7	40.2	41.8	42.9	47.5	75.0	63.1	23.6	37.1	35.5	44.4	57.4	
2年	22.9	20.3	22.7	23.7	23.6	30.5	18.8	7.8	23.4	25.5	14.3	24.9	23.4	19.1	
3年以上	31.7	18.4	29.5	36.1	34.5	26.6	33.8	17.2	13.5	50.9	48.6	39.6	32.1	23.4	
計	100.1	100.1	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9	
(4) 大学教員としての勤務年数	(N)	527	160	44	485 **	112	153	80	64	110	107	36	197	253	189
15年以下	31.6	21.3	25.0	35.7	27.7	35.3	25.0	26.6	31.8	40.2	27.8	36.5	31.6	28.6	
16~24年	32.5	31.9	45.5	31.3	36.6	37.9	28.8	37.5	30.0	27.1	22.2	29.9	31.6	35.4	
25年以上	35.9	46.9	29.5	33.0	35.7	26.8	46.3	35.9	38.2	32.7	50.0	33.5	36.8	36.0	
計	100.0	100.1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0	100.0	

(5) 現在の勤務校における教務関連委員の経験															
	(N)	705	161	44	492	112	155	81	64	113	107	36	200	255	191
①	ない	25.7	20.5	25.0	27.6	17.9	22.6	28.4	23.4	26.5	33.6	33.3	25.5	24.3	25.7
②	ある	74.3	79.5	75.0	72.6	82.1	77.4	71.6	76.6	73.5	66.4	66.7	74.5	75.7	74.3
	計	100.0	100.0	100.0	100.2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(6) 現在の勤務校におけるFD関連委員の経験															
	(N)	703	161	44	490	112	154	81	64	112	107	36	199	255	190
①	ない	56.8	54.0	50.0	58.4	58.9	55.8	58.0	59.4	58.9	53.3	52.8	52.3	57.6	60.5
②	ある	43.2	46.0	50.0	41.6	41.1	44.2	42.0	40.6	41.1	46.7	47.2	47.7	42.4	39.5
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(7) 大学教育に関する研究会やフォーラムへの参加経験															
	(N)	702	161	44	489	112	154	81	64	113	106	35 *	200	253	191
①	ない	23.9	18.0	18.2	26.4	28.6	27.3	11.1	35.9	25.7	17.9	22.9	26.0	21.7	24.1
②	ある	70.8	75.8	77.3	68.7	68.8	66.2	82.7	57.8	71.7	76.4	68.6	70.0	73.1	70.7
③	定期的に参加している	5.3	6.2	4.5	4.9	2.7	6.5	6.2	6.3	2.7	5.7	8.6	4.0	5.1	5.2
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	99.9	100.0
(8) 各種GPの審査にかかわった経験															
	(N)	697	158	44	487 **	110	153	80	64	111	106	36	200	252	188
①	ない	94.3	96.2	84.1	94.5	94.5	94.1	92.5	95.3	95.5	95.3	91.7	94.5	93.7	95.2
②	ある	5.7	3.8	15.9	5.5	5.5	5.9	7.5	4.7	4.5	4.7	8.3	5.5	6.3	4.8
③	ほぼ毎年係わっている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(9) 学士課程教育の改革への関心															
	(N)	704	160	44	492	112	155	81	64	112	107	36	200	255	190
①	まったくない	1.3	1.3	0.0	1.4	1.8	1.9	0.0	1.6	0.9	0.9	2.8	1.0	0.8	2.6
②	ない	6.1	5.0	11.4	6.1	7.1	4.5	2.5	9.4	7.1	4.7	13.9	5.0	7.4	6.3
③	ある	75.9	75.0	63.6	77.4	76.8	73.5	81.5	81.3	80.4	72.0	72.2	73.0	77.3	73.2
④	とてもある	16.8	18.8	25.0	15.0	14.3	20.0	16.0	7.8	11.6	22.4	11.1	21.0	14.5	17.9
	計	100.1	100.1	100.0	99.9	100.0	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(10) 近年の学士課程教育の改革について、お考えがありましたらお聞かせ下さい。〔自由記述〕															
	(N)	733													
①	記述なし	81.2													
②	記述あり	18.8													
	計	100.0													